清武町埋蔵文化財調査報告書　第25集

KIYOTAKE　KAMIINOHARU

清武上猪ノ原遺跡

－3－

県営農地保全整備事業船引工区にかかる埋蔵文化財調査報告書

2008

清武町教育委員会

清武町埋蔵文化財調査報告書　第25集

KIYOTAKE　KAMIINOHARU

清武上猪ノ原遺跡

－3－

県営農地保全整備事業船引工区にかかる埋蔵文化財調査報告書

2008

清武町教育委員会

遺跡遠景(北から)

遺跡全景(真上から)

埋納石斧(遺物番号295・296)

序

本書は、清武町船引地区で進められている県営農地保全整備事業に伴い、平成14・15年度事業区で実施した清武上猪ノ原遺跡（第３地区）の発掘調査報告書です。

清武上猪ノ原遺跡（第３地区）では、蒸し焼き料理施設である集石遺構や意図的に埋められた埋納石斧など、縄文時代早期の遺構や遺物が数多く発見されています。

今後は、これら先人達の残した貴重な郷土の文化遺産を、学校や地域と十分な連携を図りながら授業や体験講座の教材として存分に活用し、21世紀を担う子供たちの豊かな知識と誠実な心の育成に繋げていきたいと考えております。また、一般の方々が直に資料を手にとることのできるような現地見学や歴史講座などの生涯学習の機会も積極的に設け、原始の清武人の生活をより多くの方々に感じていただけるよう努めていく所存です。

最後になりましたが、発掘調査を実施するにあたり多大な御協力をいただきました船引土地改良区をはじめとする地元の皆様に対し、心より厚く御礼申し上げます。

平成20年３月

清武町教育委員会

教育長　神川　孝志

例　言

1. 本書は、県営農地保全整備事業（船引工区）に伴い、平成14・15年度に実施された清武上猪ノ原遺跡（第３地区）の発掘調査報告書である。
2. 調査における測量・実測については、井田篤、冨田卓見及び実測補助員が行った。

（以上実測補助員）　若杉知和（宮崎大学）　＊50音順

3. 遺物・図面の整理及び報告書作成業務については、平成19年度に清武町埋蔵文化財センターで実施した（概要報告書掲載分など一部については平成15年度に実施している）。

平成19年度　担　　当：井田、秋成雅博、今村結記

整理作業員：

＊50音順

平成15年度　担　　当：井田、秋成、冨田

整理作業員：

若杉知和　＊50音順

4. 本書で使用した写真については、調査に関するものは井田、冨田が撮影し、報告書掲載遺物については井田、秋成が撮影した。又、空中写真については㈱スカイサーベイに委託した。
5. 放射性炭素年代測定及び樹種同定については、㈱古環境研究所に委託した。分析結果については、本書P94からP98に掲載している。尚、本書で使用している放射性炭素年代測定値については、加速器質量分析法による補正^{14}C年代である。
6. 石器実測及びトレースについては、一部を民間業者（岡三リビック・埋蔵文化財サポートシステム）に委託した。なおこれらの委託業務の監修については秋成が行った。
7. 本書で使用した土層及び土器等の色調については、『新版　標準土色帖（1997年後期版）』の土色に準拠した。
8. 本書では、磁北と座標北の２種類の方位を使用している。（座標北を用いる場合のみG.Nと表示している。）又、標高については海抜絶対高である。
9. 本書に使用した記号は次のとおりである。

ＳＩ：集石遺構　ＳＣ：土坑（炉穴、陥し穴状遺構も含む）　ＳＥ：溝状遺構　ＳＧ：道路状遺構

10. 本書で使用した遺物番号については、次のとおりである。

第Ⅱ章　縄文時代早期包含層出土遺物No.１～311　　遺構内出土遺物No.１～11

11. 本書で使用した土層番号については、第３図基本土層図の番号を使用している。
12. 本書の執筆と編集については井田、秋成、今村が担当し、文責については本文目次に記している。
13. 出土遺物その他諸記録は、清武町埋蔵文化財センターに保管している。

目　次

第Ⅰ章　はじめに　（文責）

第1節　調査に至る経緯と調査組織 …… 1

1. 調査に至る経緯 …… 1　（井田）

2. 調査組織 …… 1　〃

第2節　遺跡の環境 …… 1

1. 地理的環境 …… 1　（井田）

2. 歴史的環境 …… 1　〃

3. 周辺遺跡 …… 4　〃

第3節　基本土層 …… 5

第4節　調査の経緯と方法 …… 5

1. 調査の経過 …… 5　（井田）

2. 調査の方法 …… 6　〃

3. 調査日誌抄 …… 6　〃

第Ⅱ章　縄文時代早期についての調査

第1節　遺構 …… 9

1. 集石遺構 …… 9　（井田）

2. 陥し穴状遺構 …… 23　〃

3. 土坑 …… 28　〃

4. 遺構内出土遺物 …… 30　（井田・今村）

第2節　包含層出土遺物 …… 43

1. 土器 …… 43　（井田・今村）

2. 石器 …… 65　（秋成）

第Ⅲ章　その他の調査について …… 83　（井田）

第Ⅳ章　まとめ

第1節　土器と石器の分布状況から見られる特徴 …… 91　（秋成）

第2節　D区付近の空間利用について（チャート製石鏃の製作空間の想定） …… 91　〃

第3節　清武上猪ノ原遺跡（第3地区）出土の縄文時代早期前半段階土器群の意義 …… 92　（今村）

清武上猪ノ原遺跡（第3地区）における自然科学分析 …… 94～98

調査抄録 …… 99

挿 図 目 次

第１図　遺跡位置図（S=1／25000）…… 2
第２図　遺跡周辺地形図（S=1／2000）…… 3
第３図　基本土層図（S=1／30）…… 5
第４図　グリッド図及びカット図（S=1／400）…… 7
第５図　縄文時代早期遺構配置図（S=1／400）……10
第６図　縄文時代早期集石遺構実測図①（S=1／30）……13
第７図　縄文時代早期集石遺構実測図②（S=1／30）……14
第８図　縄文時代早期集石遺構実測図③（S=1／30）……15
第９図　縄文時代早期集石遺構実測図④（S=1／30）……16
第10図　縄文時代早期集石遺構実測図⑤（S=1／30）……17
第11図　縄文時代早期集石遺構実測図⑥（S=1／30）……18
第12図　縄文時代早期集石遺構実測図⑦（S=1／30）……19
第13図　縄文時代早期集石遺構実測図⑧（S=1／30）……20
第14図　縄文時代早期陥し穴状遺構実測図①（S=1／30）……25
第15図　縄文時代早期陥し穴状遺構実測図②（S=1／30）……26
第16図　縄文時代早期陥し穴状遺構実測図③（S=1／30）……27
第17図　縄文時代早期陥し穴状遺構実測図④（S=1／30）……28
第18図　縄文時代早期土坑実測図（S=1／30）……29
第19図　縄文時代早期遺構内出土遺物実測図（土器：S=1／3　石器:S=1／2,2／3）……31
第20図　縄文時代早期遺物分布図（S=1／600）……43
第21図　縄文時代早期遺物包含層出土土器分布図【形式別】(S=1／400）……46
第22図　縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図①（S=1／3）……47
第23図　縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図②（S=1／3）……48
第24図　縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図③（S=1／3）……49
第25図　縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図④（S=1／3）……50
第26図　縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図⑤（S=1／3）……51
第27図　縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図⑥（S=1／3）……52
第28図　縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図⑦（S=1／3）……53
第29図　縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図⑧（S=1／3）……54

第30図　縄文時代早期遺物包含層出土主要石器分布図【器種別】(S=1／400) …… 66
第31図　縄文時代早期遺物包含層出土主要剥片石器分布図【石材別】(S=1／400) …… 67
第32図　縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図①(S=2／3) …… 68
第33図　縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図②(S=2／3) …… 69
第34図　縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図③(S=2／3) …… 70
第35図　縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図④(S=2／3) …… 71
第36図　縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図⑤(S=2／3) …… 72
第37図　縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図⑥(S=2／3) …… 73
第38図　縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図⑦(S=2／3) …… 74
第39図　縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図⑧(S=2／3) …… 75
第40図　SC－1実測図(S=1／30) …… 84
第41図　SC－2実測図(S=1／30) …… 84
第42図　SG－2実測図【平面図】(S=1／50) …… 85
第43図　SG－2実測図【土層断面図】(S=1／25) …… 86
第44図　遺構配置図【縄文時代早期以外】(S=1／400) …… 87
第45図　清武上猪ノ原遺跡(第3地区)チャート製石鏃の製作空間想定図(S=1／600) …… 91

写真図版目次

巻頭カラー1　遺跡遠景(北から)　遺跡全景(真上から)
巻頭カラー2　埋納石斧
写真図版1　基本土層 …… 5
写真図版2　様々な調査風景 …… 8
写真図版3　縄文時代早期遺構① …… 32
写真図版4　縄文時代早期遺構② …… 33
写真図版5　縄文時代早期遺構③ …… 34
写真図版6　縄文時代早期遺構④ …… 35
写真図版7　縄文時代早期遺構⑤ …… 36
写真図版8　縄文時代早期遺構⑥ …… 37
写真図版9　縄文時代早期遺構⑦ …… 38
写真図版10　縄文時代早期遺構⑧ …… 39

写真図版11　縄文時代早期遺構⑨ …… 40
写真図版12　縄文時代早期遺構⑩ …… 41
写真図版13　遺構内出土遺物 …… 42
写真図版14　縄文時代早期遺物包含層出土土器① …… 58
写真図版15　縄文時代早期遺物包含層出土土器② …… 59
写真図版16　縄文時代早期遺物包含層出土土器③ …… 60
写真図版17　縄文時代早期遺物包含層出土土器④ …… 61
写真図版18　縄文時代早期遺物包含層出土土器⑤ …… 62
写真図版19　縄文時代早期遺物包含層出土土器⑥ …… 63
写真図版20　縄文時代早期遺物包含層出土土器⑦ …… 64
写真図版21　縄文時代早期遺物包含層出土石器① …… 78
写真図版22　縄文時代早期遺物包含層出土石器② …… 79
写真図版23　縄文時代早期遺物包含層出土石器③ …… 80
写真図版24　縄文時代早期遺物包含層出土石器④ …… 81
写真図版25　縄文時代早期遺物包含層出土石器⑤ …… 82
写真図版26　SE－1・SG－2 …… 88
写真図版27　SG－2 …… 89
写真図版28　SG－2・SC－1 …… 90

表　目　次

第 1 表　近隣遺跡発掘調査状況一覧（清武町教育委員会調査分） …… 4
第 2 表　集石遺構観察表 …… 21～23
第 3 表　陥し穴状遺構観察表 …… 24
第 4 表　遺構内出土土器観察表 …… 30
第 5 表　遺構内出土石器計測分類表 …… 30
第 6 表　縄文時代早期遺物包含層出土土器観察表 …… 55～57
第 7 表　縄文時代早期遺物包含層出土石器計測分類表 …… 75～77

第Ⅰ章　はじめに

第１節　調査に至る経緯と調査組織

１．調査に至る経緯

平成７年度より実施されている県営農地保全整備事業（船引地区）に伴い、事業区に清武上猪ノ原遺跡（第３地区）の一部が含まれることが宮崎県教育委員会文化課の試掘結果等により明らかになった。遺跡の取扱いについて、宮崎県教育委員会文化課、宮崎県中部農林振興局、船引地区土地改良区、清武町教育委員会など関係各局で協議を重ねた結果、やむを得ず削平などにより遺跡の現状保存が困難な事業区について、宮崎県中部農林振興局からの委託を受けた清武町教育委員会が発掘調査を実施することとなった。

調査は平成14年度（平成14年11月21日～平成15年３月27日）、15年度（平成15年４月７日～平成15年９月19日）の２ヶ年度にわたって行われ、調査面積については2,000㎡であった。

２．調査組織

調査主体　清武町教育委員会

調　査（平成14・15年度）

事務局	
教育長	湯地　敏郎
教育次長	小城　員久
社会教育課長	松元　一夫
〃　係長	伊東　但

調査員	
社会教育課主事	井田　篤
〃　嘱託職員	冨田　卓見

整理作業（平成19年度）

事務局	
教育長	神川　孝志
教育次長	児玉　秀樹
生涯学習課長	長友　公泰
〃　課長補佐	内藤　和弘
〃　係長	伊東　但

調査員	
生涯学習課主任	井田　篤
〃　主事	秋成　雅博
〃　嘱託職員	今村　結記

第２節　遺跡の環境

１．地理的環境

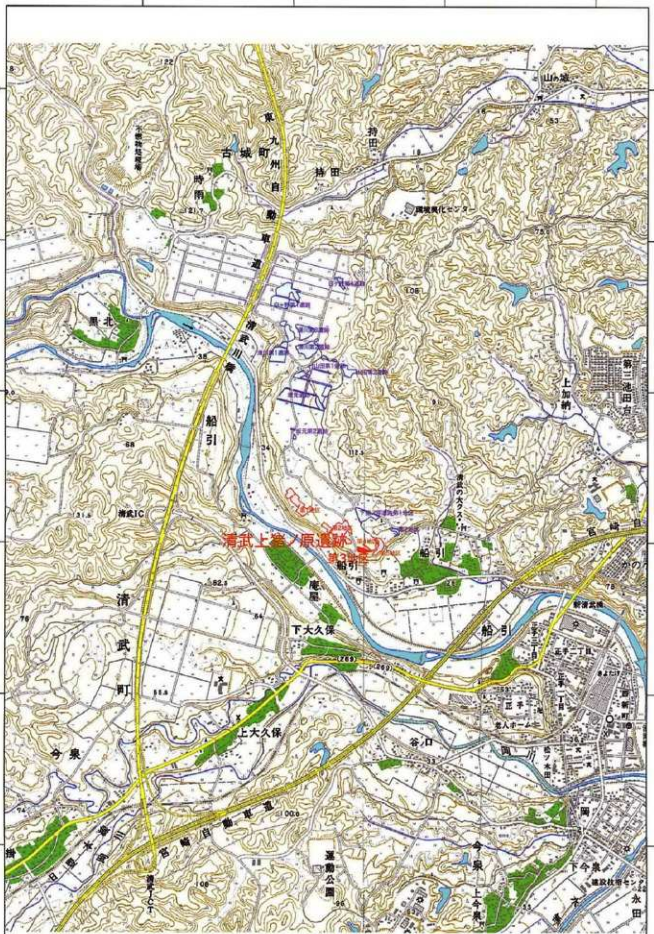
清武町は、県内最大の宮崎平野の南端に位置し、県都宮崎市の南西に隣接している。町内ほぼ中央には清武川が東流し、河川周辺には沖積地や河岸段丘がみられその上位には台地が発達している。

清武上猪ノ原遺跡（第３地区）は、町内西方の標高約63m～64mの台地上に位置している。この台地は、大淀川南岸丘陵とよばれる四万十層群からなる標高200m～400m丘陵が、高岡方面から東に向かってしだいに低くなり平坦な台地地形へと変化したもので、地質は宮崎平野の基盤である宮崎層群の上位にシラスや火山灰等が堆積して形成されたものである。尚、このシラス台地上及び崖面には、湧水点が数多く点在しており、遺跡が立地するうえでの好条件の一つであった考えられる。

２．歴史的環境

清武上猪ノ原遺跡（第３地区）は、清武町内船引地区に所在する。船引の名が歴史上に登場するのは古代末から中世にかけてである。建久八（1197）年鎌倉幕府が各国の現地役人に命じて作成させた『建久の図田帳』には、『船曳五十町、右宮崎郡内　弁済使法印、不知實名』とあり、平安末には宇佐八幡宮と強い結びつきをもった荘園がこの地に存在していたのではないかと推測される。

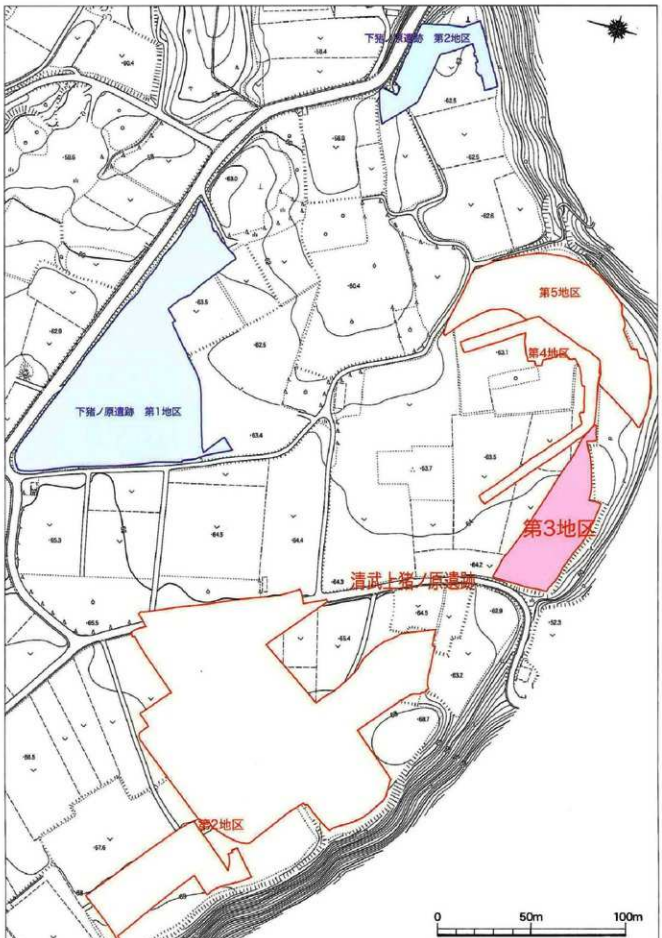
室町・戦国期においては、この地は主に伊東氏の所領であったが、豊臣秀吉の九州征伐後高橋元種の所領となり、江戸時代初期には幕府領（天領）となっている。加納・木原・今泉といった清武町内の他の地区は、秀



*旧日本測地系による

第１図　遺跡位置図（S=1/25000）

0　0.5　1.0km



第２図　遺跡周辺地形図（S=1/2000）

吉により伊東祐兵に与えられ江戸時代を通じて飫肥藩領であったため、現在の清武町においては船引地区だけが異なる支配体制のもと近世という時を刻んだこととなる。

明治維新後は、船引村として清武郡治所の管轄下となり、明治24（1891）年には清武村、昭和25（1950）年には清武町の一地区として、現在も発展を続けている。

又、江戸時代の中期には定着していた“船引神楽”は、主に稲作豊穣と子孫繁栄を祈願して奉（奉分の日）に奉納される作祈祷神楽であり、数多くの番数が今も尚伝承されていることから、県の無形民俗文化財に指定されている。

3．周辺遺跡

清武上猪ノ原遺跡（第３地区）が立地する台地上では、平成３年頃から県営農地保全整備事業（時屋工区）、東九州自動車建設、県営農地保全整備事業（船引工区）などの大型公共工事が相次ぎ、それに伴う発掘調査も宮崎県教育委員会や当教育委員会によって数多く実施されている。

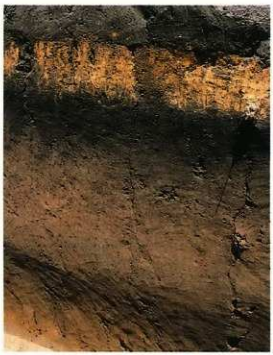
なかでも、当教育委員会によって実施された発掘調査については、次の第１表のとおりである。

第１表　近隣遺跡発掘調査状況一覧（清武町教育委員会主体分）

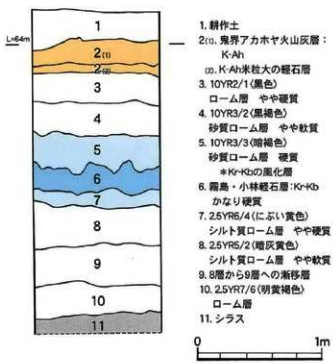
No	遺跡名	調査期間	面積(㎡)	主な時代	主な遺構	主な遺物	調査担当者
1	白ヶ野第１遺跡	H7.11.22～H8.3.14 H8.7.22～H8.12.28	17,200	縄文時代（早期～前期）・古代	集石遺構・土坑	縄文式土器・石器	伊東但 井田篤
		＜報告書名＞	清武町埋蔵文化財調査報告書第13集『白ヶ野第１・第４遺跡』				
2	白ヶ野第４遺跡	H8.7.22～H8.11.10	1,900	縄文時代早期	集石遺構・土坑	縄文式土器・石器	井田篤
		＜報告書名＞	清武町埋蔵文化財調査報告書第13集『白ヶ野第１・第４遺跡』				
3	滑川第１遺跡	H9.5.6～H10.3.31 H10.5.6～H11.3.31	17,620	縄文時代（早期～後期）・弥生・古墳・古代	集石遺構・炉穴・土坑・竪穴式住居跡	石器・縄文式土器・弥生式土器・土師器・須恵器	井田篤 （松原一哉）
		＜報告書名＞	清武町埋蔵文化財調査報告書第21集『滑川第１遺跡』				
4	滑川第２遺跡	H9.8.1～H10.3.31 H10.5.6～H11.3.31	10,420	旧石器・縄文・弥生・古墳・古代	礫群・集石遺構・土坑・竪穴式住居跡	石器・縄文式土器・弥生式土器・土師器	井田篤 （松原一哉）
		＜報告書名＞	清武町埋蔵文化財調査報告書第22集『滑川第２遺跡』				
5	滑川第３遺跡	H9.8.1～H10.3.31	6,940	旧石器・縄文・弥生	礫群・集石遺構・陥し穴状遺構・土坑	石器・縄文式土器・弥生式土器	井田篤
		＜報告書名＞	清武町埋蔵文化財調査報告書第23集『滑川第３遺跡』				
6	山田第１遺跡	H11.4.28～H12.3.30 H12.7.10～H12.8.4	7,700	旧石器・縄文・弥生・古墳	集石遺構・陥し穴状遺構・炉穴・竪穴式住居跡	石器・縄文式土器・弥生式土器	井田篤 （松原一哉）
		＜報告書名＞	清武町埋蔵文化財調査報告書第18集『山田第１遺跡』				
7	山田第２遺跡	H11.4.28～H12.3.30	4,300	縄文・弥生・古代	集石遺構・陥し穴状遺構・炉穴	石器・縄文式土器	井田篤 （松原一哉）
		＜報告書名＞	清武町埋蔵文化財調査報告書第20集『山田第２遺跡』				
8	坂元遺跡	H12.4.25～H12.12.18	9,000	旧石器・縄文	集石遺構・陥し穴状遺構・炉穴・竪穴式住居跡	石器・縄文式土器	井田篤 （松原一哉） （安楽哲文）
		＜報告書名＞	清武町埋蔵文化財調査報告書第15集『坂元遺跡』				
9	坂元第２遺跡	H16.7.2～H17.1.11	530	旧石器・縄文・中近世	溝状遺構	縄文式土器・石器	井田篤 （若杉知和）
		＜報告書名＞	清武町埋蔵文化財調査報告書第16集『坂元第２遺跡』				
10	清武上猪ノ原遺跡（第１地区）	H12.12.11～H13.11.16	14,000	縄文（草創期・早期）・弥生・古代	集石遺構・炉穴・陥し穴状遺構・土坑・竪穴式住居跡・掘立柱建物跡	縄文式土器・石器	井田篤 秋成雅博 （富田卓見）
		＜報告書名＞	清武町埋蔵文化財調査報告書第24集『清武上猪ノ原遺跡－１－』				
11	清武上猪ノ原遺跡（第２地区）	H13.10.23～H14.12.9	15,200	旧石器・縄文・中近世	集石遺構・陥し穴状遺構・炉穴・溝状遺構・土坑	縄文式土器・石器	井田篤 秋成雅博 （富田卓見）
12	清武上猪ノ原遺跡（第４地区）	H15.9.22～H16.7.23	1,300	旧石器・縄文・中近世	掘立柱建物跡・集石遺構・陥し穴状遺構・埋設土器	縄文式土器・石器	井田篤 （富田卓見） （若杉知和）
13	清武上猪ノ原遺跡（第５地区）	H17.7.26～現在調査実施中					
14	下猪ノ原遺跡（第１地区）	H14.12.9～H15.12.24	7,000	旧石器・縄文・弥生・中世	礫群・集石遺構・陥し穴状遺構・土壙墓・道路状遺構	石器・石製品・縄文式土器	秋成雅博
15	下猪ノ原遺跡（第２地区）	H16.4.26～H17.2.17	1,200	旧石器・縄文・弥生・中近世	集石遺構・陥し穴状遺構・炉穴・埋設土器	縄文式土器・石器	秋成雅博 （草野美香）
16	五反畑遺跡	H19.6.1～現在調査実施中					

第３節　基本土層

土層の堆積状況については、当台地上の他の遺跡とほぼ同様で、詳細は次の写真図版１及び第３図のとおりである。調査の鍵となる層はアカホヤ火山灰層と霧島・小林軽石層で、それぞれの上面では遺構の検出作業を行った。また、３・４層については、縄文時代早期の遺物の包含層であり、なおかつ集石遺構や土坑等の検出層でもあった。



写真図版１
清武上猪ノ原遺跡(第3地区)　基本土層



第３図　基本土層図 (S=1/30)

第４節　調査の経過と方法

１．調査の経過

当調査区は、シラス台地の縁辺部に位置しており、元々は調査区の北東から南西にかけて緩やかに高くなる（崖際に向かってのぼっている）傾斜地であった。その緩やかな傾斜地を、昭和20年代に行った畑の造成の際にほぼ平らな地形にしていたため、表土下位はすでに各層が露出している状況であった（第４図参照）。

調査はまず、アカホヤ火山灰層上面での遺構の検出作業から行った。撹乱されている範囲も含めて丁寧に精査したものの、ピットが幾つか確認されただけで掘立柱建物跡や柵跡といった類のものは検出されなかった。

アカホヤ火山灰層降下後に構築されたであろう遺構の記録作業が全て終了した後、アカホヤ火山灰層を重機により除去、そして当遺跡で最も密度の濃い文化層ともいえる縄文時代早期遺物包含層の掘り下げ作業に取り掛かった。この縄文時代早期の遺物包含層では、３層中位から４層下位にかけて集石遺構や炉穴が検出されるケースが多いため、包含層を薄く剥いでいく意識を徹底させながら掘り下げ作業を行い、加えて随時遺構の検出作業も行った。結果、この包含層では集石遺構や土坑そして陥し穴状遺構が検出され、遺物の取り上げ作業と並行して遺構の記録作業も行った。

縄文時代早期の文化層についての調査終了後、旧石器時代の文化層確認のため尾根部（旧地形における）でトレンチ調査を行った。そこでは石器や礫群が検出されたため、取り上げ作業及び記録作業を実施、その終了をもって当調査区における全ての業務を完了した。

2．調査の方法

表土等の剥ぎ取り：調査員の指示のもと重機を使用して実施した。
基準杭の設定：ほとんどは業者に委託し、補助的な部分は調査員が行った。
遺物包含層の掘り下げ作業：主にジョレン・ねじり鎌で行なった。包含層中に存在する遺構の検出作業も兼ねているので、一枚一枚包含層を剥ぐ意識を作業員に徹底させ丁寧に行なった。
遺構実測：遺構のサイズに応じて1／10又は1／20で作図した。
測量関係：光波測量器及びデータコレクタを使用し、現場でデータを収集した後、清武町文化財管理事務所（現清武町埋蔵文化財センター）において、AUTOCADを利用してデジタルデータとして整理・管理した。
写真撮影：6×6・6×9版モノクロ・リバーサル、35㎜モノクロ・リバーサル写真を併用し空中写真については業者に委託した。

3．調査日誌抄

H14.11.21　重機による表土剥ぎ取り作業開始

H14.11.27　旧地形復元のため、各層の露出状況を記録する（～12.02）
表土剥ぎ取り直後のコンタ図作成（～11.28）

H14.12. 9　アカホヤ火山灰層上面における遺構の検出作業実施（～12.10）
〃　撹乱範囲のチェック（〃）
アカホヤ火山灰層の除去　→　遺構が検出されない範囲から順に実施（～12.10）

H14.12.11　ＳＥ－１、ＳＧ－２の記録作業開始（～H13.1.24）
アカホヤ火山灰層直下のコンタ図作成
縄文時代早期遺物包含層である３層の掘り下げ作業開始（～H15.1.23）

H15. 1.23　縄文時代早期遺物包含層である４層の掘り下げ作業開始（～H15.9.4）

H15. 1.24　縄文時代早期の遺構の記録作業開始（～H15.9.17）

H15. 4.22　縄文時代草創期の遺物包含層である５層の掘り下げ作業開始（～H15.9.4）
＊遺物・遺構ともに確認されず

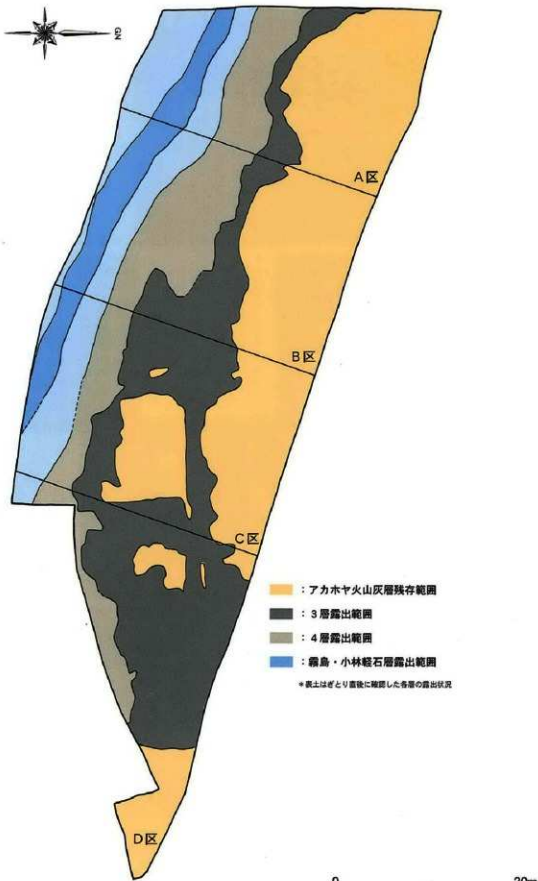
H15. 5.20　基本土層の確認

H15. 7.16　旧石器時代文化層確認のためのトレンチ調査開始（～H15.9.19）

H15. 8. 2　町内小学生を対象とした体験講座を実施

H15. 9.18　遺跡の遠景及び全景の撮影（スカイサーベイによる）

H19. 9.19　調査完了



第4図　グリッド図及びカット図（S=1/400）

表土剥ぎ取り直後（北東から）

作業風景

縄文時代早期遺物包含層　礫出土状況

写真図版２　様々な調査風景

第Ⅱ章　縄文時代早期についての調査

第1節　遺　構

当遺跡において確認された縄文時代早期の遺構は、集石遺構が56基、陥し穴状遺構が7基、土坑が5基であった。検出された層位は、ほとんどの遺構が3層中位から4層下位にかけてであり、遺構による検出面の違いはあまり感じられなかった。尚、作図については、調査期間などの諸条件を考慮して、「平面図」＋「片断面見通し図」という内容で作成した。

1．集石遺構

集石遺構は計56基確認され、その検出状況は次のとおりである。

①3層及び4層の掘り下げ作業を行ったところ、焼礫が数10㎡の範囲に集中して出土する範囲が2ヶ所［A礫群、B礫群］確認された（第5図参照）。その集中範囲を礫の分布状況を確認しながら丁寧に精査した結果、多数の集石遺構が検出された。

②3層及び4層の掘り下げ作業を行ったところ、焼礫が幾つか集中する範囲が確認され、丁寧に精査した結果集石遺構であることが確認された。

④3層及び4層の掘り下げ作業を行ったところ、黒いシミが円形に広がる範囲が確認され、その黒い部分を丁寧に精査した結果集石遺構であることが確認された。

SI−38：4層中位で検出された。平面が円形で断面が皿状の掘り込みを有する。使用礫は角礫や亜角礫がほとんどで、掘り込みに対しての充填状況は疎らであった。また、礫集中範囲付近の掘り込み上位には炭化粒を多く含んでいた。

SI−39：4層中位で検出された。平面が楕円形で断面が皿状の掘り込みを有する。使用礫は角礫や亜角礫がほとんど、掘り込みに対しての充填状況はかなり疎らであった。

SI−40：4層中位で検出された。平面が円形で断面が皿状の掘り込みを有する。使用礫は角礫や亜角礫がほとんどで、掘り込みに対しての充填状況はかなり疎らであった。

SI−41：4層中位で検出された。平面が円形で断面が皿状の掘り込みを有する。使用礫は角礫や亜角礫がほとんどで、掘り込みに対しての充填状況は疎らであった。また、礫集中範囲付近の掘り込み上位には炭化粒を多く含んでいた。

SI−42：4層中位で検出された。平面が円形で断面が（浅）皿状の掘り込みを有する。使用礫は角礫や亜角礫がほとんどで、掘り込みに対しての充填状況はやや密であった。

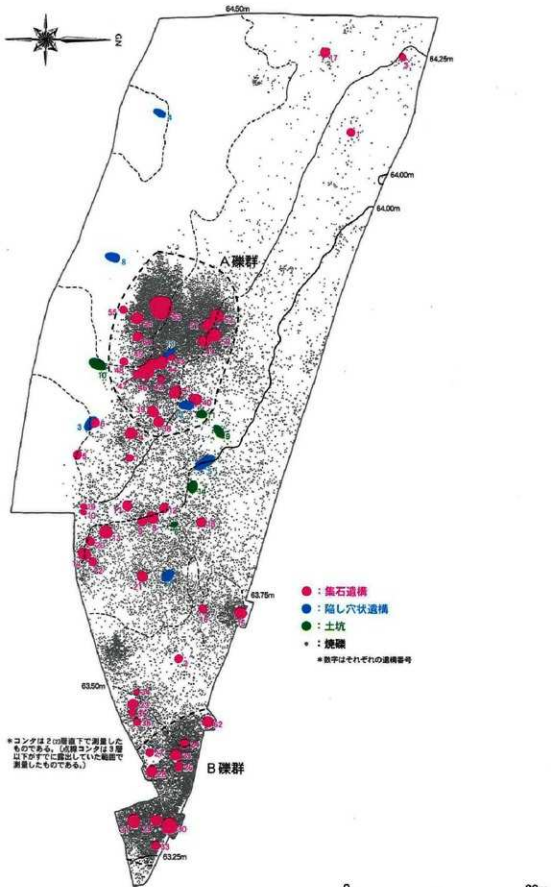
SI−43：4層中位で検出された。平面が円形で断面が皿状の掘り込みを有する。使用礫は角礫や亜角礫がほとんどで、掘り込みに対しての充填状況はやや密であった。

SI−44：4層中位で検出された。平面が円形で断面が皿状の掘り込みを有する。使用礫は角礫や亜角礫がほとんどで、掘り込みに対しての充填状況はやや疎らであった。また、礫集中範囲付近の掘り込み中央部には炭化粒を多く含んでいた。

SI−45：4層上位で検出された。平面が円形で断面が皿状の掘り込みを有する。使用礫は角礫や亜角礫が多く（一部亜円礫も見られる）、掘り込みに対しての充填状況はやや密であった。また、礫集中範囲付近の掘り込み中央部には炭化粒・炭化物を多く含んでおり、その中から採取された炭化物で放射性炭素年代測定分析を実施したところ、使用時期を推定するためのデータ《8620±40年BP》が得られている。

SI−46：4層上位で検出された。平面が円形で断面がボウル状（V字状に近い）の掘り込みを有する。使用礫は角礫や亜角礫が多く（一部亜円礫も見られる）、掘り込みに対しての充填状況はかなり密で、掘り込み底部には平らな礫を配置していた。また、礫集中範囲付近の掘り込み中央部には炭化粒・炭化物を多く含んでおり、その中から採取された炭化物で放射性炭素年代測定分析を実施したところ、使用時期を推定するためのデータ《8300±40年BP》が得られている。

SI−47：4層上位で検出された。平面が円形で断面が皿状の掘り込みを有する。使用礫は角礫や亜角礫がほとんどで、掘り込みに対しての充填状況はかなり疎らであった。また、礫集中範囲付近の掘り込み上位には炭化粒を含んでいた。



第５図　縄文時代早期遺構配置図（S=1/400）

SI−48：4層中位で検出された。平面が円形で断面が（浅）皿状の掘り込みを有する。使用礫は角礫や亜角礫がほとんどで、掘り込みに対しての充填状況はやや密であった。

SI−49：4層中位で検出された。平面が円形で断面が皿状の掘り込みを有する。使用礫は角礫や亜角礫がほとんどで、掘り込みに対しての充填状況はやや密であった。また、礫集中範囲付近の掘り込み中央部には炭化粒を多く含んでいた。

SI−50：4層中位で検出された。平面が円形で断面が皿状の掘り込みを有する。使用礫は角礫や亜角礫が多く（一部亜円礫も見られる）、掘り込みに対しての充填状況はかなり密であった。また、礫集中範囲付近の掘り込み中央部には炭化粒・炭化物を多く含んでおり、その中から採取された炭化物で放射性炭素年代測定分析を実施したところ、使用時期を推定するためのデータ《8620±50年BP》が得られている。

SI−51：4層中位で検出された。平面が不整形な楕円形で断面が(浅)皿状の掘り込みを有する。2基の集石遺構が切り合っている可能性も否定できないが、礫の集中状況からみて今回は1基の集石遺構として判断した。また、礫集中範囲付近の掘り込み中央部には炭化粒を多く含んでいた。

SI−52：4層中位で検出された。平面が円形で断面が皿状の掘り込みを有する。使用礫は角礫や亜角礫がほとんどで、掘り込みに対しての充填状況はやや密であった（片側に集中）。また、礫集中範囲付近の掘り込み中央部には炭化粒を多く含んでいた。

SI−53：4層上位で検出された。平面が円形で断面が皿状の掘り込みを有する。使用礫は角礫や亜角礫が多く（一部亜円礫も見られる）、掘り込みに対しての充填状況はかなり密で、また、掘り込み底部には平らな礫を配置していた。また、礫集中範囲付近の掘り込み中央部には炭化粒・炭化物を多く含んでおり、その中から採取された炭化物で放射性炭素年代測定分析を実施したところ、使用時期を推定するためのデータ《8650±50年BP》が得られている。

SI−54：土層確認のために残されたベルトに、遺構の一部がかかる状態で検出された。ベルト断面を利用し、掘り込み面の確認作業を実施したが、断定できるだけの明確なラインは確認出来なかった（おそらく3層下位あたりから掘り込んでいるものと思われる）。掘り込みについては平面が円形で断面が皿状のものを有する。使用礫は角礫や亜角礫が多く（一部亜円礫も見られる）、掘り込みに対しての充填状況はやや密で、掘り込み底部には平らな礫を配置していた。また、礫集中範囲付近の掘り込み中央部には炭化粒・炭化物を多く含んでおり、その中から採取された炭化物で放射性炭素年代測定分析を実施したところ、使用時期を推定するためのデータ《8630±50年BP》が得られている。

SI−55：4層中位で検出された。平面が円形で断面が皿状の掘り込みを有する。使用礫は角礫や亜角礫がほとんどで、掘り込みに対しての充填状況は疎らであった。

SI−60：4層上位で検出された。平面が円形で断面が皿状の掘り込みを有する。使用礫は角礫や亜角礫がほとんどで、掘り込みに対しての充填状況はやや疎らであった。

SI−61：円形に礫が集中する範囲が4層中位で検出された。使用礫は角礫や亜角礫がほとんどで、掘り込みについては確認されていない。

SI−23：4層中位で検出された。平面が円形で断面が皿状の掘り込みを有する。使用礫は角礫や亜角礫がほとんどで、掘り込みに対しての充填状況は疎らであった。

SI−34：4層中位で検出された。平面が円形で断面が（浅）皿状の掘り込みを有する。使用礫は角礫や亜角礫がほとんどで、掘り込みに対しての充填状況はかなり疎らであった。

SI−35：4層中位で検出された。平面が円形で断面が（浅）皿状の掘り込みを有する。使用礫は角礫や亜角礫がほとんどで、掘り込みに対しての充填状況はかなり疎らであった。

SI−36：4層中位で検出された。平面が円形で断面が皿状の掘り込みを有する。使用礫は角礫や亜角礫がほとんどで、掘り込みに対しての充填状況はかなり疎らであった。

SI−24：円形に礫が集中する範囲が4層上位で検出された。使用礫は角礫や亜角礫がほとんどで、掘り込みについては確認されていない。

SI−25：4層上位で検出された。平面が円形で断面が皿状の掘り込みを有する。使用礫は角礫や亜角礫が多く（一部亜円礫も見られる）、掘り込みに対しての充填状況は密で、掘り込み底部には平らな礫を配置していた。また、礫集中範囲付近の掘り込み中央部には炭化粒・炭化物を多く含んでおり、その中から採取された炭化物で放射性炭素年代測定分析を実施したところ、使用時期を推定するためのデータ《8610±40年BP》が得られている。

SI−26：円形に礫が集中する範囲が4層上位で検出された。使用礫は角礫や亜角礫がほとんどで、掘り込みに

ついては確認されていない。

SI－27：円形に礫が集中する範囲が4層上位で検出された。使用礫は角礫や亜角礫がほとんどで、掘り込みについては確認されていない。

SI－28：4層上位で検出された。平面が円形で断面がボウル状の掘り込みを有する。使用礫は角礫や亜角礫が多く（一部亜円礫や円礫も見られる）、掘り込みに対しての充填状況はかなり密であった。また、礫集中範囲付近の掘り込み中央部には炭化粒・炭化物を多く含んでおり、その中から採取された炭化物で放射性炭素年代測定分析を実施したところ、使用時期を推定するためのデータ《8720±40年BP》が得られている。

SI－29：4層上位で検出された。平面が円形で断面が(浅)皿状の掘り込みを有する。使用礫は角礫や亜角礫がほとんどで、掘り込みに対しての充填状況はやや疎らであった。

SI－30：4層上位で検出された。平面が円形で断面が皿状の掘り込みを有する。使用礫は角礫や亜角礫が多く（一部亜円礫も見られる）、掘り込みに対しての充填状況はやや密で、掘り込み底部には平らな礫が配置してあった。礫集中範囲付近の掘り込み中央部には炭化粒・炭化物を多く含んでおり、その中から採取された炭化物で放射性炭素年代測定分析を実施したところ、使用時期を推定するためのデータ《8620±40年BP》が得られている。

SI－31：4層上位で検出された。平面が円形で断面が皿状の掘り込みを有する。使用礫は角礫や亜角礫が多く（一部亜円礫も見られる）、掘り込みに対しての充填状況はやや密で、掘り込み底部には平らな礫が配置してあった。また、礫集中範囲付近の掘り込み中央部には炭化粒・炭化物を多く含んでおり、その中から採取された炭化物で放射性炭素年代測定分析を実施したところ、使用時期を推定するためのデータ《8610±40年BP》が得られている。

SI－33：円形に礫が集中する範囲が4層上位で検出された。使用礫は角礫や亜角礫がほとんどで、掘り込みについては確認されていない。

SI－62：4層上位で検出された。平面が円形で断面が皿状の掘り込みを有する。使用礫は角礫や亜角礫がほとんどで、掘り込みに対しての充填状況はやや疎らであった。

SI－3：4層中位で検出された。平面が円形で断面が皿状の掘り込みを有する。使用礫は角礫や亜角礫がほとんどで、掘り込みに対しての充填状況はやや疎らであった。

SI－17：4層中位で検出された。平面が円形で断面が皿状の掘り込みを有する。使用礫は角礫や亜角礫がほとんどで、掘り込みに対しての充填状況はやや密であった。

SI－1：4層中位で検出された。平面が円形で断面が皿状の掘り込みを有する。使用礫は角礫や亜角礫がほとんどで、掘り込みに対しての充填状況は疎らであった。

SI－6：4層中位でSC－3と切り合う状態で検出された（よって約1／2が残存）。平面が円形で断面が皿状（ややボウル状気味）の掘り込みを有する。使用礫は角礫や亜角礫がほとんどで、掘り込みに対しての充填状況は疎らであった。

SI－4：4層中位で検出された。平面が円形で断面が皿状（ややボウル状気味）の掘り込みを有する。使用礫は角礫や亜角礫が多く、掘り込みに対しての充填状況はやや密であった。また、礫集中範囲付近の掘り込み中央部には炭化粒・炭化物を多く含んでおり、その中から採取された炭化物で放射性炭素年代測定分析を実施したところ、使用時期を推定するためのデータ《8820±40年BP》が得られている。

SI－5：4層上位で検出された。平面が円形で断面が皿状の掘り込みを有する。使用礫は角礫や亜角礫がほとんどで、掘り込みに対しての充填状況は疎らであった。

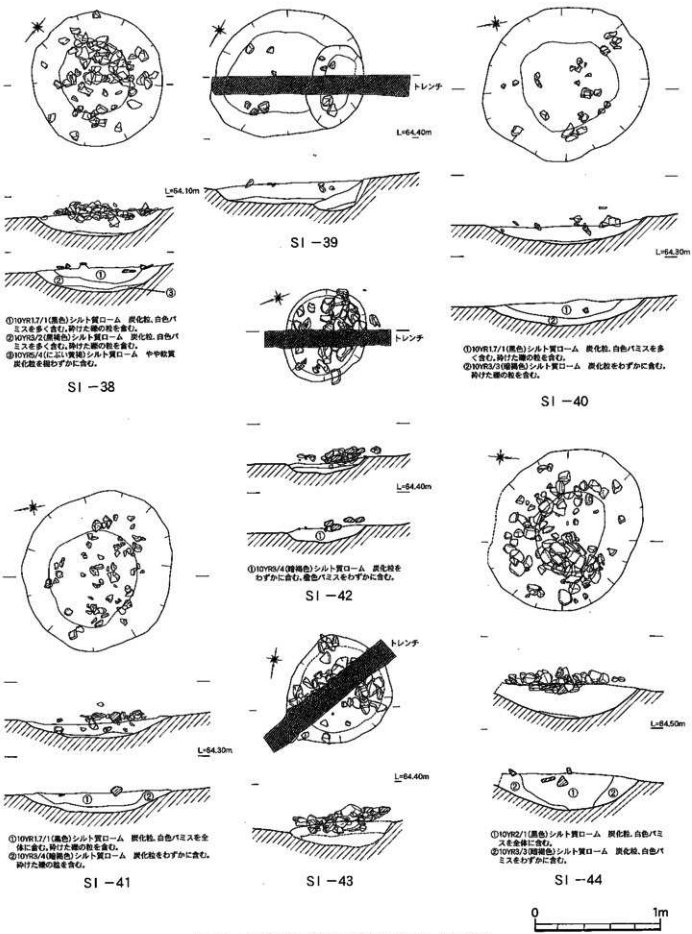
SI－7：4層上位で検出された。平面が円形で断面が（浅）皿状の掘り込みを有する。使用礫は角礫や亜角礫がほとんどで、掘り込みに対しての充填状況はかなり疎らであった。

SI－8：4層中位で検出された。平面が円形で断面が皿状の掘り込みを有する。使用礫は角礫や亜角礫がほとんどで、掘り込みに対しての充填状況はかなり疎らであった。また、礫集中範囲付近の掘り込み中央部には炭化粒を多く含んでいた。

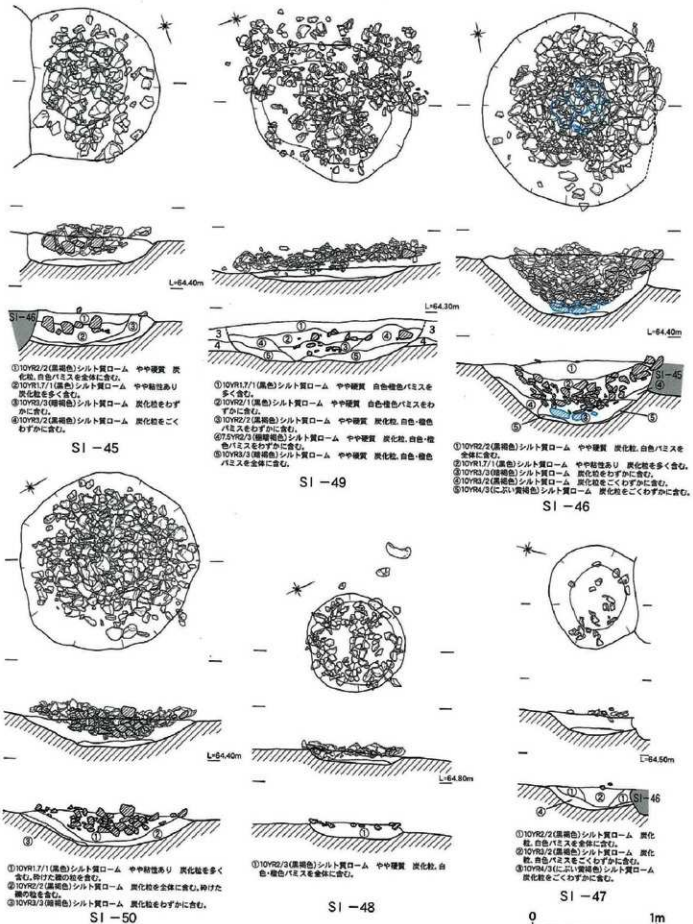
SI－9：4層中位で検出された。平面が円形で断面が皿状の掘り込みを有する。使用礫は角礫や亜角礫がほとんどで、掘り込みに対しての充填状況は疎らであった。

SI－11：4層中位で検出された。平面が円形で断面が皿状の掘り込みを有する。使用礫は角礫や亜角礫がほとんどで、掘り込みに対しての充填状況は疎らであった。

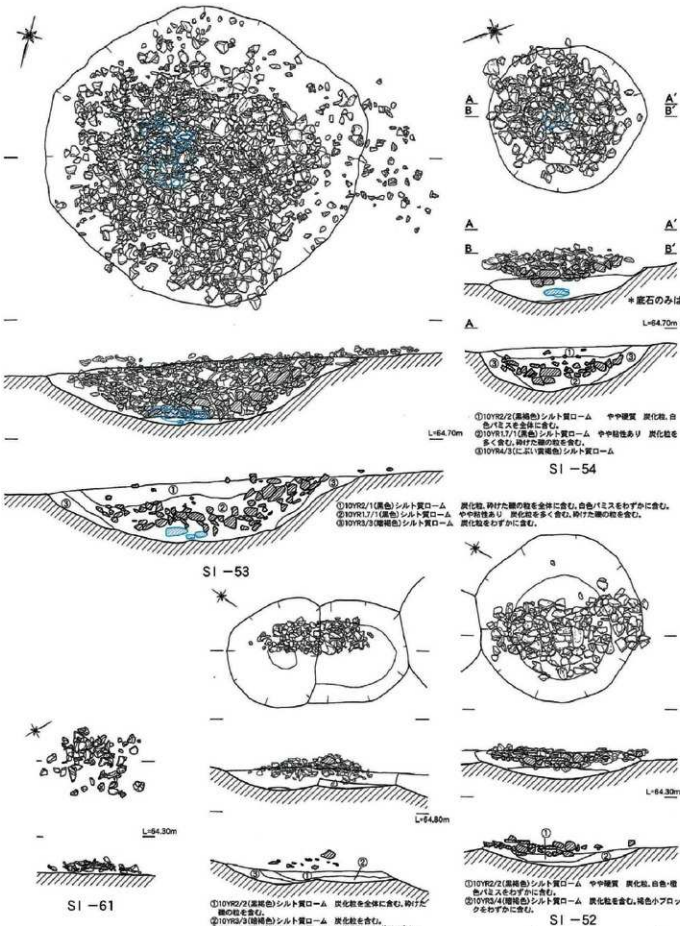
SI－12：4層中位で検出された。平面が円形で断面が皿状の掘り込みを有する。使用礫は角礫や亜角礫がほとんどで、掘り込みに対しての充填状況は極めて疎らであった。



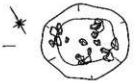
第６図　縄文時代早期集石遺構実測図①（S=1/30）



第７図　縄文時代早期集石遺構実測図②（S=1/30）

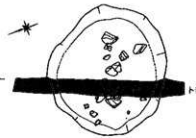


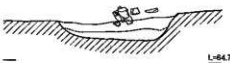
第８図　縄文時代早期集石遺構実測図③（S=1/30）



①10YR2/2(黒褐色)シルト質ローム　炭化粒、砕けた褐の粒をわずかに含む。
②10YR3/3(暗褐色)シルト質ローム　炭化粒、砕けた褐の粒をわずかに含む。

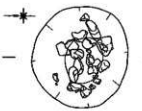
SI－34





①10YR2/3(黒褐色)シルト質ローム　やや硬質　炭化粒、白色パミスを多く含む。暗褐色土小ブロックをわずかに含む。

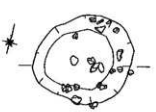
SI－60



①10YR2/3(黒褐色)シルト質ローム　やや硬質　炭化粒、白色黄色パミスを全体に含む。
②10YR3/3(暗褐色)シルト質ローム　やや硬質　炭化粒を含む、褐色小ブロックをわずかに含む。

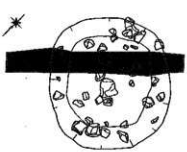
SI－55

SI－24



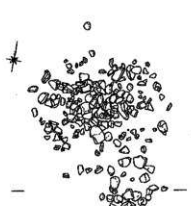
①2.5Y3/3(暗オリーブ褐)シルト質ローム
炭化粒、砕けた褐の粒をわずかに含む。

SI－35

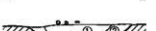


①10YR3/1(黒褐色)シルト質ローム　炭化粒を全体に含む。
②10YR3/3(暗褐色)シルト質ローム　炭化粒をわずかに含む。

SI－23



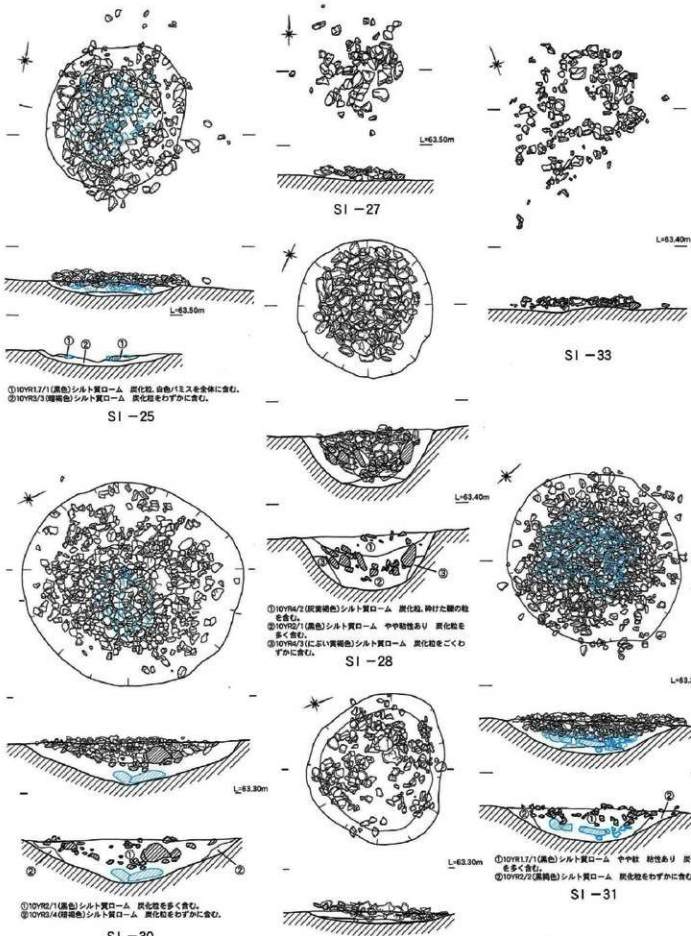
SI－26



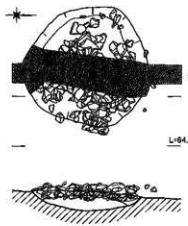
①2.5Y3/2(黒褐色)シルト質ローム　炭化粒、白色パミス、砕けた褐の粒を全体に含む。
②2.5Y4/2(暗灰黄)シルト質ローム　炭化粒、白色パミス、砕けた褐の粒をわずかに含む。

SI－36

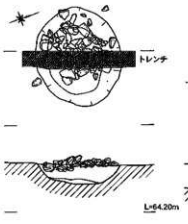
第９図　縄文時代早期集石遺構実測図④（S=1/30）



第10図　縄文時代早期集石遺構実測図⑤（S=1/30）

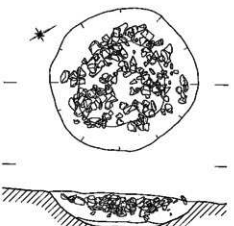


SI－17



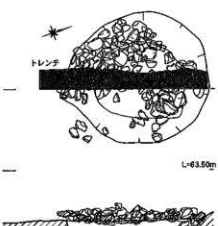
①10YR3/2(黒褐色)シルト質ローム　炭化粒、焼けた礫の粒を含む。
②10YR4/2(灰黄褐色)シルト質ローム　炭化粒、焼けた礫の粒を僅ずかに含む。

SI－3

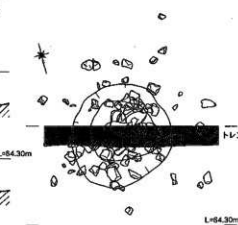


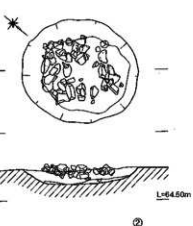
①10YR2/1(黒色)シルト質ローム　やや硬質　炭化粒(炭化材も)、焼けた礫の粒を多く含む。
②10YR3/2(黒褐色)シルト質ローム　やや硬質　炭化粒、焼けた礫の粒を含む。
③10YR4/2(灰黄褐色)シルト質ローム　炭化粒、焼けた礫の粒をわずかに含む。

SI－4



SI－62





①2.5Y3/3(暗オリーブ褐色)シルト質ローム　炭化粒をわずかに含む。
②2.5Y3/2(暗オリーブ褐色)シルト質ローム　炭化粒を含む。

SI－5

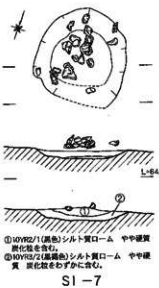
①10YR5/2(黒褐色)シルト質ローム　炭化粒、白色パミスを含む。
②10YR17/1(黒色)シルト質ローム　やや軟　粘性あり　炭化粒を多く含む。　白色褐色パミスを含む。
③10YR5/2(黒褐色)シルト質ローム　炭化粒、白色パミスを含む。

SI－6

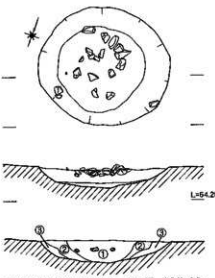
SI－1

0　1m

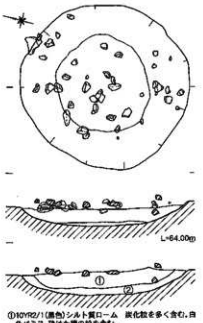
第11図　縄文時代早期集石遺構実測図⑥ (S=1/30)



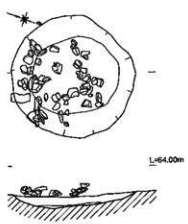
SI－7



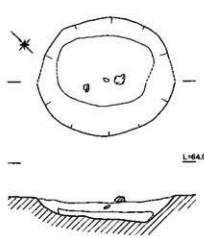
SI－11



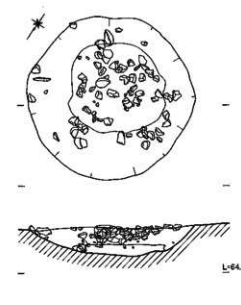
SI－8



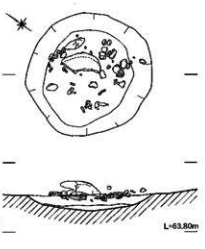
SI－9



SI－12

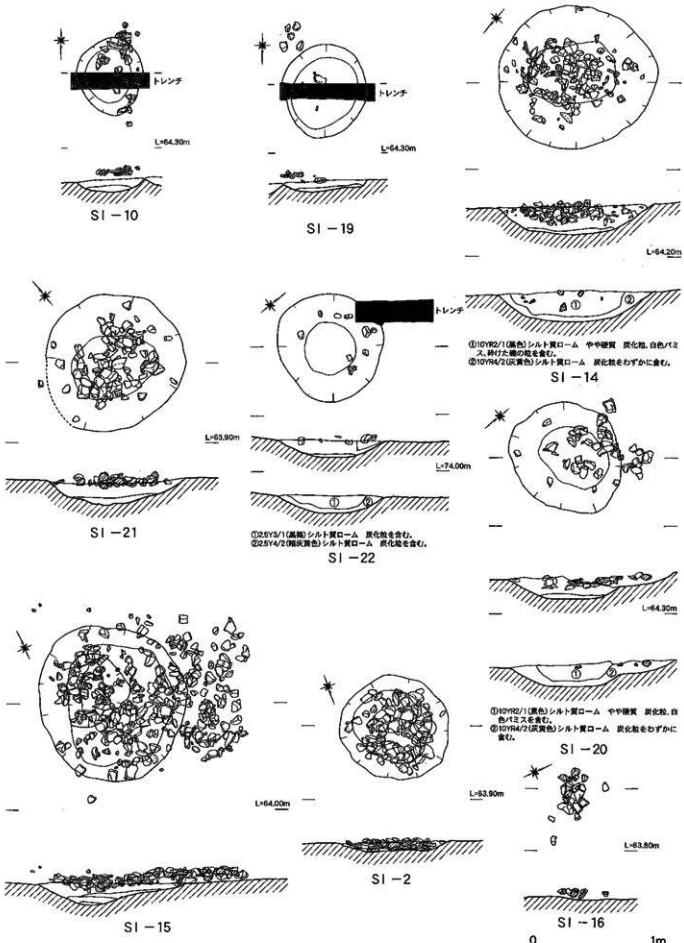


SI－13



SI－18

第12図　縄文時代早期集石遺構実測図⑦（S=1/30）



第13図　縄文時代早期集石遺構実測図⑧（S=1/30）

SI−13：4層中位で検出された。平面が円形で断面が皿状の掘り込みを有する。使用礫は角礫や亜角礫がほとんどで、掘り込みに対しての充填状況は疎らであった。また、礫集中範囲付近の掘り込み中央部には炭化粒を多く含んでいた。

SI−10：4層上位で検出された。平面が円形で断面が（浅）皿状の掘り込みを有する。使用礫は角礫や亜角礫がほとんどで、掘り込みに対しての充填状況は疎らであった。

SI−19：4層上位で検出された。平面が円形で断面が（浅）皿状の掘り込みを有する。使用礫は角礫や亜角礫がほとんどで、掘り込みに対しての充填状況はかなり疎らであった。

SI−18：4層中位で検出された。平面が円形で断面が皿状の掘り込みを有する。使用礫は角礫や亜角礫がほとんどで、掘り込みに対しての充填状況は疎らであった。

SI−14：4層上位で検出された。平面が円形で断面が皿状の掘り込みを有する。使用礫は角礫や亜角礫がほとんどで、掘り込みに対しての充填状況は疎らであった。

SI−20：4層中位で検出された。平面が円形で断面が皿状の掘り込みを有する。使用礫は角礫や亜角礫がほとんどで、掘り込みに対しての充填状況は疎らであった。

SI−21：4層中位で検出された。平面が円形で断面が皿状の掘り込みを有する。使用礫は角礫や亜角礫がほとんどで、掘り込みに対しての充填状況は疎らであった。

SI−22：4層中位で検出された。平面が円形で断面が皿状の掘り込みを有する。使用礫は角礫や亜角礫がほとんどで、掘り込みに対しての充填状況は極めて疎らであった。

SI−15：4層中位で検出された。平面が円形で断面が皿状の掘り込みを有する。使用礫は角礫や亜角礫がほとんどで、掘り込みに対しての充填状況は疎らであった。

SI− 2：4層中位で検出された。平面が円形で断面が皿状の掘り込みを有する。使用礫は角礫や亜角礫がほとんどで（一部亜円礫も見られる）、掘り込みに対しての充填状況は密であった。また、埋土については、他の集石遺構と異なりほとんど黒ずんでいない茶褐色土であった（炭化粒も極微量）。

SI−16：円形に礫が集中する範囲が4層中位で検出された。使用礫は角礫や亜角礫がほとんどで、掘り込みについては確認されていない。

第2表　集石遺構観察表

	番号	検出層	^{14}C年代（年 BP）	使用礫				掘込み				底石の有無	炭化物の有無	備　考
				礫分布範囲（長軸×短軸）（m）	総礫数（個）	総重量（kg）	礫1個あたりの重量（kg）	有無	断面形状	直径（m）	深さ（m）			
1	SI−38	4層中位	−	1.00 × 1.00	55	16	0.29	有	皿状	1.00	0.20	無	炭化粒のみ	A礫群にて検出
2	SI−39	4層中位	−	0.70 × 0.60	12	1.8	0.15	有	皿状	1.00	0.60	無	炭化粒のみ	〃
3	SI−40	4層中位	−	1.20 × 0.70	29	−	−	有	皿状	1.20	0.15	無	炭化粒のみ	〃
4	SI−41	4層中位	−	1.10 × 0.80	66	−	−	有	皿状	1.20	0.15	無	炭化粒のみ	〃
5	SI−42	4層上位	−	0.80 × 0.60	−	−	−	有	（浅）皿状	0.80	0.10	無	炭化粒のみ	〃
6	SI−43	3層下位	−	0.90 × 0.80	62	−	−	有	皿状	0.95	0.20	無	炭化粒のみ	〃
7	SI−44	4層中位	−	1.20 × 1.10	115	27.6	0.24	有	皿状	1.30	0.25	無	炭化粒のみ	〃
8	SI−45	4層上位	8620±40	1.20 × 1.10	227	45.7	0.20	有	皿状	1.25	0.25	無	有	〃
9	SI−46	4層中位	8390±40	1.30 × 1.20	900	231.6	0.26	有	ボウル状（やや下の傾斜）	1.50	0.50	有	有	〃
10	SI−47	4層中位	−	0.70 × 0.60	22	1.5	0.07	有	皿状	0.80	0.20	無	有	〃
11	SI−48	4層中位	−	0.95 × 0.80	36	8.7	0.24	有	（浅）皿状	0.80	0.10	無	有	〃

	番号	検出層	^{14}C年代（年 BP）	使用礫				掘込み				底石の有無	炭化物の有無	備考
				礫分布範囲〈長軸×短軸〉（m）	総礫数（個）	総重量（kg）	礫1個あたりの重量（kg）	有無	断面形状	直径（m）	深さ（m）			
12	SI−49	4層中位	−	1.60 × 1.40	86	5.4	0.06	有	皿状	1.30	0.30	無	有	〃
13	SI−50	4層中位	8620±50	1.30 × 1.30	717	122.8	0.17	有	皿状	1.40	0.25	無	有	〃
14	SI−51	4層中位	−	0.9+α× 0.30	418	36.6	0.09	有	(浅)皿状	1.00	0.10	無	有	〃
15	SI−52	4層中位	−	1.20 × 0.70	516	55.7	0.11	有	皿状	1.35	0.15	無	有	〃
16	SI−53	4層上位	8650±50	3.40 × 2.40	1089	261.7	0.24	有	皿状	2.30	0.45	有	有	〃
17	SI−54	3層下位	8630±50	1.30 × 1.10	659	182.1	0.28	有	皿状	1.20	0.35	有	有	〃
18	SI−55	4層中位	−	0.70 × 0.50	−	−	−	有	皿状	0.80	0.20	無	炭化粒のみ	〃
19	SI−60	4層上位	−	0.80 × 0.60	25	−	−	有	皿状	1.00	0.20	無	炭化粒のみ	〃
20	SI−61	4層中位	−	0.85 × 0.60	−	−	−	無	−	−	−	−	無	〃
21	SI−23	4層中位	−	1.00 × 1.00	41	−	−	有	皿状	1.10	0.15	無	炭化粒のみ	B礫群にて検出
22	SI−34	4層中位	−	0.60 × 0.45	21	2.7	0.13	有	(浅)皿状	0.60	0.10	無	有	〃
23	SI−35	4層中位	−	0.70 × 0.60	−	−	−	有	(浅)皿状	0.80	0.10	無	炭化粒のみ	〃
24	SI−36	4層中位	−	0.70 × 0.40	−	−	−	有	皿状	0.70	0.20	無	炭化粒のみ	〃
25	SI−24	4層上位	−	1.60 × 1.50	−	−	−	無	−	−	−	−	無	〃
26	SI−25	4層上位	8610±40	1.60 × 1.45	391	68	0.17	有	皿状	1.20	0.10	有	有	〃
27	SI−26	4層上位	−	1.50 × 1.10	226	27.6	0.12	無	−	−	−	−	無	〃
28	SI−27	4層上位	−	0.90 × 0.90	70	−	−	無	−	−	−	−	無	〃
29	SI−28	4層上位	8720±40	0.90 × 0.90	346	106.5	0.31	有	ボウル状	1.10	0.45	無	有	〃
30	SI−29	4層上位	−	1.10 × 1.10	191	13.4	0.07	有	(浅)皿状	1.20	0.10	無	炭化粒のみ	〃
31	SI−30	4層上位	8620±40	1.70 × 1.50	−	−	−	有	皿状	1.60	0.35	有	有	〃
32	SI−31	4層上位	8610±40	1.50 × 1.50	954	113.2	0.12	有	皿状	1.40	0.25	有	有	〃
33	SI−33	4層上位	−	1.60 × 1.10	−	−	−	無	−	−	−	−	無	〃
34	SI−62	4層上位	−	1.10 × 1.00	139	37	0.27	有	皿状	1.05	0.20	無	炭化粒のみ	〃
35	SI−3	4層中位	−	0.75 × 0.60	70	8.8	0.13	有	皿状	0.80	0.15	無	炭化粒のみ	
36	SI−17	4層中位	−	1.00 × 0.90	230	47.5	0.21	有	皿状	1.00	0.15	無	炭化粒のみ	
37	SI−1	4層上位	−	1.40 × 1.40	83	21	0.25	有	皿状	0.85	0.20	無	有	
38	SI−6	4層中位	−	1.20 × 1+α	115	9.7	0.08	有	皿状（やや凹み状気味）	1.20	0.35	無	有	
39	SI−4	4層中位	8820±40	0.90 × 0.90	213	16.5	0.08	有	皿状（やや凹み状気味）	1.10	0.25	無	有	
40	SI−5	4層上位	−	0.70 × 0.60	58	9.5	0.16	有	皿状	0.95	0.15	無	有	
41	SI−7	4層上位	−	0.65 × 0.60	26	3	0.12	有	(浅)皿状	0.80	0.10	無	有	

	番号	検出層	^{14}C年代（年BP）	使用礫				堀込み				底石の有無	炭化物の有無	備考
				礫分布範囲〈長軸×短軸〉(m)	総礫数(個)	総重量(kg)	礫1個あたりの重量(kg)	有無	断面形状	直径(m)	深さ(m)			
42	SI−8	4層中位	−	1.30 × 1.00	41	5.4	0.13	有	皿状	1.30	0.20	無	炭化粒のみ	
43	SI−9	4層中位	−	0.80 × 0.80	62	8.8	0.14	有	皿状	1.00	0.10	無	有	
44	SI−11	4層中位	−	0.70 × 0.60	25	2.5	0.10	有	皿状	0.95	0.15	無	炭化粒のみ	
45	SI−12	4層中位	−	0.40 × 0.10	3	0.04	0.013	有	皿状	0.95	0.15	無	炭化粒のみ	
46	SI−13	4層中位	−	1.20 × 1.00	−	−	−	有	皿状	1.30	0.25	無	炭化粒のみ	
47	SI−10	4層上位	−	0.60 × 0.40	36	3	0.08	有	(浅)皿状	0.90	0.10	無	有	
48	SI−19	4層上位	−	0.70 × 0.30	4	0.5	0.13	有	(浅)皿状	0.70	0.10	無	炭化粒のみ	
49	SI−18	4層中位	−	0.80 × 0.60	−	−	−	有	皿状	0.95	0.10	無	炭化粒のみ	
50	SI−14	4層上位	−	1.10 × 0.80	157	14.2	0.09	有	皿状	1.15	0.25	無	炭化粒のみ	
51	SI−20	4層中位	−	1.10 × 0.70	−	−	−	有	皿状	0.95	0.15	無	炭化粒のみ	
52	SI−21	4層中位	−	1.00 × 1.00	98	18.5	0.19	有	皿状	1.10	0.20	無	有	
53	SI−22	4層中位	−	0.60 × 0.60	10	0.5	0.05	有	皿状	0.90	0.15	無	炭化粒のみ	
54	SI−15	4層中位	−	1.70 × 1.40	−	−	−	有	皿状	1.30	0.20	無	炭化粒のみ	
55	SI−2	3層下位	−	0.80 × 0.70	98	18.5	0.19	有	(浅)皿状	0.85	0.10	無	炭化粒のみ	
56	SI−16	4層中位	−	0.70 × 0.40	−	−	−	無	−	−	−	−	無	

2．陥し穴状遺構

陥し穴状遺構は計7基検出され、検出状況は次のとおりである。

①3層及び4層の掘り下げ作業を行ったところ、4層中位あたりからぼんやりと黒いシミがみえはじめ、霧島・小林軽石層の風化ブロックが確認される5層上位まで検出面を下げると、ようやくそのプランが明瞭になった。

②縄文時代早期の文化層が既に削平されている範囲において、長楕円形の黒いシミが確認された。

SC−4

すでに5層までが削平されている範囲において、霧島・小林軽石層上面で検出された。平面プランは長軸1.3m・短軸0.7mの長楕円形を呈し、検出面からの深さは1.4mである。実際の深さについて断定は出来ないが、検出面より数10cm上位から掘り込まれたものと推測される。底部では直線的に配置された2個の逆茂木痕が確認されており、それぞれ底面から20cm～30cm掘り込まれている。

尚、この遺構においては、埋土を半分残した状態で反対側の遺構半分を完全に取り除き（断ち割り）、埋土の堆積状況を詳細に調査した。

SC−8

すでに5層までが削平されている範囲において、霧島・小林軽石層上面で検出された。平面プランは長軸1.5m・短軸1mの長楕円形を呈し、検出面からの深さは1.7mである。実際の深さについて断定は出来ないが、検出面より数10cm上位から掘り込まれたものと推測される。底部では直線的に配置された2個の逆茂木痕が確認されており、それぞれ底面から15cm程度掘り込まれている。

SC－3

4層下位において、SI－6と切り合う状態で検出された。平面プランは長軸1.6m・短軸0.85mの長楕円形を呈し、検出面からの深さは1.6mである。実際の深さについて断定は出来ないが、検出面より数10cm上位から掘り込まれたものと推測される。底部では直線的に配置された3個の逆茂木痕が確認されており、それぞれ底面から15～25cm程度掘り込まれている。尚、埋土中から採取された炭化物で放射性炭素年代測定分析を実施したところ、使用時期を推定するためのデータ《8820±50年BP》が得られている。

SC－7

5層上位において検出された。平面プランは長軸1.6m・短軸1mの長楕円形を呈し、検出面からの深さは1.4mである。実際の深さについて断定は出来ないが、検出面より数10cm上位から掘り込まれたものと推測される。底部では直線的に配置された2個の逆茂木痕が確認されており、それぞれ底面から15cm程度掘り込まれている。

SC－12

5層上位において検出された。平面プランは長軸1.6m・短軸0.85mの長楕円形を呈し、検出面からの深さは1mである。実際の深さについて断定は出来ないが、検出面より数10cm上位から掘り込まれたものと推測される。底部では直線的に配置された4個の逆茂木痕が確認されており、それぞれ底面から25～35cm掘り込まれている。

SC－5

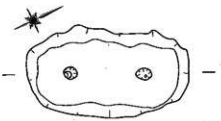
5層上位において検出された。平面プランは長軸2.3m・短軸1mの長楕円形を呈し、検出面からの深さは0.9mである。実際の深さについて断定は出来ないが、検出面より10～20cm上位から掘り込まれたものと推測される。底部では直線的に配置された5個の逆茂木痕が確認されており、それぞれ底面から15～20cm掘り込まれている。

SC－13

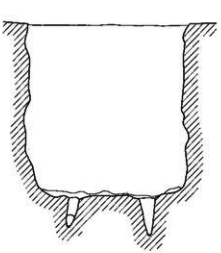
5層上位において検出された。平面プランは長軸2m・短軸0.8mの長楕円形を呈し、検出面からの深さは0.75mである。実際の深さについて断定は出来ないが、検出面より10～20cm上位から掘り込まれたものと推測される。この遺構については、底部で逆茂木痕は確認されていないが、その形状からみて陥し穴として使用されていた可能性が高いと考え、今回は陥し穴状遺構として記録した。

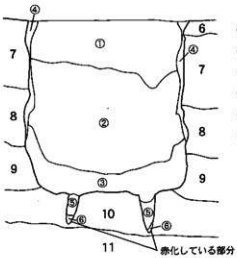
第3表　陥し穴状遺構観察表

	遺構No	検出面	^{14}C年代（年BP）	サイズ（長軸）×（短軸）×（深さ）（m）	逆茂木 数（本）	逆茂木（直径）×（深さ）（m）	備考
1	SC－4	6層上面		1.3 × 0.7 × 1.4	2	0.1 × 0.2～0.3	
2	SC－8	6層上面		1.5 × 1 × 1.7	2	0.1 × 0.15	
3	SC－3	4層下位	8820±50	1.6 × 0.85 × 1.6	3	0.1 × 0.15～0.25	
4	SC－7	5層上位		1.6 × 1 × 1.4	2	0.08 × 0.15	
5	SC－12	5層上位		1.6 × 0.85 × 1	4	0.15 × 0.25～0.35	
6	SC－5	5層上位		2.3 × 1 × 0.9	5	0.1～0.15 × 0.15～0.2	
7	SC－13	5層上位		2 × 0.8 × 0.75	－	－ × －	



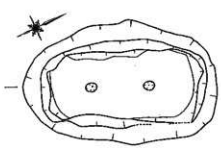
L=65.00m





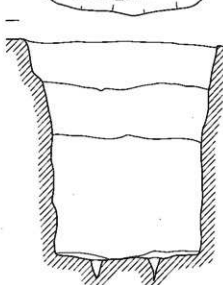
①7.5YR3/2(黒褐色)シルト質ローム　やや硬質　白色・褐色パミスを含む。
②10YR2/3(黒褐色)シルト質ローム　やや硬質　2~5mmの明褐色粒を含む。白色・褐色パミスを多く含む。
③10YR3/4(暗褐色)シルト質ローム　やや硬質　褐色パミスを極わずかに含む。
④10YR3/3(暗褐色)シルト質ローム　やや軟質　地山ブロックが混入。
⑤10YR4/4(褐色)砂質ローム　地山(10層)ブロックが30%ほど混入。
⑥10YR2/3(黒褐色)シルト質ローム　地山(10層)ブロックがわずかに混入。
＊6~11については、第3図 基本土層図の土層番号を用いている。

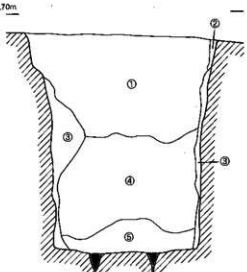
SC－4



①10YR2/2(黒褐色)シルト質ローム　硬質　オリーブ色土小ブロック(円形)が縞状(15%程度)に混ざり込む。
②　①に地山ブロック(4層)が混入。
③　①とほぼ同質、砂質粒を含む。
④10YR2/2(黒褐色)シルト質ローム　やや硬質　オリーブ色土小ブロック(円形)が縞状(30%程度)に混ざり込む。
⑤10YR4/2(灰黄褐色)シルト質ローム　やや硬質
＊逆茂木の土層については確認作業が不十分。

L=64.70m

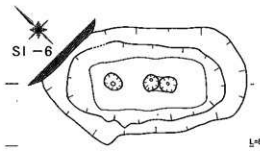




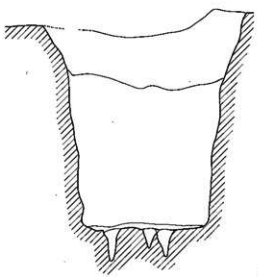
SC－8

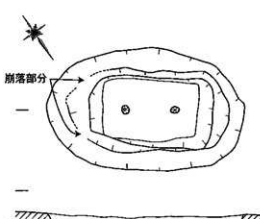
0　1m

第14図　縄文時代早期陥し穴状遺構実測図①（S=1/30）

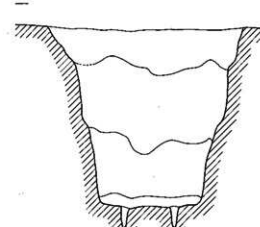


①10YR3/2(黒褐色)シルト質ローム　硬質　炭化粒、白色・褐色パミスを含む。オリーブ色土小ブロック(円形)が縞状(5％程度)に混ざり込む。
②①とほぼ同質。地山(5層)ブロックが混入。炭化粒は含まない。
③①とほぼ同質。ただし、炭化粒は含まない。
④①とほぼ同質。褐色小林軽石小ブロックが混入。
⑤10YR6/3(にぶい黄橙色)ローム　軟質　やや粘性あり
⑥10YR3/2(黒褐色)シルト質ローム　硬質　オリーブ色土小ブロック(円形)が縞状(20％程度)に混ざり込む。
⑦⑥とほぼ同質。シラス粒がわずかに混入。
＊遺存木の土層については確認作業が不十分。

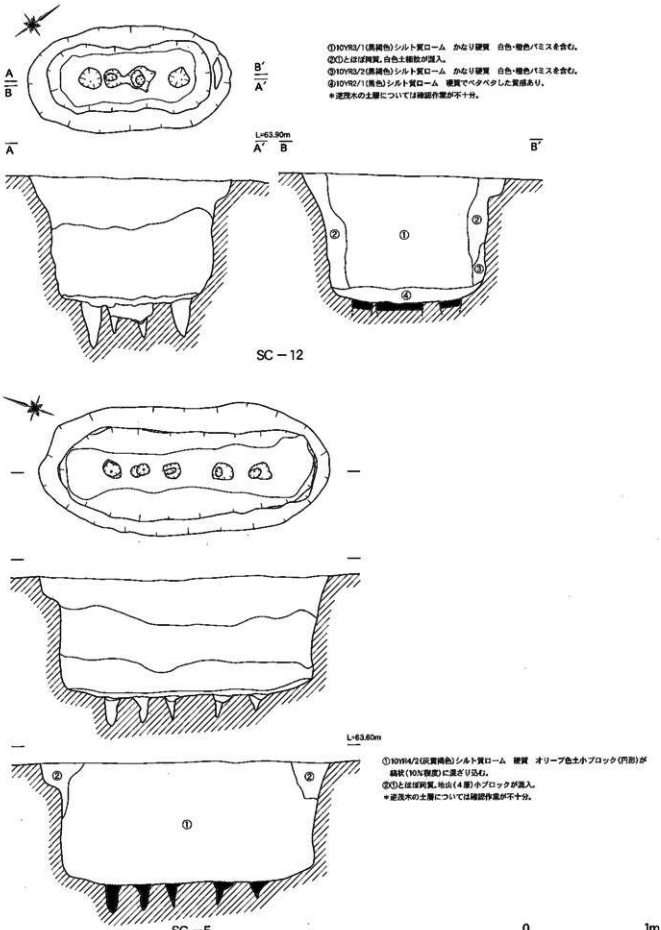




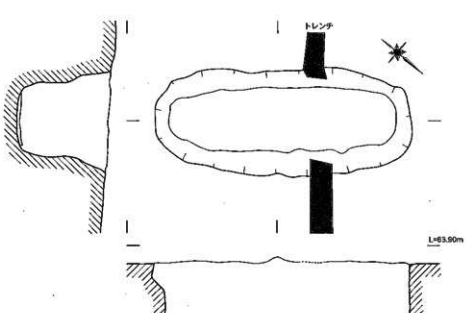
①10YR2/1(黒色)シルト質ローム　硬質　オリーブ色土小ブロック(円形)が縞状(10％程度)に混ざり込む。
②10YR4/2(灰黄褐色)シルト質ローム　硬質　オリーブ色土小ブロック(円形)が縞状(10％程度)に混ざり込む。地山(4層)ブロックが混入。
③10YR2/2(黒褐色)シルト質ローム　硬質　オリーブ色土小ブロック(円形)が縞状(5％程度)に混ざり込む。
④③とほぼ同質。褐色・小林軽石小ブロックが混入。
⑤10YR4/1(褐灰色)シルト質ローム　やや粘性あり。
⑥10YR2/2(黒褐色)シルト質ローム　硬質。
＊遺存木の土層については確認作業が不十分。



第15図　縄文時代早期陥し穴状遺構実測図②（S=1/30）



第16図　縄文時代早期陥し穴状遺構実測図③（S=1/30）



第17図　縄文時代早期陥し穴状遺構実測図④（S=1/30）

3．土　坑

SC－9

4層中位で検出された。平面プランが長軸1.5m，短軸0.8mの長楕円形で、検出面からの深さは0.2～0.3mであった。断面形状及び埋土中に含まれる焼土粒や炭化粒からみて炉穴である可能性が高いと考えられるが、ブリッジやその痕跡であるくびれ部が確認されていないため、今回は土坑として記録した。また、埋土からは縄文時代早期前葉から中葉の土器片や頁岩製剥片が出土したが、遺構の使用時期とは直接関係ないものと思われる。

SC－10

4層中位で検出された。平面プランが長軸1.8m，短軸1.05mの長楕円形で、検出面からの深さは0.35～0.4mであった。断面形状及び埋土中の炭化粒からみて炉穴である可能性も考えられるが、ブリッジやその痕跡であるくびれ部が確認されていないため、今回は土坑として記録した。

SC－11

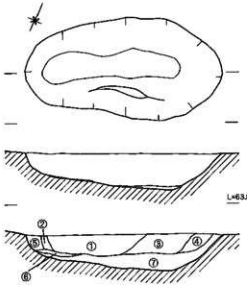
4層中位で検出された。平面プランが長軸1.05m，短軸0.75mの楕円形で、検出面からの深さは0.2～0.3mであった。埋土中には炭化物を多く含み、また用途については不明である。

SC－6

4層中位で検出された。平面プランが長軸0.8m，短軸0.6mの楕円形で、検出面からの深さは0.2mであった。用途については不明であるが、使用礫が疎らなタイプの集石遺構の下部である可能性も否定できない。

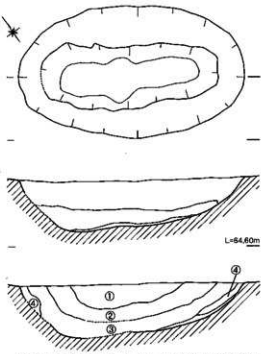
SC－14

4層下位で検出された。平面プランが直径約１mの円形で、検出面からの深さは0.08mであった。用途については不明であるが、SC－６同様使用礫が疎らなタイプの集石遺構の下部である可能性も否定できない。



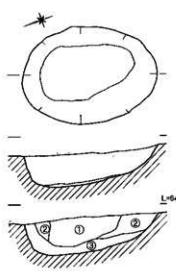
①10YR1.7/1(黒色)シルト質ローム　やや硬質　炭化粒を多く含む。白色パミスを含む。
②10YR2/1(黒色)シルト質ローム　やや硬質　炭化粒を含む。白色パミスを含む。
③10YR2/3(黒褐色)シルト質ローム　炭化粒を含む。白色パミスをわずかに含む。
④10YR3/3(暗褐色)シルト質ローム　炭化粒を含む。白色パミスを極わずかに含む。
⑤10YR4/3(にぶい黄褐色)シルト質ローム　地山(4層)の2次的なものか？
⑥10YR4/2(灰黄褐色)シルト質ローム　炭化粒をわずかに含む。鎮土の小粒(2～4mm)をわずかに含む。
⑦7.5Y3/3(暗褐色)シルト質ローム　炭化粒・炭化材(1cm程度)を含む。鎮土の小粒(2～4mm)を含む。

SC－9



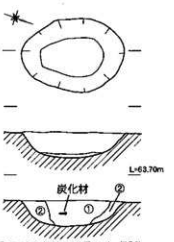
①10YR1.7/1(黒色)シルト質ローム　軟質　炭化粒、白色パミスをわずかに含む。
②10YR3/2(黒褐色)シルト質ローム　やや硬質　炭化粒をわずかに含む。
③10YR4/2(灰黄褐色)シルト質ローム　やや硬質　地山(5層)の2次的なものか？
④10YR4/3(にぶい黄褐色)シルト質ローム　やや硬質　地山(4層)小ブロックが混入。

SC－10



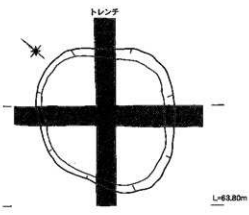
①10YR1.7/1(黒色)シルト質ローム　炭化粒を多く含む。白色パミスを含む。
②10YR3/2(暗褐色)シルト質ローム　炭化粒をわずかに含む。
③10YR4/2(灰黄褐色)シルト質ローム　炭化粒を極わずかに含む。

SC－11



①2.5Y3/1(黒褐色)シルト質ローム　炭化粒・炭化材を多く含む。白色パミスを含む。
②2.5Y4/2(暗灰黄色)シルト質ローム　炭化粒、白色パミスをわずかに含む。地山(4層)の2次的なものか？

SC－6



SC－14

第18図　縄文時代早期土坑実測図（S=1/30）

4．遺構内出土遺物

各遺構の埋土中より、縄文時代早期の土器や石器が数十点出土した。ただし、遺構の使用時期の根拠となるようなものはほとんど確認できなかった。1はSI−49より出土した資料を含む個体である。下剥峯式土器にあたる。口唇部に平坦面を設け、口縁部が直口する。文様構成は口縁部文様帯を持たず、外面全体に横位で鋸歯状の貝殻腹縁刺突文が施すものである。内面調整は横位のミガキである。6はSC−3より出土した資料を含む固体である。無文土器である。器壁は薄い（0.7cm程度）。口縁部は直口する。底部は残っていないが、残存している底部付近の形態から考えると丸底もしくは尖底と思われる。内外面ともナデ調整である。胎土には繊維が混入している様子が窺える。また、口縁部付近に2つの穿孔とそれと対角の位置に1つの穿孔が確認できる。8・9はSC−9より出土した資料である。8は下剥峰式土器の胴部片である。外面に縦位の貝殻腹縁刺突文が施される。内面調整はナデである。9は下剥峰式土器の口縁部片である。口縁部形態は波状口縁で、口縁部上面観はレモン形を呈する。口縁部に横位の貝殻腹縁刺突文を施し、胴部に横位で鋸歯状の貝殻腹縁刺突文を施す。口唇部にはミガキを施す。内面調整は工具によるナデである。

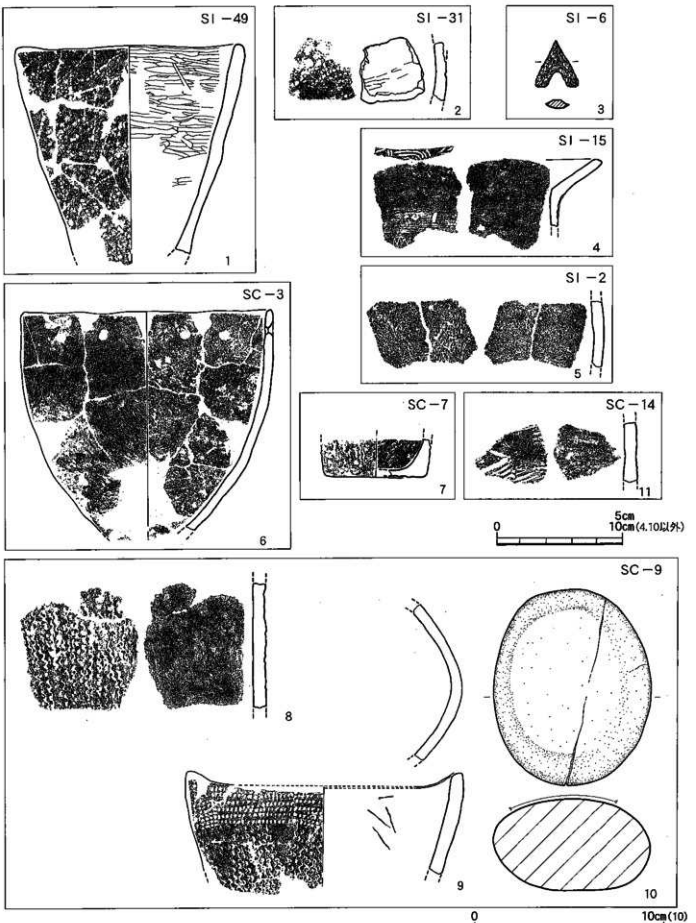
また石器については、SI−6からチャート製打製石鏃、SC−9から砂岩製磨石が出土している。その他に、砂岩製石錘1点・砂岩製磨石1点・砂岩製剥片2点・流紋岩製石核1点・流紋岩製剥片1点・チャート製剥片12点・頁岩製剥片4点・剥片4点が出土している。

第4表　遺構内出土土器観察表

報告書No	遺構No	器形	部位	文様及び調整		色調		胎土						備考	実測No
				外面	内面	外面	内面	石英	長石	キンウンモ	クロウンモ	角閃石	砂粒		
1	SI−49	深鉢	口縁〜胴部	刺突文（貝殻腹縁）	ミガキ	7.5YR6/4（にぶい橙）	7.5YR3/1（黒褐）	○	○				○2mm以下		228
2	SI−31	鉢	胴部	刺突文（貝殻腹縁）	ミガキ	7.5YR5/3（にぶい褐）	10YR3/1（黒褐）	○	○	○			○3mm以下		330
4	SI−15	深鉢	口縁〜頸部	撚糸文　沈線文	ナデ	10YR4/2（灰黄褐）	7.5YR4/2（灰褐）	○		○			○2mm以下	口唇部に沈線文	329
5	SI−2	深鉢	胴部	撚糸文	ナデ	7.5YR5/3（にぶい褐）	10YR4/1（褐灰）	○	○				○1.5mm以下		328
6	SC−3	深鉢	口縁〜胴部	ナデ　穿孔	ナデ	7.5YR5/4（にぶい褐）	7.5YR4/2（灰褐）	○	○				○1.5mm以下	残存部に3個所の穿孔センイ混入スス付着	227
7	SC−7	深鉢	胴部〜底部	刺突文（貝殻腹縁）ナデ	ナデ	7.5YR4/2（灰褐）	7.5YR3/1（黒褐）	○	○				○5mm以下		331
8	SC−9	深鉢	胴部	刺突文（貝殻腹縁）	ナデ	10YR4/2（灰黄褐）	10YR4/1（褐灰）	○	○	○			○2mm以下	波状口縁	333
9	SC−9	深鉢	口縁〜胴部	刺突文（棒状工具　貝殻腹縁）	ナデ（工具痕あり）ミガキ	7.5YR4/1（褐灰）	7.5YR4/2（灰褐）	○	○	○			○2mm以下		332
11	SC−14	鉢	胴部	沈線文	ナデ	10YR3/1（黒褐）	10YR4/2（灰黄褐）	○	○				○3mm以下		334

第5表　遺構内出土石器計測分類表

遺構No	器種	遺構番号	石材	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	備考	整理No
3	打製石鏃	SI−6	チャート	1.85	1.7	0.35	0.6	Ⅳ類	324
10	磨石	SC−9	砂岩	10.4	8.3	4.85	580	被熱　表面のみ磨痕あり	326



第19図　縄文時代早期遺構内出土遺物実測図（土器：S=1/3　石器：S=1/2・2/3）

SI－45・46①（北から）

SI－45・46②《断面》（北西から）

SI－49～52①《検出》（北から）

写真図版3　縄文時代早期遺構①

SI－49～52②（北から）

SI－53①（北から）

SI－53②（北から）

写真図版4　縄文時代早期遺構②

SI－53③《断面》（北から）

SI－54（西から）

SI－24～26《検出》（北から）

写真図版5　縄文時代早期遺構③

SI－28①（北から）

SI－28②《断面》（北から）

SI－29・30①《検出》（東から）

写真図版6　縄文時代早期遺構④

SI－29・30②（東から）

SI－30《底石》（東から）

SI－31①（南東から）

写真図版7　縄文時代早期遺構⑤

SI －31②《上部礫除去後》（南東から）

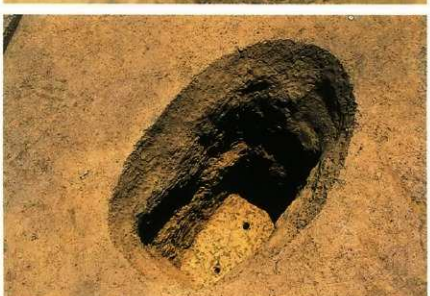
SI －2（北から）

SI －17（北から）

写真図版８　縄文時代早期遺構⑥

SC－3①（北西から）

SC－3②《逆茂木アップ》（北西から）



SC－7（西から）

写真図版９　縄文時代早期遺構⑦

SC－12①（北から）

SC－12②（北から）

SC－8《断面》（東から）

写真図版10　縄文時代早期遺構⑧

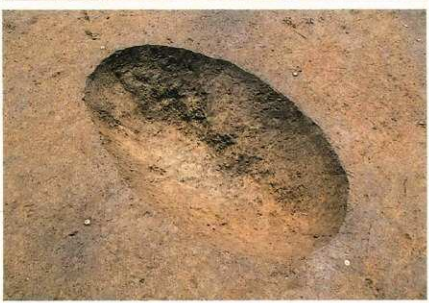
SC－4《土層》（東から）

SC－5（北西から）

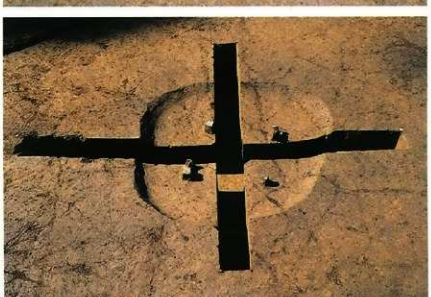
SC－13（北から）

写真図版11　縄文時代早期遺構⑨

SC－10①《埋土確認状況》（北東から）

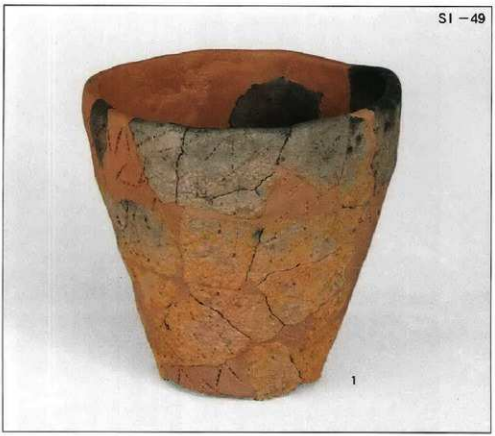


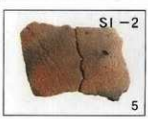
SC－10②（北東から）

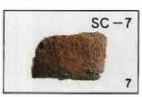


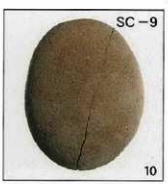
SC－14（北東から）

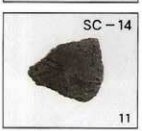
写真図版12　縄文時代早期遺構⑩











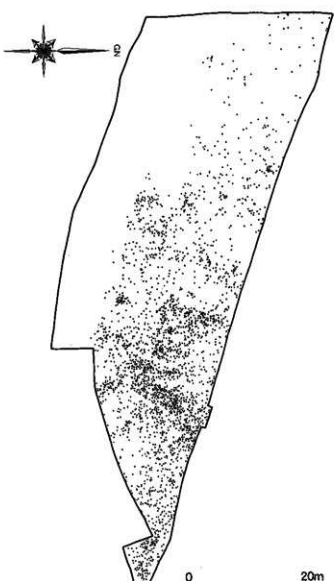
図版13　遺構内出土遺物

第2節　包含層出土遺物

当遺跡における縄文時代早期遺物包含層は、3層上位から4層中位にかけてである。これは同台地上に立地する他の近隣遺跡とほぼ同じ傾向で、なかでも4層上位から中位にかけては、集石遺構となんらかの関係があるものと思われる礫とともに集中して出土する状況がみられる。尚、今回の調査においては、この包含層から計5944点の土器や石器が出土している。

1．土器

縄文時代早期の土器については、3層上位から4層中位にかけて出土している。大別すると**無文土器、押型文土器、下剥峯式土器、桑ノ丸式土器、平栫式土器、塞ノ神式土器、早期末貝殻条痕文土器**で、分布状況については第21図のとおりである。



第20図　縄文時代早期遺物分布図（S=1/600）

無文土器（1～5）

無文土器は、大分県二日市洞穴の土器群とその層位的成果から底部形態が平底→丸底→尖底と変遷し、調整も条痕調整からナデ調整へと変遷するというのが一般的な理解であろう。そのため、無文土器の変遷を考える上で器形と調整方法に着目し分類を行なうことが有効であると考えられる。しかし、本調査区の資料は小破片が多く器形が分かる資料が少ないため、全ての遺物を検討することのできる調整方法のみに着目し以下のように分類を行なった。

Ⅰ類…内外面ともにナデ調整のもの。

Ⅱ類…外面調整はナデ、内面調整は貝殻条痕文のもの。

Ⅰ類は1～3が該当する。1・2は口縁部片である。1は器壁が薄く（0.6cm程度）、口縁端部がやや外反する。2は器壁が厚く（0.9cm程度）、口縁部が直口する。3は尖底を呈する底部片である。Ⅱ類は4～5が該当する。4は口縁部片である。器壁が厚く（0.9cm程度）、口縁部が直口する。

押型文土器（6～27）

近年、南九州の押型文土器には複数系統存在することが指摘されている。南九州の押型文土器の編年的位置付けについて考察するには、まず各系統に大別した後、その系統ごとに編年を組んでいくことが有効であると考える。そこで本報告書では、始めに系統差を最も表すと考えられる胎土・器壁の厚さ・調整方法に着目し、以下のように分類を行なった。

Ⅰ類…色調がにぶい赤褐色・にぶい褐色系統を呈し、器壁が薄いもの（0.5～0.8cm）。内面調整はナデである。

Ⅱ類…色調がにぶい橙色系統を呈し、器壁が厚いもの（1.0～1.4cm）。胎土に多量の

角閃石を含む。内面調整はミガキもしくはナデである。

次に時期差を表すと考えられる外面施文に着目し、以下のように細分を行なった。

a類…外面に押型文を帯状に施文するもの。

b類…外面全面に横位の押型文を施すもの。

Ⅰa類は6～14が該当する。6～8は口縁部片でいずれも直口する。6は外面に楕円押型文を帯状に施文する。内面は無文である。7・8は外面に短枝回転文を帯状に施文する。口縁部内面にも横位の短枝回転文が施される。9～14は胴部片である。9～12は楕円押型文を帯状に施文したもの、13・14は短枝回転文を帯状に施文したものである。Ⅰb類は15～19が該当する。15は口縁部片である。口縁部形態は直口する。外面は横位の山形押型文、内面は櫛状文の下に横位の山形押型文が施される。16～19は胴部片である。いずれも外面に横位の山形押型文が施されている。Ⅱa類は20のみ該当する。口縁部は直口する。外面は横位の山形押型文を帯状に施文する。内面調整はミガキである。Ⅱb類は21～27が該当する。外面施文はいずれも横位の山形押型文である。21～23は口縁部片でいずれも直口する。内面調整は21がナデ、22・23がミガキである。22は山形押型文を施した後に、一部貝殻条痕文を施している。24～26は胴部片である。27は底部片で平底を呈する。

下剥峯式土器（28～68）

近年の下剥峯式土器の編年的研究の成果により「口縁部文様帯を有するもの」から「口縁部文様帯が消失して胴部文様帯のみで構成されるもの」への変遷が指摘されている。そのため、分類に当たっては口縁部文様帯の有無によって大別し、さらに胴部文様帯の文様構成の違いによって分類することが有効であると考え、口縁部片を以下のように分類を行なった。

Ⅰ類…口縁部文様帯（横位の貝殻腹縁刺突文）を持つもの。

Ⅰa類…胴部に横位で鋸歯状の貝殻腹縁刺突文が施されるもの。

Ⅰb類…胴部に縦位で鋸歯状の貝殻腹縁刺突文が施されるもの。

Ⅱ類…口縁部文様帯を持たないもの。

Ⅱa類…横位で鋸歯状の貝殻腹縁刺突文が施されるもの。

Ⅱb類…ハの字状の貝殻腹縁刺突文が施されるもの。

Ⅱc類…横位の貝殻腹縁刺突文が施されるもの。

さらに口縁部文様帯の有無について判断できない胴部片を便宜上Ⅲ類とし、文様構成から以下のように分類を行なった。

Ⅲa類…横位で鋸歯状の貝殻腹縁刺突文が施されるもの。

Ⅲb類…縦位で鋸歯状の貝殻腹縁刺突文が施されるもの。

Ⅲc類…横位に貝殻腹縁刺突文が施されるもの。

28～41は口縁部片である。Ⅰa類は28・29が該当する。いずれも口縁端部はわずかに内傾する。Ⅰb類は30・31が該当する。いずれも口縁端部が肥厚するものである。30は内外面両側から穿孔しようとした様子が窺えるがいずれも未貫通である。外面の穿孔と内面の穿孔はやや位置がずれている。また、外面の穿孔は貫通直前までいっており、さらに外面からの穿孔が要因と思われる欠損が確認できる。以上のことから次のような行為が想定される。まず、両側から穿孔を行おうとしたがやや位置がずれてしまった。そのため、外面からの穿孔で孔を開けようとしたが欠損してしまったため、穿孔の行為自体を諦めてしまったものと考えられる。34・35は小破片のため、Ⅰ類に該当するものか、Ⅱc類に該当するものか判断できなかった。34は口唇部に平坦面を設け、口縁部が直口するもの、35は口縁端部が肥厚するものである。Ⅱa類は36・37が該当する。36は口唇部に平坦面を設け、口縁部がやや内湾し、胴部に突帯を持ち、その上に横位の貝殻腹縁刺突文が施されているものである。37は口縁部が内傾する。Ⅱb類は38が該当する。口唇部には平坦面を設ける。口縁部形態はやや内湾する形態である。Ⅱc類は33・39・40が該当する。32も33と同一個体と思われるので、このタイプに属するものと考えられる。32・33・39は口縁端部が肥厚する。40は口唇部がやや丸みを帯び、口縁部が直口するものである。41は剥離のため文様構成が不明であり、分類不可能であった。41は口唇部に平坦面を設け、口縁部はやや内湾する形態のものである。

42～66は胴部片である。Ⅲa類は42～51が該当する。Ⅲb類は58が該当する。52～57・66はⅢa類かⅢb類のいずれかに分類されるものだが、小破片のためその判別はつかなかった。Ⅲc類は59～65が該当する。

67・68は底部片である。貝殻腹縁刺突文は確認できなかったが、本調査区で出土した資料のうち下剥峯式土器の胎土と最も類似するため、下剥峯式土器に含めて報告を行なうこととした。いずれも底部外面にミガキが施される。

桑ノ丸式土器（69）

桑ノ丸式土器は1点のみの出土であった。69は胴部片である。外面は貝殻条痕による流水文である。内面調整はミガキである。

平椿式土器（70～73）

平椿式土器は4点出土した。70は浅い波状を呈する口縁部片で、薄手で幅広の肥厚帯を作り出し、そこに沈線文や刺突文が施されている。71・72はいずれも浅い波状を呈する口縁部片で、口縁部外面に沈線文が施されている。73は沈線文が施された胴部片である。

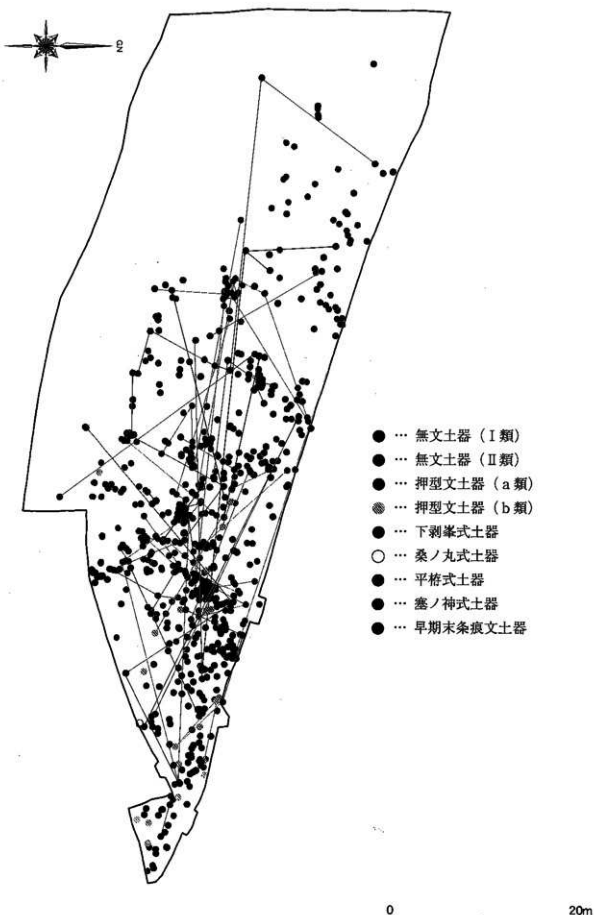
塞ノ神式土器（74～174）

塞ノ神式土器は当調査区において最も多く出土した土器群である。74・75はラッパ状に開く口縁部を中頃から屈曲させたものである。主な文様構成は沈線文と刺突文で、屈曲部や口唇部にはキザミ目が施されている。76～78はラッパ状に開く口縁部が緩やかに内湾するもので、文様構成は74・75とよく似ている。79・80は胴部片で、文様から頸部付近ではないかと推測されるが詳細は不明である。81～84・86～89は口縁部にキザミ目が施された微隆帯を巡らした口縁部片（89のみが波状口縁）である。いずれもラッパ状に開くが、なかにはやや内湾しながら開くものもみられる。主な文様構成は沈線文と刺突文で、口唇部にはキザミ目が施されている。尚、85は沈線文が施された口縁部片であるが、胎土等は81～84・86～89とよく似ている。90～95はキザミ目が施された微隆帯を巡らした口縁部片（95のみが波状口縁）で、口唇部が平らなものと尖り気味なものがみられる。96～99はキザミ目が施された微隆帯を巡らした頸部及び胴部で、98は微隆帯下位に沈線文が、99は同じく微隆帯下位に撚糸文が施されている。100～102は壺の口縁部である。100・101は無文だが、102は沈線文が施されている。103～119はラッパ状に開く口縁部をもち、胴部には沈線文と撚糸文が施されたいわゆる撚糸文系の塞ノ神式土器の一群である。103はほぼ直に立ち上がった胴部からラッパ状に口縁部(波状)が開き、口唇部にはキザミ目が施されている。また頸部から胴部上位にかけては4条の沈線文が、そしてその下位には撚糸文が施されている。104は頸部で、4条の沈線文が施され、その下位にはわずかではあるが撚糸文が確認できる。105は上げ底気味の底部からほぼ直に胴部が立ち上がっていて、撚糸文が施された後に沈線文が施されている。106・107・109～115は撚糸文及び沈線文が施された胴部片である。106は胴部がやや張る形状のものだと推測されるが、その他は小破片のためプロポーションまでは断定できない。117は沈線文が施された頸部片であるが、小破片のため詳細は不明である。108・116・118・119は撚糸文や沈線文が施された底部片で、いずれも小破片のため詳細は把握しにくい。120～124は頸部からラッパ状に開いた口縁部片（120～123は波状、124は平口縁）で、沈線文が施されている。125は120～124と同タイプの頸部片で、沈線文が施されている。126～152は沈線文（篦描きが多い）によって作り出された区画内に、縄文系の文様が施された一群である。126はやや内湾する口縁部片で、壺に近いプロポーションが予想される。127～136・142・144～152は胴部片である。127・133・134・150は先述の文様に加えて刺突文が施されている。137・138は底部片である。138は上げ底気味ではないかと予想されるが、いずれも小破片のため詳細は不明である。153～163は貝殻腹縁による連続刺突文が施された一群である。153～156は口縁部片で、口唇部が153・155は平らに、154はやや外傾して、156はやや丸めに仕上げられている。また、157～161は頸部片で、162・163は胴部片である。164～174は貝殻または篦による沈線文が施された一群である。164・165はいずれもラッパ状に開く口縁部片で、164は縦位に165は斜位に平行文が施され、口唇部にはキザミ目が施されている。166～174は胴部片である。地文に貝殻条痕文を施し加えて斜位の沈線文が施されており、170は胴部がやや張る形状のものだと推測されるが、他は小破片のためプロポーションは断定出来ない。

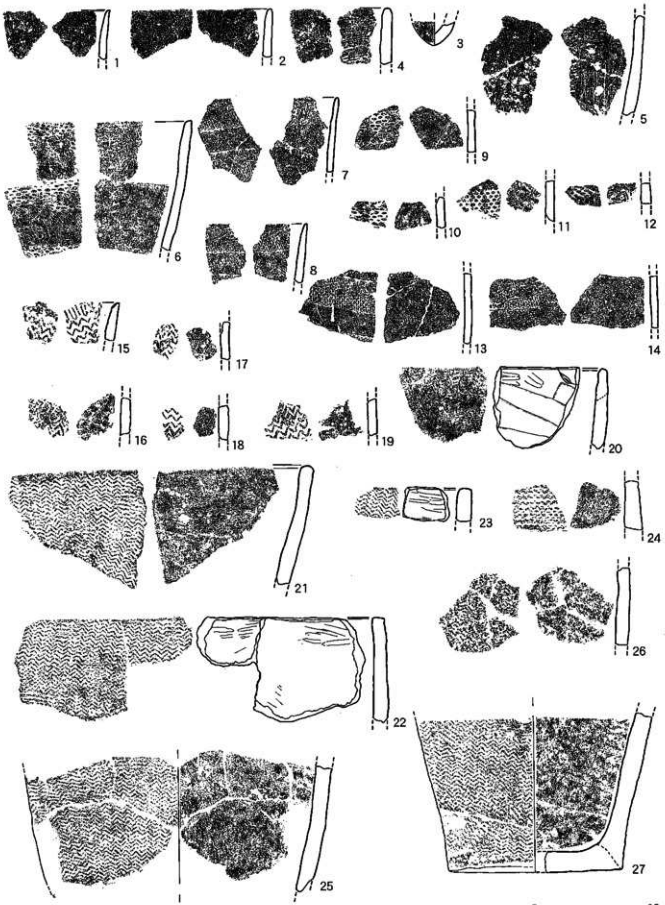
早期末貝殻条痕文土器（175～187）

貝殻条痕文が施された一群で、文様構成については、外面に横・縦位及び斜位の貝殻条痕文が施され、内面には貝殻条痕文が施された後ナデ調整が行われているものが多い（187は外面に流水状の貝殻条痕文が施されている）。また、この一群の土器については、そのほとんどがアカホヤ火山灰層残存範囲の3層上位から中位にかけて出土している。他の土器形式の出土層位には違いが見られず、いずれも混在して出土する状況のなか、この一群については調査中においても明らかに他よりも上位から出土する傾向が確認できた。

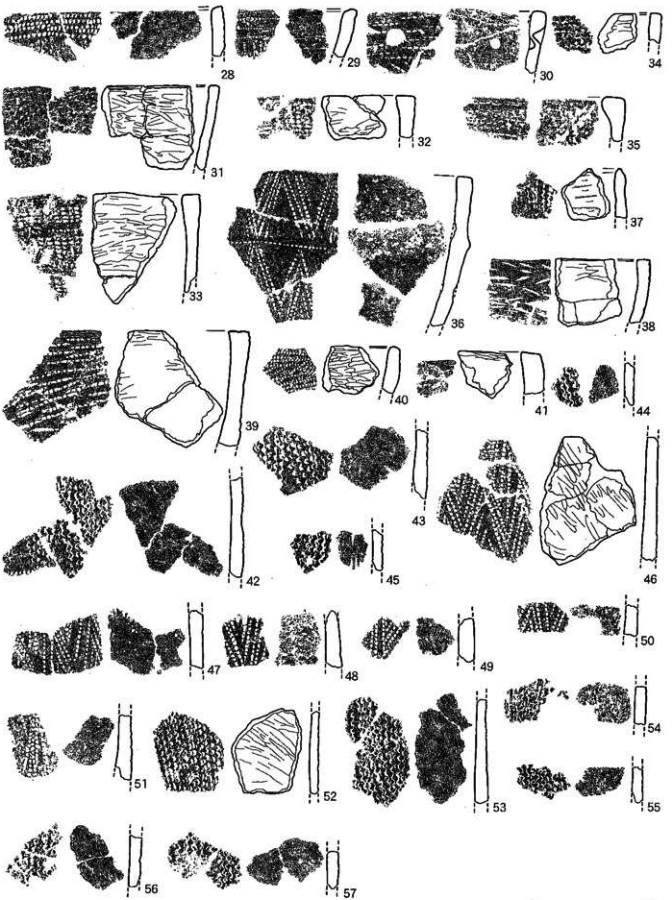
175・178・186は口縁部片である。いずれも口唇部が丸めに仕上げられていて、186はその外面に棒状工具によるキザミ目が施されている。176・177・179～185・187は胴部片であるが、いずれも小破片のため器形は断定することは出来た。



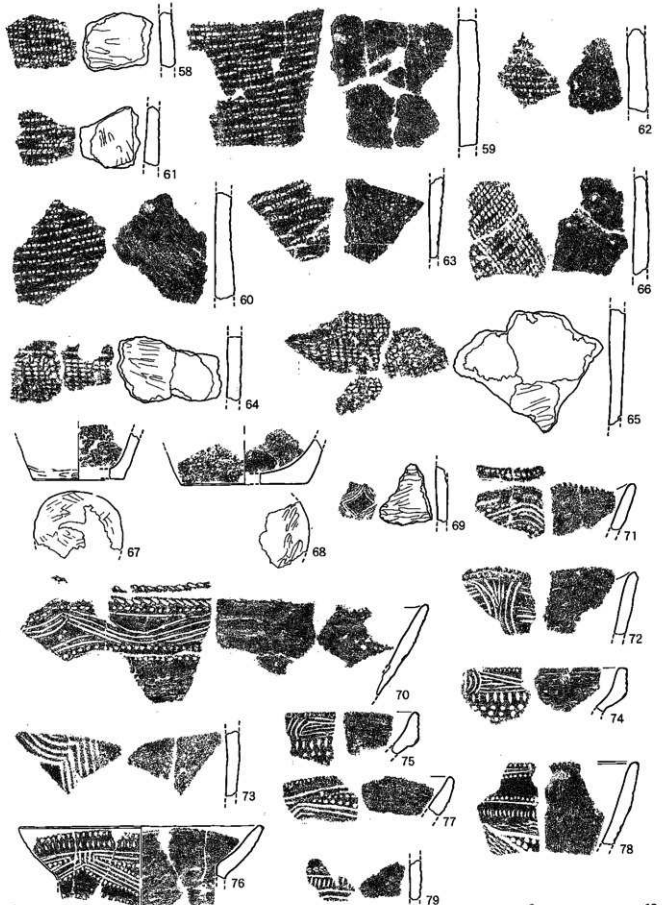
第21図　縄文時代早期遺物包含層出土土器分布図【形式別】(S=1/400)



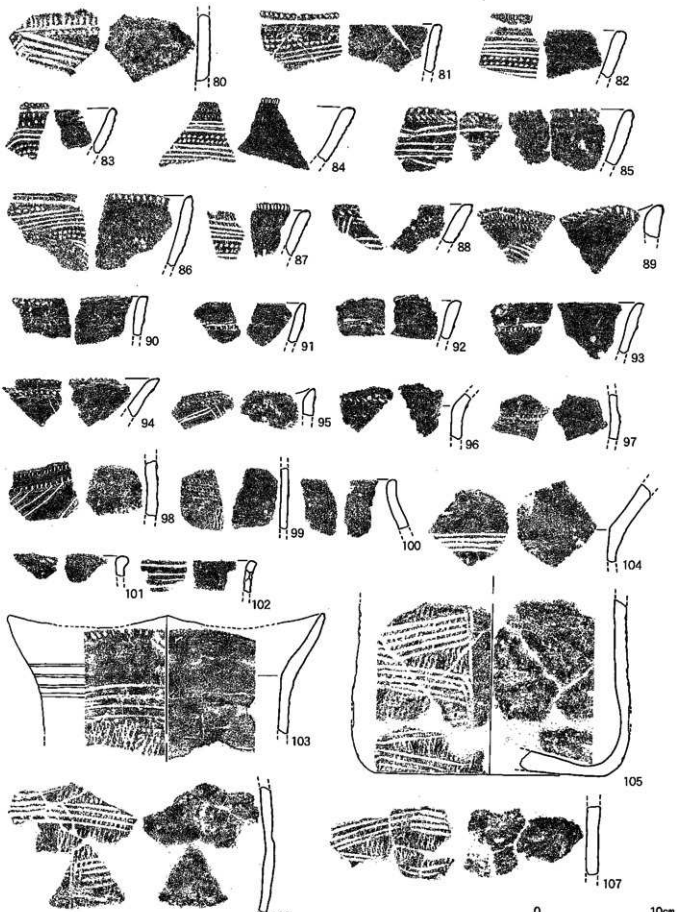
第22図　縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図①（S=1/3）



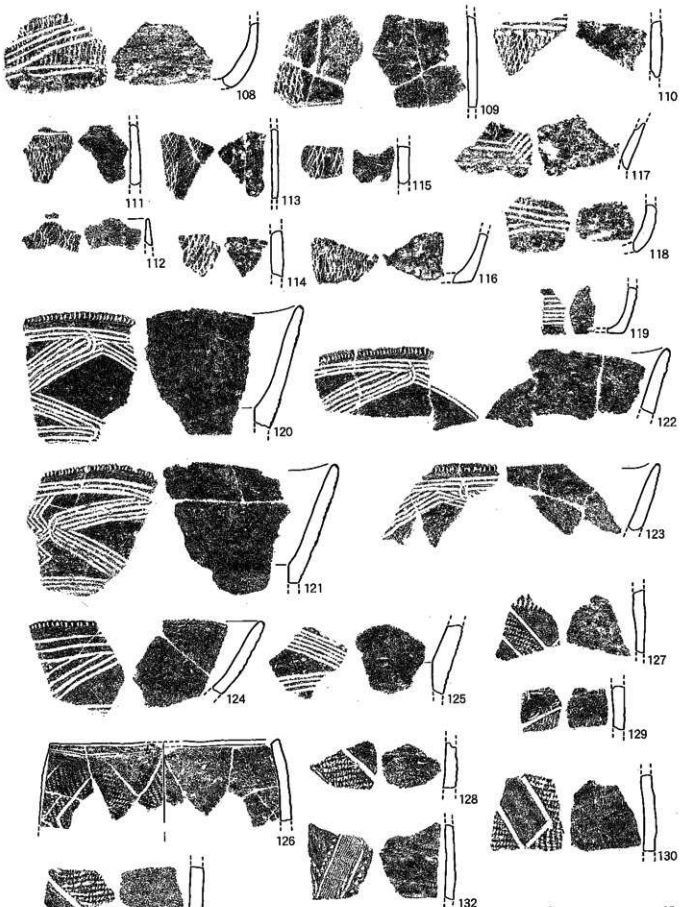
第23図　縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図②（S=1/3）



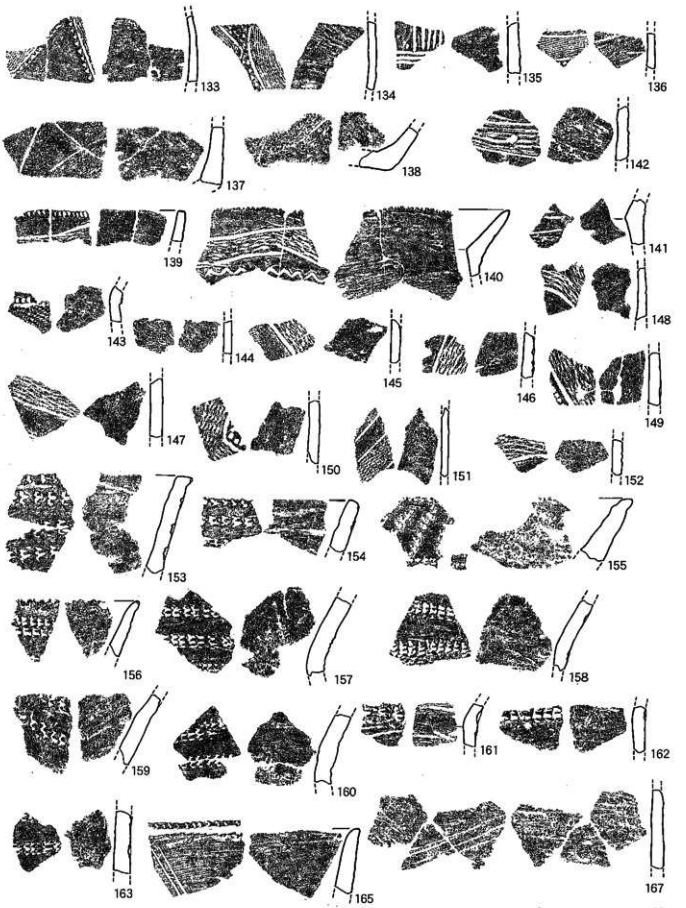
第24図　縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図③（S=1/3）



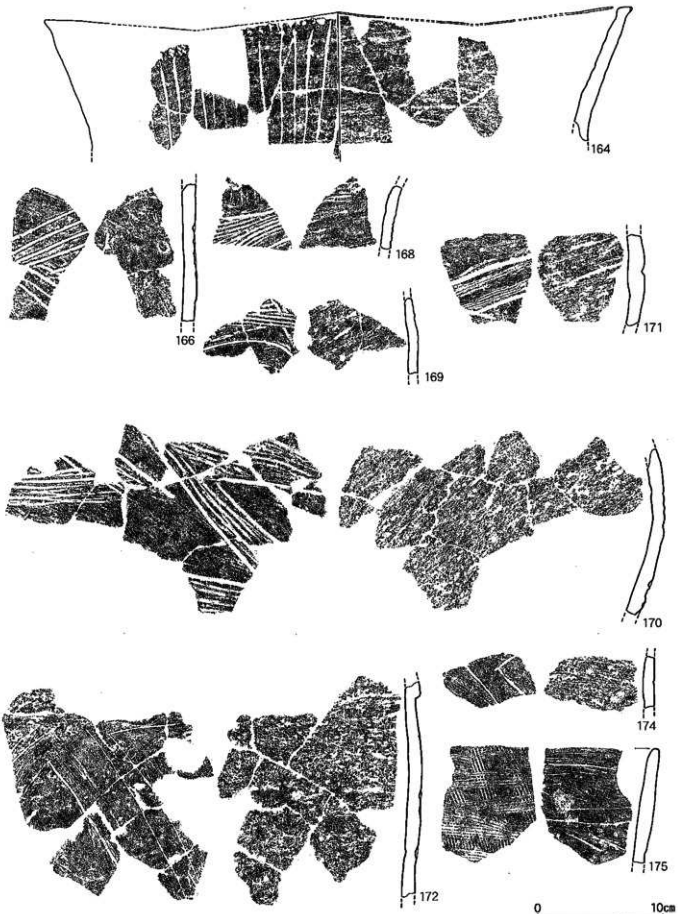
第25図　縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図④（S=1/3）



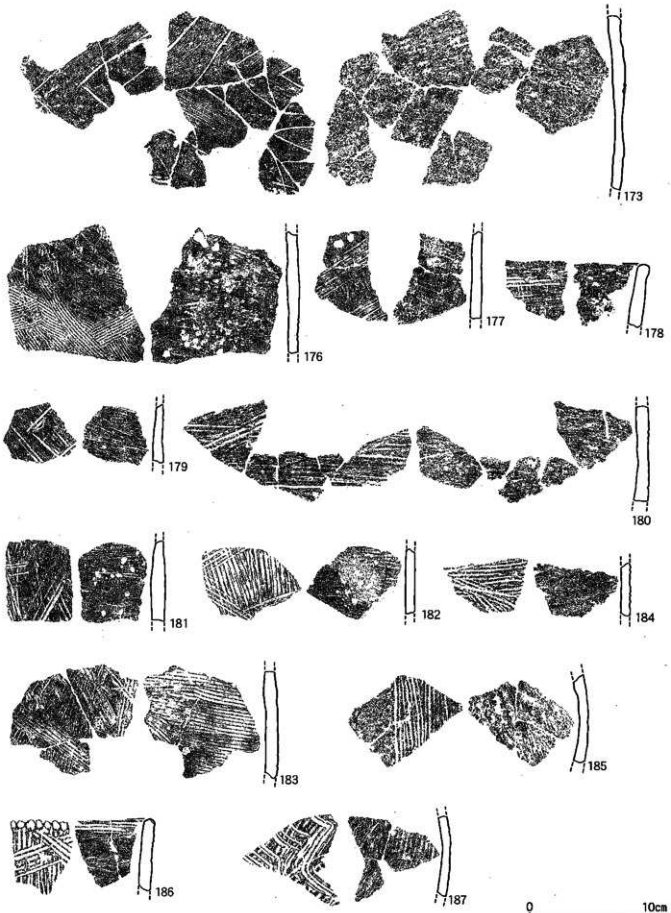
第26図　縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図⑤（S=1/3）



第27図　縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図⑥（S=1/3）



第28図　縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図⑦（S=1/3）



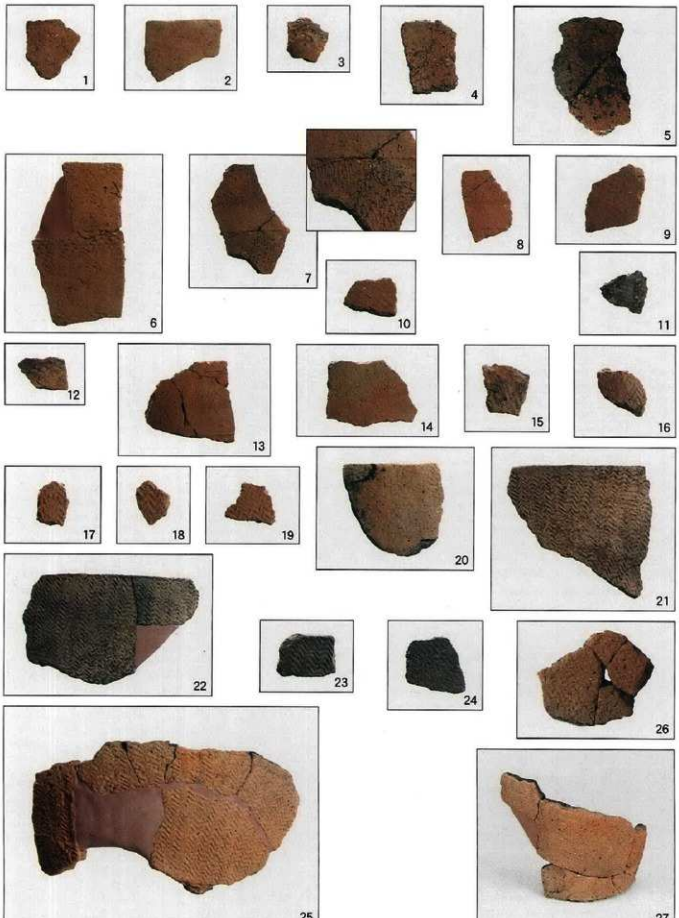
第29図　縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図⑧（S=1/3）

第6表　縄文時代早期遺物包含層出土土器観察表

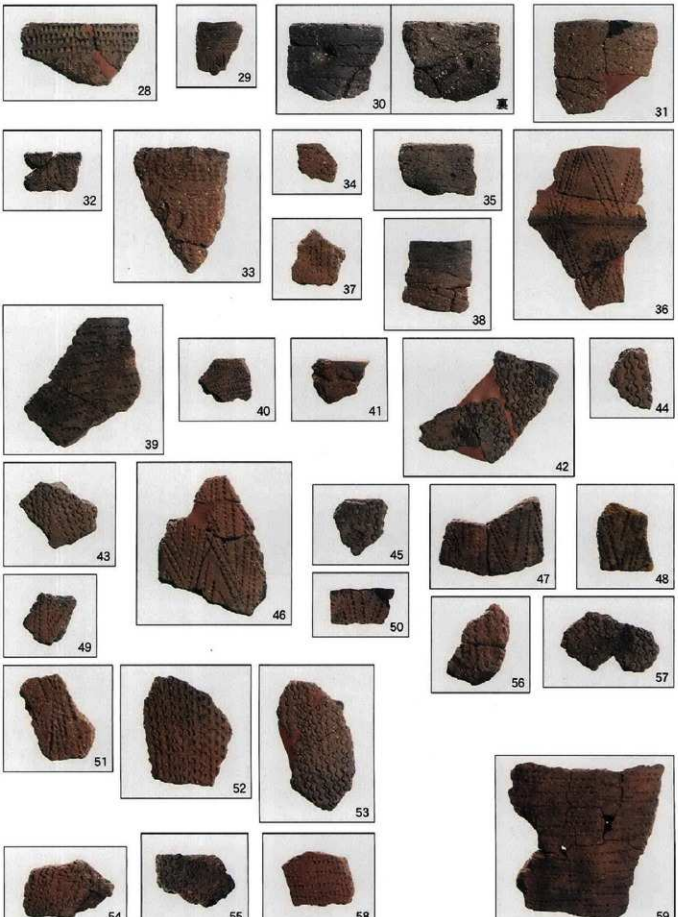
報告書No	出土層位	器形	部位	文様及び調整		色調		胎土						備考	実測No
				外面	内面	外面	内面	石英	長石	キンウンモ	クロウンモ	角閃石	砂粒		
1	4	深鉢	口縁	ナデ	ナデ	7.5YR5/4(にぶい褐)	7.5YR5/3(にぶい褐)	○	○			○	○1mm以下		336
2	4	深鉢	口縁	ナデ	ナデ	7.5YR5/4(にぶい褐)	7.5YR5/4(にぶい褐)	○	○				○5mm以下		335
3	4	深鉢	底部	ナデ	ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	5YR3/1(黒褐)	○					○1mm以下		339
4	4	深鉢	口縁	ナデ	貝殻条痕文	7.5YR4/3(褐)	5YR4/3(にぶい赤褐)	○				○	○1mm以下		337
5	4	深鉢	胴部	ナデ	貝殻条痕文	5YR4/2(灰褐)	7.5YR4/2(灰褐)	○					○3mm以下		338
6	3·4	深鉢	口縁～胴部	楕円押型文(帯状施文)	ナデ	5YR4/3(にぶい赤褐)	7.5YR5/3(にぶい褐)		○			○	○5mm以下		57
7	4	深鉢	口縁	短枝回転文(帯状施文)	短枝回転文　ナデ	5YR4/3(にぶい赤褐)	5YR5/4(にぶい赤褐)	○	○				○5mm以下		223
8	4	深鉢	口縁	短枝回転文(帯状施文)	短枝回転文　ナデ	5YR5/4(にぶい赤褐)	7.5YR5/4(にぶい褐)	○	○				○2mm以下		222
9	4	深鉢	胴部	楕円押型文(帯状施文)	ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	7.5YR5/3(にぶい褐)		○				○2mm以下		59
10	4	深鉢	胴部	楕円押型文(帯状施文)	ナデ	5YR5/4(にぶい赤褐)	7.5YR5/3(にぶい褐)		○				○3mm以下		58
11	4	深鉢	胴部	楕円押型文(帯状施文)	ナデ	2.5YR4/1(赤灰)	10YR4/1(褐灰)		○				○1.5mm以下		61
12	4	深鉢	胴部	楕円押型文(帯状施文)	ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	7.5YR5/4(にぶい褐)		○				○1mm以下		60
13	4	深鉢	胴部	短枝回転文(帯状施文)	ナデ	5YR5/4(にぶい赤褐)	5YR5/4(にぶい赤褐)	○	○				○3mm以下		224
14	4	深鉢	胴部	短枝回転文(帯状施文)	ナデ	5YR5/4(にぶい赤褐)	10YR5/3(にぶい黄褐)	○	○				○2mm以下		225
15	4	深鉢	口縁	山形押型文	柵状文　山形押型文	7.5YR5/3(にぶい褐)	10YR5/3(にぶい黄褐)	○					○3mm以下		44
16	4	深鉢	胴部	山形押型文	ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	7.5YR5/3(にぶい褐)		○				○2mm以下		50
17	4	深鉢	胴部	山形押型文	ナデ	7.5YR5/4(にぶい褐)	7.5YR5/3(にぶい褐)	○	○				○2mm以下		52
18	4	深鉢	胴部	山形押型文	ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	7.5YR4/2(灰褐)		○				○1mm以下		51
19	4	深鉢	胴部	山形押型文	ナデ	5YR5/4(にぶい赤褐)	7.5YR5/3(にぶい褐)		○				○4mm以下		49
20	4	深鉢	口縁～胴部	山形押型文(帯状施文)	ミガキ　工具によるナデ	7.5YR6/4(にぶい橙)	10YR5/3(にぶい黄褐)	○	○			○	○4mm以下	口唇部にミガキ	45
21	4	深鉢	口縁～胴部	山形押型文	ナデ	10YR5/3(にぶい黄褐)	10YR6/3(にぶい黄橙)	○	○			○	○4mm以下		55
22	4	深鉢	口縁～胴部	山形押型文(一部山形押型→[illegible])	ミガキ	10YR5/2(灰黄褐)	10YR5/3(にぶい黄褐)	○	○			○	○2mm以下	口唇部にミガキ	46
23	4	深鉢	口縁	山形押型文	ミガキ	2.5YR4/1(黄灰)	10YR5/2(灰黄褐)	○				○	○2mm以下	口唇部にミガキ	54
24	4	深鉢	胴部	山形押型文	調整不明(剥離が激しい)	10YR4/1(褐灰)	7.5YR4/2(灰褐)	○	○			○	○3mm以下		53
25	4	深鉢	胴部	山形押型文	ナデ	7.5YR6/4(にぶい橙)	10YR5/3(にぶい黄褐)	○	○			○	○6mm以下		47
26	4	深鉢	胴部	山形押型文	ナデ?(剥離が激しい)	7.5YR6/4(にぶい橙)	7.5YR4/2(灰褐)	○	○			○	○3mm以下		48
27	3·4	深鉢	胴部～底部	山形押型文	ナデ	7.5YR6/4(にぶい橙)	10YR5/3(にぶい黄褐)	○	○			○	○7mm以下		56
28	4	深鉢	口縁	刺突文(貝殻腹縁)	ナデ　ミガキ	10YR5/2(灰黄褐)	7.5YR5/3(にぶい褐)	○	○	○			○4mm以下	口唇部にミガキ	65
29	4	深鉢	口縁	刺突文(貝殻腹縁)	ナデ　ミガキ→ケズリ	7.5YR4/2(灰褐)	2.5YR3/1(黒褐)	○	○			○	○1.5mm以下	口唇部にミガキ	100
30	4	深鉢	口縁	刺突文(貝殻腹縁)	ナデ?(剥離が激しい)	10YR4/1(褐灰)	10YR5/2(灰黄褐)	○	○	○			○3mm以下	内外面に未貫通孔	101
31	4	深鉢	口縁～胴部	刺突文(貝殻腹縁)	ミガキ	7.5YR5/3(にぶい褐)	10YR4/1(褐灰)	○	○				○3mm以下	口唇部にミガキ	62
32	4	深鉢	口縁	刺突文(貝殻腹縁)	ミガキ	7.5YR4/2(灰褐)	7.5YR4/2(灰褐)			○			○3mm以下	口唇部にミガキ	81
33	4	深鉢	口縁	刺突文(貝殻腹縁)	ミガキ	7.5YR5/3(にぶい赤褐)	7.5YR4/2(灰褐)	○	○	○			○4mm以下	口唇部にミガキ	80
34	4	深鉢	口縁	刺突文(貝殻腹縁)	ミガキ	7.5YR5/3(にぶい褐)	7.5YR4/1(褐灰)		○	○			○2mm以下	口唇部にミガキ	63
35	4	深鉢	口縁	刺突文(貝殻腹縁)	ナデ?(剥離が激しい)	2.5YR5/2(暗灰黄)	7.5YR5/2(灰褐)	○	○				○4mm以下		84
36	3·4	深鉢	口縁～胴部	刺突文(貝殻腹縁)突帯文	ナデ	10YR4/2(灰黄褐)	5YR5/3(にぶい赤褐)	○	○	○			○3mm以下	口唇部にミガキ	77
37	4	深鉢	口縁	刺突文(貝殻腹縁)	ケズリ	7.5YR5/3(にぶい褐)	7.5YR4/1(褐灰)	○	○				○5mm以下	口唇部にミガキ?	66
38	4	深鉢	口縁	刺突文(貝殻腹縁)	ミガキ	7.5YR4/2(灰褐)	7.5YR4/2(灰褐)	○	○	○			○2mm以下	口唇部にミガキ	83
39	4	深鉢	口縁	ミガキ→刺突文(貝殻腹縁)	ミガキ　ナデ	7.5YR4/1(褐灰)	5YR4/2(灰褐)	○	○				○3mm以下	口唇部にミガキ	79
40	4	深鉢	口縁	刺突文(貝殻腹縁)	ミガキ	7.5YR4/2(灰褐)	5YR4/3(にぶい赤褐)	○	○	○			○2.5mm以下	口唇部にミガキ	78
41	4	深鉢	口縁	刺突文(貝殻腹縁)	ミガキ	5YR4/2(灰褐)	7.5YR4/2(灰褐)	○	○				○3mm以下	口唇部にミガキ	82
42	3·4	深鉢	胴部	刺突文(貝殻腹縁)	ナデ	10YR4/2(灰黄褐)	10YR5/2(灰黄褐)	○	○	○			○4mm以下		69
43	4	深鉢	胴部	刺突文(貝殻腹縁)	ナデ	10YR5/2(灰黄褐)	10YR5/2(灰黄褐)	○	○	○			○3mm以下		73
44	4	深鉢	胴部	刺突文(貝殻腹縁)	ナデ	10YR5/2(灰黄褐)	10YR4/1(褐灰)	○	○				○1mm以下		76
45	4	深鉢	胴部	刺突文(貝殻腹縁)	ナデ	10YR4/1(褐灰)	7.5YR4/1(褐灰)		○			○	○2mm以下		70
46	4	深鉢	胴部	刺突文(貝殻腹縁)	ミガキ	7.5YR5/4(にぶい褐)	10YR4/1(褐灰)	○	○	○			○3mm以下		94
47	4	深鉢	胴部	刺突文(貝殻腹縁)	ナデ	7.5YR4/2(灰褐)	7.5YR4/2(灰褐)	○	○	○			○4mm以下		93
48	4	深鉢	胴部	刺突文(貝殻腹縁)	ナデ?(剥離が激しい)	7.5YR4/1(褐灰)	5YR4/3(にぶい赤褐)	○		○			○2mm以下		86
49	4	深鉢	胴部	刺突文(貝殻腹縁)	ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	10YR4/2(灰黄褐)	○	○				○3mm以下		89
50	4	深鉢	胴部	刺突文(貝殻腹縁)	ナデ	10YR4/2(灰黄褐)	7.5YR4/2(灰褐)	○	○	○			○2mm以下		91
51	4	深鉢	胴部	刺突文(貝殻腹縁)	ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	7.5YR4/2(灰褐)	○	○	○			○2mm以下		92
52	4	深鉢	胴部	刺突文(貝殻腹縁)	ミガキ	7.5YR5/3(にぶい褐)	7.5YR4/2(灰褐)	○	○			○	○2mm以下		71
53	4	深鉢	胴部	刺突文(貝殻腹縁)	ナデ	10YR4/2(灰黄褐)	10YR4/1(褐灰)	○	○	○			○4mm以下		68
54	4	深鉢	胴部	刺突文(貝殻腹縁)	ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	10YR4/1(褐灰)	○	○				○5mm以下		74
55	4	深鉢	胴部	刺突文(貝殻腹縁)	ナデ	7.5YR4/2(灰褐)	5YR4/2(灰褐)		○	○			○3mm以下		75
56	4	深鉢	胴部	刺突文(貝殻腹縁)	ナデ	7.5YR4/2(灰褐)	10YR4/1(褐灰)	○	○				○4mm以下		72
57	3·4	深鉢	胴部	刺突文(貝殻腹縁)	ナデ	7.5YR4/1(褐灰)	10YR5/2(灰黄褐)	○	○	○			○3mm以下		67
58	4	深鉢	胴部	刺突文(貝殻腹縁)	ミガキ	5YR5/3(にぶい赤褐)	7.5YR4/2(灰褐)	○	○	○			○3mm以下		95
59	4	深鉢	胴部	刺突文(貝殻腹縁)	ナデ	7.5YR4/2(灰褐)	5YR4/2(灰褐)	○	○				○6mm以下		87
60	4	深鉢	胴部	刺突文(貝殻腹縁)	ナデ	5YR4/3(にぶい赤褐)	5YR4/3(にぶい赤褐)	○	○			○	○3mm以下		88
61	4	深鉢	胴部	刺突文(貝殻腹縁)	ミガキ	5YR4/2(灰褐)	7.5YR4/1(褐灰)	○	○				○2mm以下		90
62	4	深鉢	胴部	刺突文(貝殻腹縁)	ナデ	7.5YR6/1(褐灰)	5YR4/2(灰褐)	○	○				○4mm以下		85
63	4	深鉢	胴部	刺突文(貝殻腹縁)	ナデ	10YR6/3(にぶい黄褐)	10YR6/3(にぶい黄褐)	○	○				○7mm以下		99

報告書No	出土層位	器形	部位	文様及び調整		色調		胎土						備考	実測No
				外面	内面	外面	内面	石英	長石	キンウンモ	クロウンモ	角閃石	砂粒		
64	4	深鉢	胴部	刺突文(貝殻腹縁)	ミガキ	7.5YR4/2(灰褐)	7.5YR4/2(灰褐)	○		○			○3mm以下		97
65	4	深鉢	胴部	刺突文(貝殻腹縁)	ミガキ	7.5YR4/2(灰褐)	7.5YR4/2(灰褐)			○			○5mm以下		98
66	4	深鉢	胴部	刺突文(貝殻腹縁)	ナデ	5YR4/3(にぶい赤褐)	7.5YR4/2(灰褐)	○	○	○			○2mm以下		96
67	4	深鉢	胴部~底部	ミガキ	ナデ	2.5YR5/4(にぶい赤褐)	5YR4/2(灰褐)	○	○				○7mm以下		221
68	4	深鉢	胴部~底部	ナデ?(剥離が激しい)	ナデ	5YR5/3(にぶい赤褐)	7.5YR4/2(灰褐)	○	○			○	○3mm以下	底部にミガキ	217
69	4	深鉢	胴部	流水文(貝殻条痕)	ミガキ	5YR5/4(にぶい赤褐)	7.5YR4/2(灰褐)	○	○				○6mm以下	底部にミガキ	102
70	4	深鉢	口縁~胴部	肥厚帯　沈線文　刺突文	ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	7.5YR5/3(にぶい褐)	○	○	○			○3mm以下	口唇部にキザミ目	212
71	4	深鉢	口縁	沈線文　刺突文(連点文)	ナデ	5YR5/3(にぶい赤褐)	7.5YR4/2(灰褐)	○	○				○1mm以下	口唇部にキザミ目	214
72	4	深鉢	口縁~胴部	沈線文	ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	7.5YR4/2(灰褐)		○				○2mm以下	波状口縁	213
73	3·4	深鉢	胴部	沈線文	ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	7.5YR5/3(にぶい褐)		○				○4mm以下		216
74	4	深鉢	口縁	沈線文　刺突文(竹管状工具)	ナデ	10YR6/3(にぶい黄橙)	10YR5/2(灰黄褐)	○	○				○1mm以下	口唇部にキザミ目	173
75	4	深鉢	口縁	沈線文　キザミ目　刺突文(棒状工具)	ナデ	10YR6/4(にぶい黄橙)	10YR5/3(にぶい黄褐)	○	○				○1mm以下	口唇部にキザミ目	174
76	3·4	深鉢	口縁~胴部	沈線文　刺突文	ナデ	10YR5/3(にぶい黄褐)	10YR5/2(灰黄褐)	○	○				○2mm以下		169
77	4	深鉢	口縁	沈線文　刺突文	ナデ	10YR6/3(にぶい黄橙)	2.5Y6/3(にぶい黄)	○	○				○1mm以下	口唇部にキザミ目	170
78	4	深鉢	口縁	沈線文　撚糸文　刺突文　キザミ目	ナデ	10YR6/3(にぶい黄橙)	10YR6/3(にぶい黄橙)	○	○				○1.5mm以下	口唇部にキザミ目	188
79	4	深鉢	胴部	沈線文　刺突文	ナデ	5YR6/4(にぶい橙)	7.5YR4/1(褐灰)	○	○				○1.5mm以下		192
80	3·4	深鉢	胴部	刺突文　沈線文	ナデ	7.5YR6/4(にぶい橙)	10YR4/1(褐灰)	○	○				○2mm以下		200
81	3·4	深鉢	口縁	微隆帯(キザミ目)　沈線文　刺突文	ナデ	7.5YR4/2(灰褐)	7.5YR4/2(灰褐)	○	○				○1mm以下	口唇部にキザミ目	189
82	4	深鉢	口縁	微隆帯(キザミ目)　沈線文　刺突文	ナデ	7.5YR5/4(にぶい褐)	7.5YR6/4(にぶい橙)	○	○				○1mm以下	口唇部にキザミ目	183
83	4	深鉢	口縁	微隆帯(キザミ目)　沈線文　刺突文	ナデ	7.5YR5/4(にぶい褐)	10YR5/3(にぶい黄褐)	○	○			○	○1mm以下	口唇部にキザミ目	185
84	4	深鉢	口縁	微隆帯(キザミ目)　沈線文　刺突文	ナデ	7.5YR5/4(にぶい褐)	7.5YR5/4(にぶい褐)	○	○				○1.5mm以下	口唇部にキザミ目	182
85	4	深鉢	口縁	刺突文　沈線文	ナデ	7.5YR5/4(にぶい褐)	7.5YR4/2(灰褐)	○	○				○5mm以下	口唇部にキザミ目	196
86	4	深鉢	口縁	微隆帯(キザミ目)　沈線文　刺突文	ナデ	7.5YR6/2(灰褐)	7.5YR5/3(にぶい褐)	○	○				○2.5mm以下	口唇部にキザミ目	172
87	3·4	深鉢	口縁	微隆帯(キザミ目)　沈線文　刺突文	ナデ	10YR5/3(にぶい黄褐)	7.5YR5/4(にぶい褐)	○	○				○2mm以下	口唇部にキザミ目	184
88	4	深鉢	口縁	微隆帯(キザミ目)　沈線文　刺突文	ナデ	5YR5/6(明赤褐)	7.5YR6/4(にぶい橙)	○	○				○4mm以下	口唇部にキザミ目	187
89	4	深鉢	口縁	微隆帯(キザミ目)　沈線文	ナデ	7.5YR5/4(にぶい褐)	7.5YR5/4(にぶい褐)	○	○				○3mm以下	口唇部にキザミ目	186
90	4	深鉢	口縁	微隆帯(キザミ目)	ナデ	7.5YR4/2(灰褐)	10YR4/2(灰黄褐)	○	○				○2.5mm以下	口唇部にキザミ目	179
91	4	深鉢	口縁	微隆帯(キザミ目)	ナデ	5YR5/4(にぶい赤褐)	5YR5/4(にぶい赤褐)	○	○				○3mm以下		181
92	4	深鉢	口縁	微隆帯(キザミ目)	ナデ	10YR5/3(にぶい黄褐)	10YR6/3(にぶい黄橙)		○				○3mm以下		226
93	4	深鉢	口縁	微隆帯(キザミ目)	ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	10YR4/2(灰黄褐)	○	○				○3mm以下		180
94	4	深鉢	口縁	微隆帯(キザミ目)沈線文　ナデ	ナデ	10YR4/2(灰黄褐)	10YR5/3(にぶい黄褐)	○	○				○1.5mm以下	口唇部にキザミ目	178
95	4	深鉢	口縁	微隆帯(キザミ目)　沈線文	ナデ	10YR5/3(にぶい黄褐)	10YR5/4(にぶい黄褐)	○	○				○5mm以下	口唇部にキザミ目・波状口縁	190
96	4	深鉢	頸部	微隆帯(キザミ目)	ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	7.5YR5/3(にぶい褐)	○	○				○4mm以下		195
97	4	壺	胴部	微隆帯(キザミ目)	ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	10YR5/2(灰黄褐)	○	○				○1.5mm以下		193
98	4	深鉢	胴部	微隆帯(キザミ目)沈線文	ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	7.5YR5/3(にぶい褐)	○	○				○3mm以下		191
99	4	深鉢	胴部	微隆帯(キザミ目)撚糸文	ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	7.5YR5/3(にぶい褐)	○	○				○2mm以下		194
100	3·4	壺	口縁	ナデ	ナデ	7.5YR5/4(にぶい褐)	5YR5/4(にぶい赤褐)	○	○				○2mm以下		177
101	4	壺	口縁	ナデ	ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	7.5YR5/2(灰褐)	○	○				○1mm以下		175
102	3·4	壺	口縁	沈線文	ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	5YR5/3(にぶい赤褐)	○	○				○2mm以下	穿孔	176
103	4	深鉢	口縁~頸部~胴部	撚糸文　沈線文	ナデ	10YR6/3(にぶい黄橙)	10YR6/3(にぶい黄橙)	○	○				○2mm以下	口唇部にキザミ目・波状口縁	197
104	4	深鉢	頸部	撚糸文　沈線文	ナデ	10YR6/4(にぶい黄橙)	10YR5/3(にぶい黄褐)	○	○				○2mm以下		198
105	3·4	深鉢	胴部~底部	撚糸文　沈線文	ナデ	5YR5/4(にぶい赤褐)	2.5Y3/1(黒褐)	○	○				○8mm以下		211
106	3	深鉢	胴部	撚糸文　沈線文	ナデ	7.5YR5/4(にぶい褐)	10YR4/1(褐灰)		○				○1mm以下		201
107	3·4	深鉢	胴部	撚糸文　沈線文	ナデ	10YR5/3(にぶい黄褐)	2.5Y4/1(黄灰)	○	○				○4mm以下		202
108	4	深鉢	胴部~底部	撚糸文　沈線文	ナデ	10YR6/3(にぶい黄橙)	10YR5/3(にぶい黄褐)	○	○				○2mm以下		210
109	4	深鉢	胴部	撚糸文　沈線文	ナデ	10YR5/3(にぶい黄褐)	10YR5/3(にぶい黄褐)	○	○				○2mm以下		207
110	3	深鉢	胴部	刺突文　撚糸文　沈線文	ナデ	5YR5/4(にぶい赤褐)	7.5YR5/3(にぶい褐)		○				○3mm以下		206
111	4	深鉢	胴部	撚糸文　沈線文	ナデ	10YR6/4(にぶい黄橙)	10YR6/3(にぶい黄橙)	○	○				○2mm以下		146
112	4	深鉢	口縁	撚糸文	ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	7.5YR4/2(灰褐)	○	○				○2mm以下	口唇部にキザミ目	151
113	4	深鉢	胴部	撚糸文	ナデ	7.5YR5/4(にぶい褐)	10YR5/2(灰黄褐)		○				○1mm以下		203
114	3	深鉢	胴部	撚糸文	ナデ	7.5YR6/4(にぶい橙)	10YR5/2(灰黄褐)	○	○				○1mm以下		204
115	3	深鉢	胴部	撚糸文	ナデ	10YR5/3(にぶい黄褐)	2.5Y4/1(黄灰)		○				○1mm以下		205
116	4	深鉢	胴部~底部	撚糸文	ナデ	7.5YR6/4(にぶい橙)	7.5YR6/4(にぶい橙)	○				○	○1mm以下		209
117	4	深鉢	胴部	沈線文	ナデ	7.5YR6/4(にぶい橙)	7.5YR4/2(灰褐)	○	○				○2mm以下		199
118	4	深鉢	胴部~底部	沈線文	ナデ	7.5YR6/4(にぶい橙)	7.5Y4/1(褐灰)	○	○				○2mm以下		208
119	3	深鉢	胴部~底部	沈線文	ナデ	5YR5/2(灰褐)	10YR4/1(褐灰)	○	○	○			○2mm以下		220
120	4	深鉢	口縁~頸部	沈線文	ナデ	10YR6/3(にぶい黄橙)	10YR5/2(灰黄褐)	○	○				○3mm以下	口唇部にキザミ目・波状口縁	166
121	4	深鉢	口縁~頸部	沈線文	ナデ	10YR5/2(灰黄褐)	2.5YR4/1(赤灰)	○	○				○3mm以下	口唇部にキザミ目	165
122	3·4	深鉢	口縁	沈線文	ナデ	10YR6/3(にぶい黄橙)	10YR5/3(にぶい黄褐)	○	○				○2mm以下	口唇部にキザミ目・波状口縁	167
123	3·4	深鉢	口縁	沈線文	ナデ	10YR5/3(にぶい黄褐)	7.5YR4/1(褐灰)						○5mm以下	口唇部にキザミ目・波状口縁	168
124	4	深鉢	口縁	沈線文	ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	5YR5/4(にぶい赤褐)	○	○				○2mm以下	口唇部にキザミ目・波状口縁	171
125	4	深鉢	頸部	沈線文	ナデ	10YR6/3(にぶい黄橙)	7.5YR4/2(灰褐)						○4mm以下		164
126	3·4	壺	口縁~胴部	沈線文	ナデ	5YR4/1(褐灰)	7.5YR4/2(灰褐)	○	○			○	○2mm以下		117

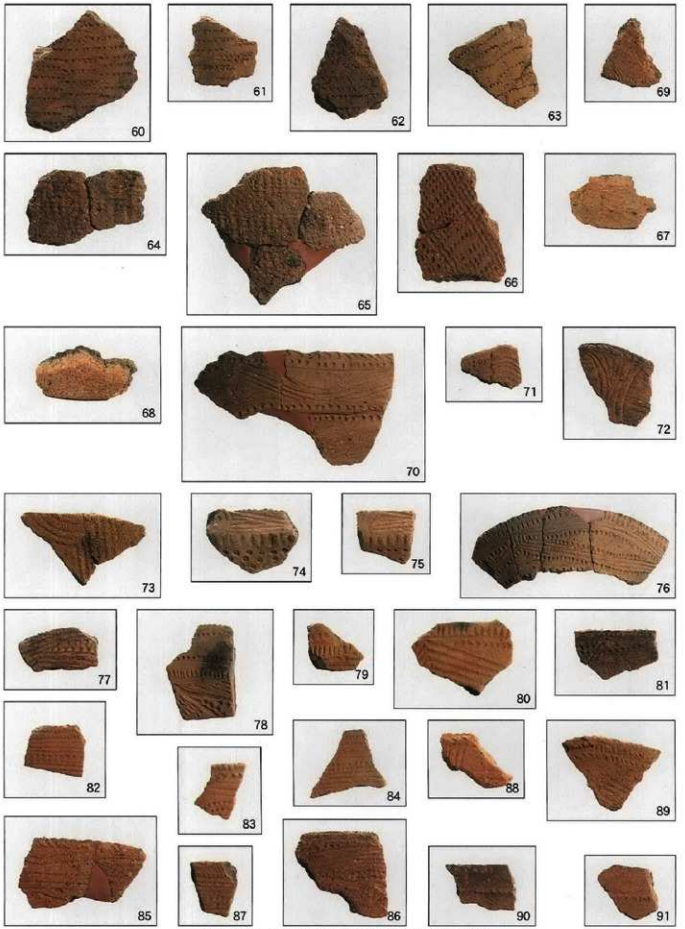
報告書No	出土層位	器形	部位	文様及び調整 外面	文様及び調整 内面	色調 外面	色調 内面	胎土 石英	胎土 長石	胎土 キンウンモ	胎土 クロウンモ	胎土 角閃石	胎土 砂粒	備考	実測No
127	4	深鉢	胴部	刺突文 沈線文 縄文	ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	7.5YR5/3(にぶい褐)	○	○				○1mm以下		153
128	3	深鉢	胴部	縄文 沈線文	ナデ	7.5YR4/2(灰褐)	7.5YR5/4(にぶい褐)	○	○				○2mm以下		158
129	4	深鉢	胴部	縄文 沈線文	ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	7.5YR5/4(にぶい褐)		○				○1mm以下		156
130	4	深鉢	胴部	縄文 沈線文	ナデ	10YR6/4(にぶい黄橙)	10YR5/2(灰黄褐)	○	○				○1mm以下		155
131	3	深鉢	胴部	縄文 沈線文	ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	7.5YR5/3(にぶい褐)	○	○				○2mm以下		143
132	4	深鉢	胴部	縄文 沈線文 刺突文	ナデ	5YR5/3(にぶい赤褐)	5YR5/3(にぶい赤褐)	○	○				○4mm以下		132
133	3-4	深鉢	胴部	縄文 沈線文 刺突文	ナデ	7.5YR4/2(灰褐)	5YR5/3(にぶい赤褐)	○	○				○5mm以下	スス付着	134
134	4	深鉢	胴部	縄文 沈線文 刺突文	ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	7.5YR5/3(にぶい褐)	○	○				○2mm以下		133
135	4	深鉢	胴部	縄文 沈線文	ナデ	10YR5/3(にぶい黄褐)	10YR5/2(灰黄褐)		○			○	○1mm以下		150
136	3	深鉢	胴部	縄文 沈線文 刺突文	ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	7.5YR5/3(にぶい褐)	○	○				○1mm以下		131
137	4	深鉢	胴部~底部	縄文 沈線文	ナデ	7.5YR5/4(にぶい褐)	7.5YR5/4(にぶい褐)	○	○				○1mm以下		218
138	3	深鉢	胴部~底部	沈線文 縄文?	ナデ	7.5YR6/4(にぶい橙)	10YR4/2(灰黄褐)	○	○				○1mm以下		219
139	4	深鉢	口縁	縄文? 沈線文	ナデ	10YR7/1(灰白)	10YR4/1(褐灰)		○				○2mm以下	口唇部にキザミ目	120
140	4	深鉢	口縁~頸部	縄文? 沈線文	ナデ	10YR5/3(にぶい黄褐)	10YR6/3(にぶい黄橙)	○	○				○1mm以下	口唇部にキザミ目	118
141	4	深鉢	頸部	縄文 沈線文	ナデ	10YR5/4(にぶい黄褐)	7.5YR4/2(灰褐)	○	○				○1mm以下		129
142	4	深鉢	胴部	沈線文 縄文?	ナデ	7.5YR4/2(灰褐)	7.5YR4/2(灰褐)	○	○	○			○4mm以下		162
143	3	深鉢	頸部~胴部	縄文 貼付突帯(キザミ目)	ナデ	7.5YR5/4(にぶい褐)	7.5YR5/4(にぶい褐)	○		○			○2mm以下		128
144	4	深鉢	胴部	縄文	ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	7.5YR5/2(灰褐)	○	○				○2mm以下	スス付着	152
145	4	深鉢	胴部	撚糸文? 沈線文	ナデ	7.5YR4/2(灰褐)	10YR4/2(灰黄褐)	○		○			○3mm以下		161
146	3	深鉢	胴部	撚糸文? 沈線文	ナデ	7.5YR4/1(褐灰)	5YR5/4(にぶい赤褐)	○		○			○3mm以下		163
147	3	深鉢	胴部	撚糸文? 沈線文	ナデ	10YR5/3(にぶい黄褐)	10YR4/1(褐灰)		○				○2mm以下		154
148	4	深鉢	胴部	撚糸文? 沈線文	ナデ	10YR5/2(灰黄褐)	10YR5/2(灰黄褐)	○	○				○8mm以下		148
149	3	深鉢	胴部	撚糸文? 沈線文	ナデ	10YR6/3(にぶい黄橙)	10YR6/3(にぶい黄橙)	○	○			○	○1mm以下		147
150	3	深鉢	胴部	撚糸文? 沈線文 刺突文(連点文)	ナデ	7.5YR4/2(灰褐)	7.5YR4/1(褐灰)	○	○				○1mm以下		159
151	3	深鉢	胴部	撚糸文 沈線文	ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	7.5YR4/2(灰褐)	○	○				○4mm以下		160
152	4	深鉢	胴部	撚糸文 沈線文	ナデ	7.5YR4/3(褐)	7.5YR5/3(にぶい褐)	○	○				○2mm以下		157
153	3	深鉢	口縁~胴部	刺突文(貝殻腹縁)	ナデ	5YR5/4(にぶい赤褐)	7.5YR5/2(灰褐)	○	○				○6mm以下		121
154	4	深鉢	口縁	刺突文(貝殻腹縁)	ナデ	7.5YR4/2(灰褐)	7.5YR4/2(灰褐)	○	○				○7mm以下		122
155	4	深鉢	口縁~胴部	刺突文(貝殻腹縁)	ナデ	7.5Y4/2(灰褐)	5YR5/4(にぶい赤褐)	○	○	○			○6mm以下		215
156	4	深鉢	口縁	刺突文(貝殻腹縁)	ナデ	10YR5/3(にぶい黄褐)	10YR5/3(にぶい黄褐)	○	○				○3mm以下	口唇部にキザミ目(貝殻腹縁)	123
157	3	深鉢	口縁	刺突文(貝殻腹縁)	ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	5YR5/3(にぶい赤褐)	○	○				○2mm以下		139
158	4	深鉢	頸部	刺突文(貝殻腹縁)	ナデ	10YR4/1(褐灰)	7.5YR4/2(灰褐)	○	○				○2mm以下		127
159	3	深鉢	口縁~頸部	刺突文(貝殻腹縁)	ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	10YR5/2(灰黄褐)	○	○			○	○1mm以下		136
160	4	深鉢	頸部	刺突文(貝殻腹縁)	ナデ	7.5YR4/2(灰褐)	7.5YR4/2(灰褐)	○	○				○5mm以下		138
161	4	深鉢	頸部	刺突文(貝殻腹縁) 沈線文	ナデ	7.5YR4/2(灰褐)	7.5YR5/3(にぶい褐)	○	○				○6mm以下		130
162	3	深鉢	胴部	刺突文(貝殻腹縁)	ナデ	10YR5/3(にぶい黄褐)	7.5YR6/4(にぶい橙)	○	○				○6mm以下		135
163	4	深鉢	胴部	刺突文(貝殻腹縁)	ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	7.5YR7/1(明褐灰)	○	○				○2mm以下		137
164	3-4	深鉢	口縁~胴部	沈線文	ナデ	7.5YR5/4(にぶい褐)	7.5YR6/4(にぶい橙)		○				○7mm以下	口唇部に刺突文(貝殻腹縁) 波状口縁	116
165	4	深鉢	口縁~胴部	貝殻条痕→ナデ 沈線文	ナデ	10YR5/2(灰黄褐)	10YR6/3(にぶい黄橙)	○	○				○4mm以下	口唇部にキザミ目(貝殻腹縁)	119
166	4	深鉢	胴部	沈線文	ナデ	7.5YR5/4(にぶい褐)	7.5YR5/3(にぶい褐)	○	○				○6mm以下		144
167	3	深鉢	胴部	沈線文	ナデ	10YR6/3(にぶい黄橙)	10YR6/3(にぶい黄橙)		○	○			○4mm以下		145
168	3	深鉢	胴部	沈線文 貝殻条痕文 刺突文(貝殻腹縁)	貝殻条痕→ナデ	7.5YR4/1(褐灰)	10YR4/2(灰黄褐)	○	○				○3mm以下		142
169	4	深鉢	胴部	沈線文 貝殻条痕文	ナデ	10YR5/2(灰黄褐)	7.5YR5/3(にぶい褐)	○	○				○3mm以下		140
170	3-4	深鉢	胴部	沈線文 貝殻条痕文	ナデ	7.5YR5/4(にぶい褐)	7.5YR5/4(にぶい褐)	○	○				○7mm以下		126
171	4	深鉢	胴部	沈線文 貝殻条痕文	ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	7.5YR5/3(にぶい褐)	○	○	○			○7mm以下		141
172	3-4	深鉢	胴部	貝殻条痕→ナデ 沈線文	ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	7.5YR4/2(灰褐)		○	○			○4mm以下		124
173	3-4	深鉢	胴部	貝殻条痕→ナデ 沈線文	ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	7.5YR4/2(灰褐)	○	○	○			○4mm以下	スス付着	125
174	4	深鉢	胴部	貝殻条痕→ナデ 沈線文	ナデ	7.5YR4/2(灰褐)	7.5YR4/2(灰褐)	○	○				○3mm以下		149
175	3	深鉢	口縁~胴部	貝殻条痕文	貝殻条痕→ナデ	10YR4/1(褐灰)	7.5YR4/2(灰褐)	○	○				○1mm以下	炭化物付着	104
176	3	深鉢	胴部	貝殻条痕文	貝殻条痕文 貝殻条痕→ナデ	5YR4/3(にぶい赤褐)	5YR5/3(にぶい赤褐)	○	○				○3mm以下		114
177	3	深鉢	胴部	貝殻条痕文	貝殻条痕→ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	2.5Y4/1(黄灰)	○	○	○			○2mm以下		108
178	3	深鉢	口縁~胴部	貝殻条痕文	貝殻条痕→ナデ	10YR3/1(黒褐)	7.5YR4/1(褐灰)	○					○3mm以下		105
179	3	深鉢	胴部	貝殻条痕文	貝殻条痕→ナデ	7.5YR4/2(灰褐)	10YR4/1(褐灰)	○	○				○1mm以下	炭化物付着	109
180	4	深鉢	胴部	貝殻条痕文	ナデ	5YR4/2(灰褐)	7.5YR4/2(灰褐)	○	○				○3mm以下		115
181	3	深鉢	胴部	貝殻条痕文	貝殻条痕→ナデ	7.5YR5/4(にぶい褐)	10YR5/2(灰黄褐)	○	○				○4mm以下		107
182	3	深鉢	胴部	貝殻条痕文	貝殻条痕→ナデ	5YR5/4(にぶい赤褐)	7.5YR5/2(灰褐)	○	○	○			○2mm以下		112
183	3	深鉢	胴部	貝殻条痕文	貝殻条痕文	5YR5/3(にぶい赤褐)	7.5YR4/2(灰褐)	○	○				○1mm以下		113
184	3	深鉢	胴部	貝殻条痕文	ナデ	10YR5/3(にぶい黄褐)	10YR5/3(にぶい黄褐)	○	○				○5mm以下		106
185	4	深鉢	胴部	貝殻条痕文	ナデ	10YR4/1(褐灰)	7.5YR5/3(にぶい褐)	○	○				○6mm以下		111
186	3	深鉢	口縁~胴部	貝殻条痕文 キザミ目(棒状工具)	貝殻条痕→ナデ	7.5YR4/1(褐灰)	7.5YR4/2(灰褐)	○	○				○1mm以下		103
187	3	深鉢	胴部	貝殻条痕文	貝殻条痕文 貝殻条痕→ナデ	7.5YR4/1(褐灰)	10YR6/3(にぶい黄橙)		○				○2mm以下	炭化物付着	110



写真図版14　縄文時代早期遺物包含層出土土器①

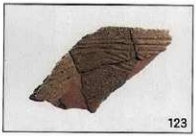


写真図版15　縄文時代早期遺物包含層出土土器②

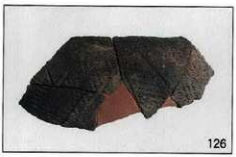


写真図版16　縄文時代早期遺物包含層出土土器③

写真図版17　縄文時代早期遺物包含層出土土器④

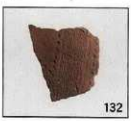
122

123

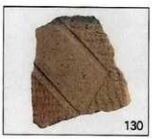
124

125

126

127

128

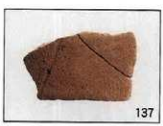
129

132

131

130

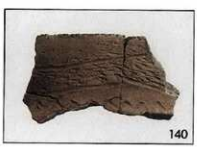
134

133

135

136

137

138

139

140

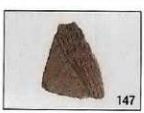
141

142

143

144

145

146

147

148

149

150

写真図版18　縄文時代早期遺物包含層出土土器⑤

151

152

153

154

155

156

157

158

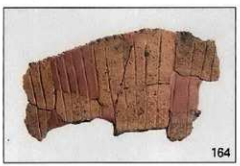
159

160

161

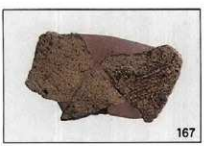
162

165

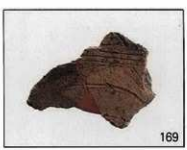

164

166

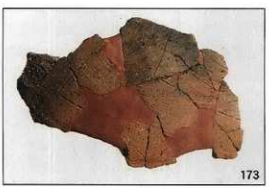
163


167

168


169

写真図版19　縄文時代早期遺物包含層出土土器⑥



写真図版20　縄文時代早期遺物包含層出土土器⑦

2．石器

縄文時代早期の遺物包含層中より1624点の石器が出土した。ここではその中で製品類を中心に報告を行う。なお、石器の整理作業に当たっては従来使用されている器種についての分類基準を設定し、器種分類を行った。器種分類については本報告による分類作業であり、他の遺跡と共通するものではない。

石鏃（188～268）

剥片を素材とし、両面調整や半両面調整により鋭い先端部を作り出し、平面形がおおむね三角形や五角形を想定させるもの。欠損品も含め総数で113点出土している。平面形状や加工状況により以下のように細分した。

・1　類（188～193）：平面形は正三角形か二等辺三角形で1.5cm四方におさまるもの。姫島産黒曜石の使用が目立つ。総数で6点出土している。
・2　類（194・195）：抉りが浅く下半部に最大幅を持ち、その付近から屈曲し全体の形状が五角形を呈するもの。いわゆる鉢地型石鏃に該当する。2点出土している。
・3　類（196）　：脚部の抉りが深く、平面形が将棋の駒のような形状を呈するもの。1点出土している。
・4　類（197～226）：特徴的な抉り・脚部を呈するもの。いわゆる鍬形鏃に該当する。総数で36点出土している。チャートの使用が目立つ。
・5　類（227～236）：片面又は両面の加工が周縁部のみにとどまり、素材剥片の形状を大きく残すもの。一部には石鏃の未製品も含まれている可能性が考えられる。チャートの使用が目立つ。総数で10点出土している。
・6　類（237～249）：1～5類の分類に当てはまらず抉りのないもの、浅いものをまとめた。総数で15点出土している。237は頁岩製で体部が鋸歯状を呈している。
・7　類（250～266）：1～5類の分類に当てはまらず抉りの深いものをまとめた。総数で25点出土している。
・欠損品（267・268）：残存状況が悪く、分類作業ができないものをまとめた。総数で18点出土している。

石鏃未製品（269～278）

剥片を素材とし、石鏃とほぼ同規模で両面調整や半両面調整によって平面形が三角形や楕円形を呈するもの。石鏃に比べ先端部が鈍いものや全体が分厚いもの、加工が未熟なものなどをまとめた。一部には石錐や5類の石鏃を含んでいる可能性が考えられる。総数で10点出土している。

尖頭状石器（279）

剥片を素材とし、粗い両面調整や半両面調整により先端部と基部を作り出すもの。石鏃よりは規模が大きい。2点出土している。279はホルンフェルス製で素材剥片の形状を大きく残している。基部はポジ面からの調整により作り出し、先端部は両面からの調整により作り出している。

石錐（280～284）

剥片を素材として、両面調整・半両面調整または素材の一部に調整を施し、錐部を作り出したもの。総数で7点出土している。以下の2種類に細分が可能である。

・1類：押圧剥離により素材の全面に調整を施すもの。石鏃の未製品を含む可能性が考えられる（280・283）。
・2類：素材剥片の一部にだけ調整を施して錐部を作り出すもの（281・282・284）。

スクレイパー（285～289）

剥片を素材として縁辺に連続的な調整をおこなって刃部を作り出したもの。刃部調整は周縁部にとどまる。総数で13点出土している。

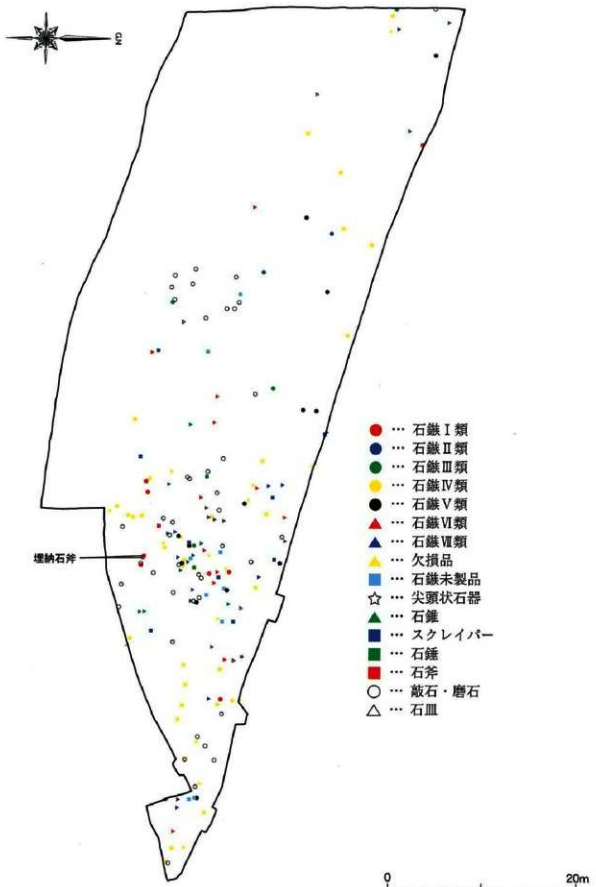
剥片（290）砕片　石核（291～294）

剥片は剥片を素材として、まったく二次加工が施されていないものや調整は施されているが、その意図が不明瞭なものをまとめた。また砕片は1cm四方に収まるものを分類した。石核は礫又は剥片を素材とするが、形態を整えるためとはみなしがたいネガティブな剥離面だけを持つものを分類している。

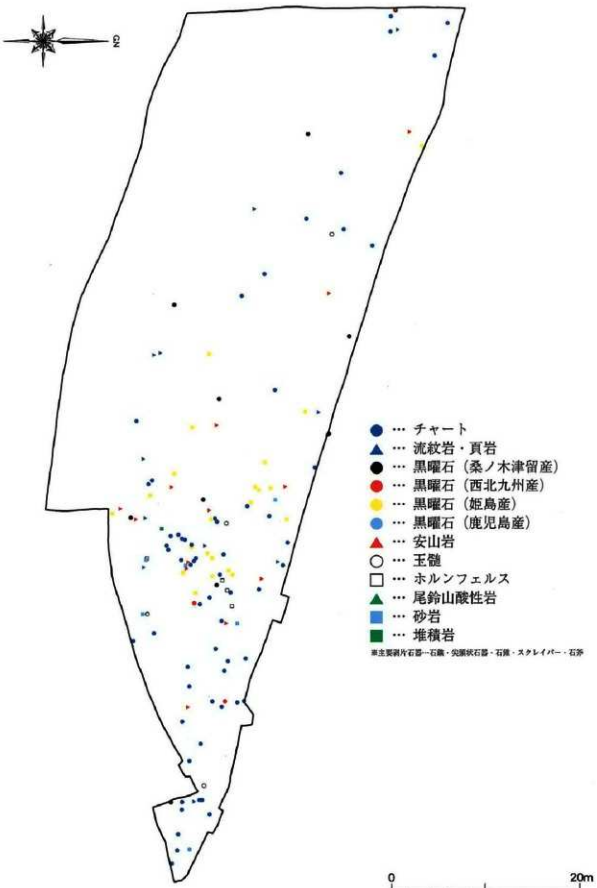
遺物包含層中より出土した剥片・砕片・石核をあわせた数量を石材ごとに以下に記載する。頁岩・流紋岩155点・6018.8g。チャート945点・3049.2g（チャートについては分割礫も含んでいる）。砂岩57点・2939.2g。黒曜石（桑ノ木津留産63点・71.7g、姫島産102点・95.1g、西北九州産51点・56.9g、鹿児島県産16点・22.6g）。サヌカイト・安山岩18点・114.8g、尾鈴山酸性岩2点・26.6g、玉髄4点・2.1g、その他7点・51.2g。

石斧（295～298）

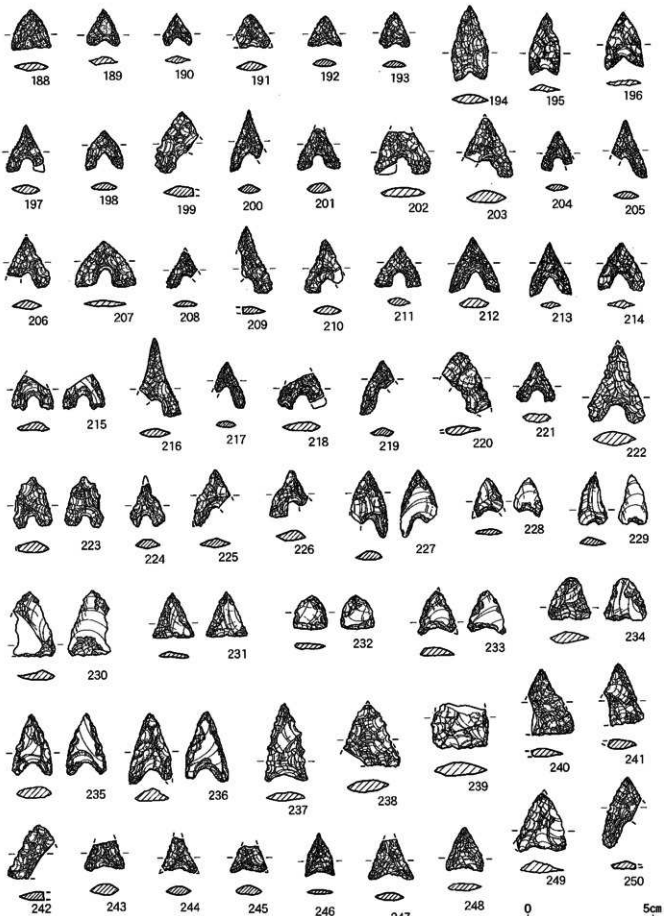
剥片または縦長の礫を素材とし、その短辺に刃部を形成するもの。平面形は四角形又は五角形を呈する。



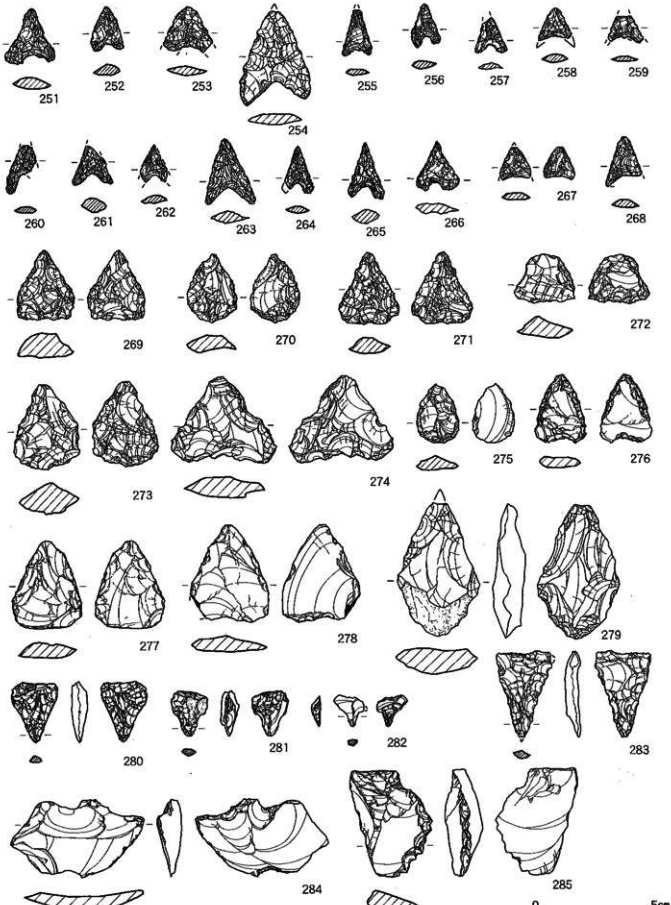
第30図　縄文時代早期遺物包含層出土主要石器分布図【器種別】(S=1/400)



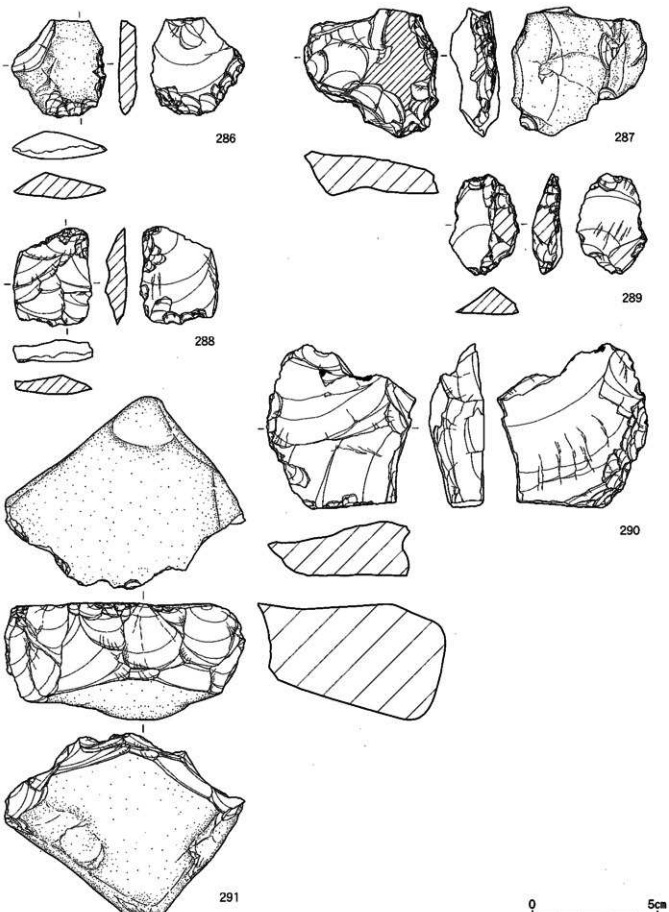
第31図　縄文時代早期遺物包含層出土主要剥片石器分布図【石材別】（S=1/400）



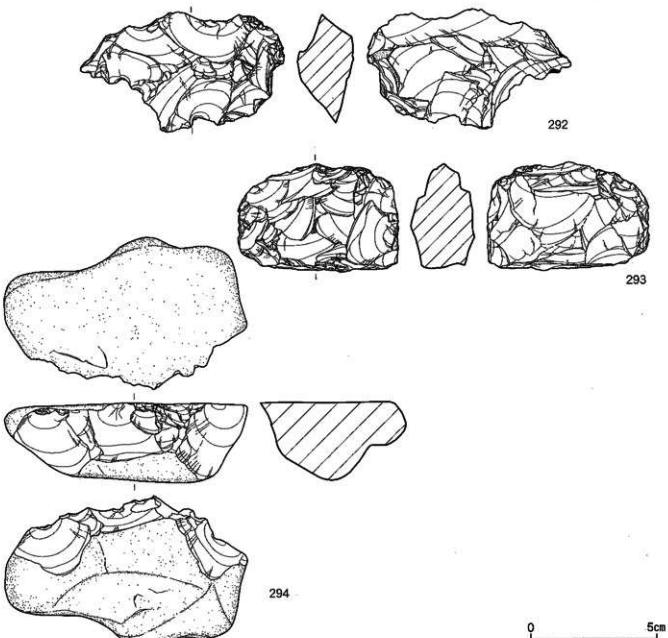
第32図　縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図①（S=2/3）



第33図　縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図②（S=2/3）



第34図　縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図③（S=2/3）



第35図　縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図④（S=2/3）

総数で4点の完存品が出土した。そのうち295と296は密接した状態で見つかった。そのためこの2点の石斧を納めた掘り込みの存在を考え、平面精査とサブトレンチによる土層観察をおこなったが掘りこみを検出することはできなかった。しかし、その出土状況からは埋納石斧の可能性が高いと考えられる（巻頭カラー2を参照）。

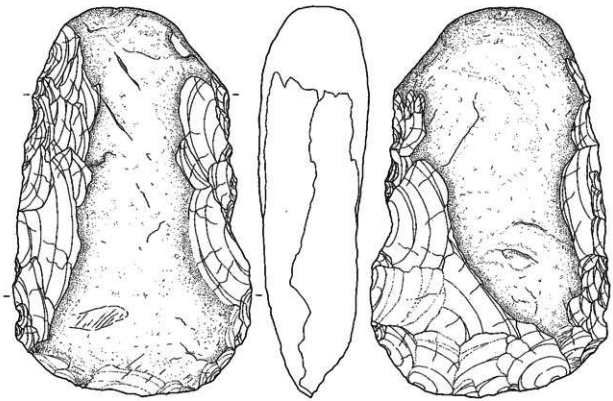
297は尾鈴山酸性岩製である。295～297は研磨の痕跡が不明瞭である。しかし、3点とも使用によるためか研磨を施されているために刃部付近の剥離面の稜線は不明瞭になっている。

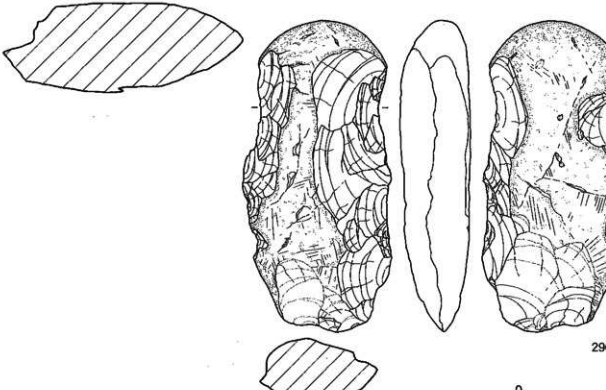
礫石錘（299～301）

円礫を素材として相対する二箇所に加工を施し、そこに紐をかけられるような抉り部を作り出しているもの。3点出土しており、いずれも砂岩製である。

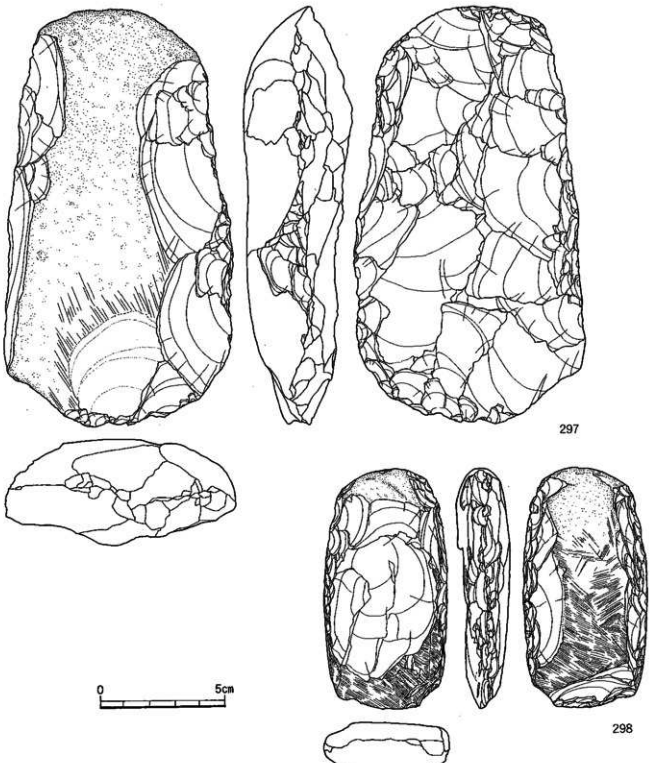
敲石・磨石（302～311）

敲石は礫を素材として、その一端・両端・平らな面に敲打の結果と考えられる割れや敲打痕、敲打によるものと推定されるくぼみを持つものを分類した。磨石は円礫の平らな面の片面または両面に平滑な面を持つものを分類した。総数で48点出土している。砂岩の使用が目立つが尾鈴山酸性岩製のものもみられる。素材礫の形状や使用痕の在り方から以下のように細分される。





第36図　縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図⑤（S=2/3）

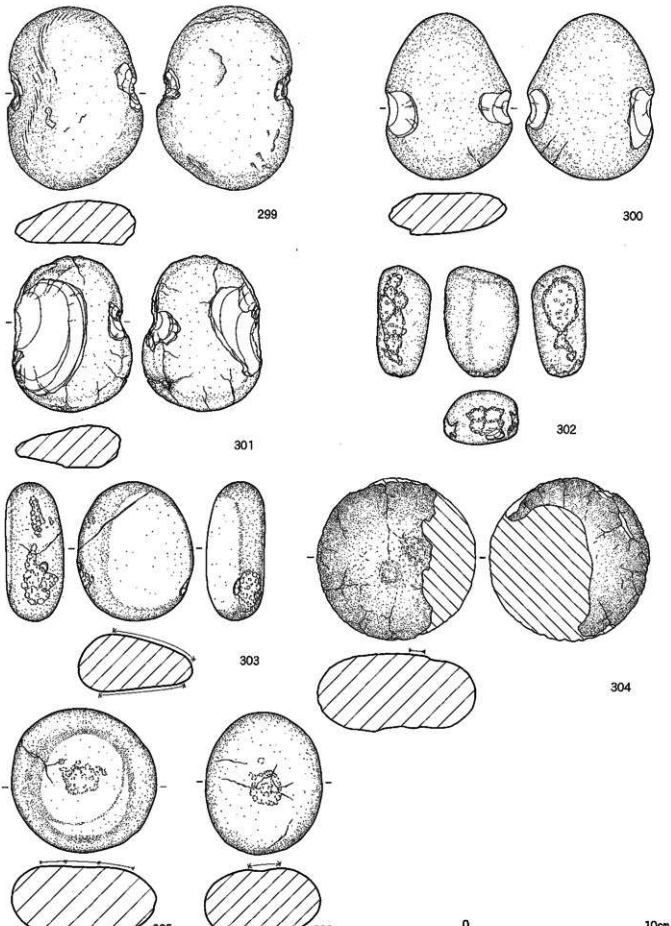


第37図　縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図⑥（S=2/3）

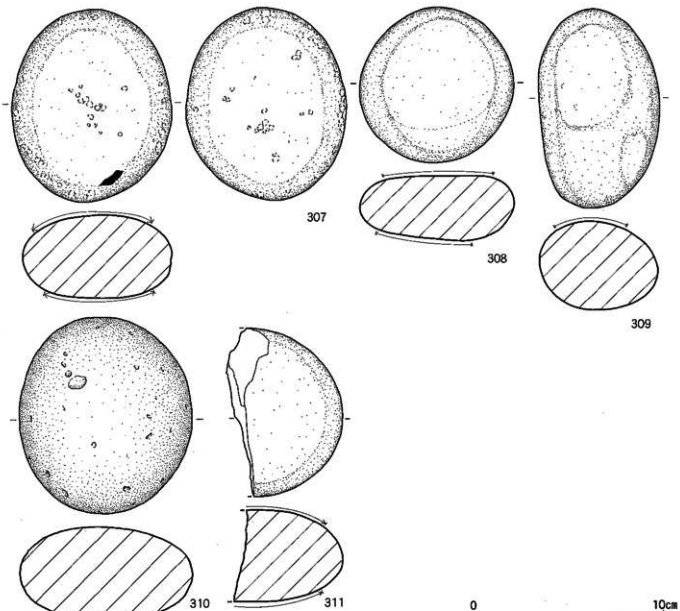
・1類：円礫及び角礫の側面に敲打の痕跡が確認されるもの（302・303）。敲石に分類される。
・2類：円礫の平坦面に敲打の痕跡が確認されるもの（304～306）。敲石（凹み石）に分類される。
・3類：円礫の平坦面に平滑な面が確認されるもの（307～311）。平滑面には敲打痕が見られるものもあり、敲石として兼用されたものも含む。磨石に分類される。310・311は尾鈴山酸性岩製である。

石皿（図版25の下段を参照）

大型の礫を素材として、その平坦面に平滑な面やくぼんだ滑らかな面を持つもの。総数で4点出土している。すべて砂岩製である。



第38図　縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図⑦（S=1/2）



第39図　縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図⑧ (S=1/2)

第7表　縄文時代早期遺物包含層出土石器計測分類表

報告書No	実測No	器種	出土グリッド	層位	石材	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	備考
188	269	打製石鏃	C	Ⅵ	チャート	1.6	1.6	0.3	0.7	Ⅰ類
189	30	打製石鏃	D	Ⅵ	黒曜石(針尾)	1.4	1.35	0.35	0.4	Ⅰ類
190	26	打製石鏃	A	Ⅴ	黒曜石(姫島)	1.3	1.1	0.25	0.3	Ⅰ類
191	279	打製石鏃	C	Ⅵ	黒曜石(姫島)	1.35	(1.3)	0.35	(0.5)	Ⅰ類　脚部欠損
192	249	打製石鏃	D	Ⅵ	黒曜石(姫島)	1.2	1.3	0.25	0.3	Ⅰ類
193	236	打製石鏃	D	Ⅴ	黒曜石(姫島)	1.4	1.2	0.2	0.3	Ⅰ類
194	248	打製石鏃	B	Ⅵ	玉髄	3.0	1.45	0.35	1.3	Ⅱ類
195	37	打製石鏃	B	Ⅵ	チャート	2.45	1.2	0.25	0.8	Ⅱ類
196	34	打製石鏃	C	Ⅵ	チャート	2.3	1.5	0.2	0.6	Ⅲ類
197	277	打製石鏃			チャート	1.85	(1.45)	0.35	(0.6)	Ⅳ類　脚部欠損
198	241	打製石鏃	A	Ⅵ	チャート	1.55	1.5	0.3	0.6	Ⅳ類
199	258	打製石鏃	C	Ⅵ	チャート	2.4	(1.7)	0.4	(1.3)	Ⅳ類　脚部欠損

(　) の値は残存値を示す

報告書No	実測No	器種	出土グリッド	層位	石材	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	備考
200	253	打製石鏃	A	Ⅵ	チャート	2.45	(1.3)	0.35	(0.7)	Ⅳ類　脚部欠損
201	255	打製石鏃	D	Ⅵ	チャート	(1.6)	1.7	0.35	(0.7)	Ⅳ類　先端部欠損
202	257	打製石鏃	D	Ⅵ	チャート	(1.7)	(2.2)	0.35	(1.3)	Ⅳ類　先端・脚部欠損
203	254	打製石鏃	C	Ⅴ	チャート	(2.35)	(1.85)	0.5	(1.5)	Ⅳ類　先端・脚部欠損
204	271	打製石鏃	D	Ⅵ	チャート	1.55	(1.2)	0.25	(0.3)	Ⅳ類　脚部欠損
205	251	打製石鏃	C	Ⅴ	チャート	2.3	(1.4)	0.3	(0.6)	Ⅳ類　脚部欠損
206	276	打製石鏃	D	Ⅵ	チャート	(2.0)	(1.7)	0.35	(0.8)	Ⅳ類　先端・脚部欠損
207	272	打製石鏃	D	Ⅵ	チャート	1.8	2.4	0.25	0.9	Ⅳ類
208	230	打製石鏃	D		チャート	(1.45)	(1.25)	0.2	(0.3)	Ⅳ類　先端・脚部欠損
209	242	打製石鏃	D	Ⅴ	チャート	2.65	(1.3)	0.3	(0.7)	Ⅳ類　脚部欠損
210	233	打製石鏃	D	Ⅵ	チャート	2.1	(1.5)	0.3	(0.7)	Ⅳ類　脚部欠損
211	31	打製石鏃	D	Ⅵ	チャート	1.6	1.85	0.3	0.7	Ⅳ類
212	13	打製石鏃	C	Ⅴ	チャート	2.15	2.0	0.35	0.9	Ⅳ類
213	38	打製石鏃	B	Ⅵ	チャート	1.15	1.1	0.25	0.7	Ⅳ類
214	27	打製石鏃	A	Ⅵ	チャート	1.9	1.8	0.3	0.8	Ⅳ類
215	275	打製石鏃	D	Ⅵ	チャート	(1.35)	1.65	0.35	(0.6)	Ⅳ類　先端部欠損
216	273	打製石鏃	D	Ⅵ	頁岩	3.1	(1.6)	0.3	(0.9)	Ⅳ類　脚部欠損
217	234	打製石鏃	A	Ⅵ	黒曜石(桑ノ木津留)	1.85	(1.2)	0.25	(0.3)	Ⅳ類　脚部欠損
218	262	打製石鏃	D	Ⅵ	黒曜石(桑ノ木津留)	(1.4)	(1.8)	0.35	(0.7)	Ⅳ類　先端・脚部欠損
219	267	打製石鏃	D	Ⅵ	安山岩	2.15	(1.35)	0.3	(0.6)	Ⅳ類　脚部欠損
220	260	打製石鏃	D	Ⅵ	安山岩	2.4	(1.9)	0.35	(1.1)	Ⅳ類　脚部欠損
221	28	打製石鏃	D	Ⅵ	チャート	1.3	(1.5)	0.35	(0.6)	Ⅳ類　脚部欠損
222	14	打製石鏃	D	Ⅵ	チャート	(3.1)	2.25	5.5	(2.2)	Ⅳ類　先端部欠損
223	281	打製石鏃	C	Ⅵ	黒曜石(姫島)	2.05	1.55	0.45	(0.9)	Ⅳ類　側面欠損
224	244	打製石鏃	D	Ⅵ	安山岩	(1.15)	1.4	0.35	(0.6)	Ⅳ類　先端部欠損・磨滅あり
225	246	打製石鏃	A	Ⅴ	安山岩	2.2	(1.45)	0.35	(0.7)	Ⅳ類　脚部欠損
226	235	打製石鏃	D	Ⅵ	安山岩	1.85	(1.55)	0.4	(0.7)	Ⅳ類　脚部欠損・磨滅あり
227	280	打製石鏃	D	Ⅵ	チャート	2.65	(1.5)	0.35	(1.1)	Ⅴ類　脚部欠損
228	286	打製石鏃	D	Ⅵ	チャート	1.55	(1.1)	0.2	(0.3)	Ⅴ類　脚部欠損
229	283	打製石鏃	C	Ⅵ	チャート	(2.0)	1.15	0.3	(0.5)	Ⅴ類　先端部欠損
230	287	打製石鏃	D	Ⅴ	チャート	2.6	1.7	0.4	(1.3)	Ⅴ類　側面欠損
231	282	打製石鏃	B	Ⅵ	チャート	1.8	1.6	0.25	0.6	Ⅴ類
232	293	打製石鏃	C	Ⅵ	チャート	1.35	1.35	0.25	0.6	Ⅴ類
233	284	打製石鏃	C	Ⅴ	黒曜石(姫島)	(1.75)	(1.5)	0.3	(0.8)	Ⅴ類　先端・脚部欠損
234	340	打製石鏃	D	Ⅴ	黒曜石(原島)	1.7	1.7	0.45	0.8	Ⅴ類
235	39	打製石鏃	D	Ⅵ	砂岩	2.4	1.6	0.4	1.2	Ⅴ類
236	40	打製石鏃	B	Ⅵ	安山岩	2.8	1.75	0.5	1.3	Ⅴ類
237	15	打製石鏃	C	Ⅵ	頁岩	3.1	1.5	0.45	1.2	Ⅴ類
238	252	打製石鏃	D	Ⅵ	チャート	(2.45)	(2.3)	0.5	(2.2)	Ⅴ類　先端・脚部・側面欠損
239	268	打製石鏃	A	Ⅵ	チャート	(1.8)	2.3	0.5	(2.4)	Ⅴ類　先端部欠損
240	250	打製石鏃	D	Ⅵ	チャート	2.6	(1.8)	0.35	(1.4)	Ⅵ類　脚部・側面欠損
241	264	打製石鏃	D	Ⅵ	チャート	2.5	(1.6)	0.4	(1.4)	Ⅵ類　脚部欠損
242	239	打製石鏃	D	Ⅴ	チャート	2.15	(1.85)	0.35	(1.0)	Ⅵ類　脚部欠損
243	229	打製石鏃	D	Ⅵ	黒曜石(桑ノ木津留)	(1.2)	1.6	0.45	(0.8)	Ⅵ類　先端部欠損
244	247	打製石鏃	C	Ⅵ	黒曜石(姫島)	(1.4)	(1.4)	0.3	(0.4)	Ⅵ類　先端・脚部欠損
245	266	打製石鏃	C	Ⅵ	黒曜石(姫島)	(1.05)	(1.45)	0.35	(0.5)	Ⅵ類　先端・脚部欠損
246	263	打製石鏃	C	Ⅵ	黒曜石(桑ノ木津留)	1.7	1.2	0.15	0.3	Ⅵ類
247	237	打製石鏃	C	Ⅵ	安山岩	(1.6)	1.8	0.3	(0.8)	Ⅵ類　先端部欠損
248	33	打製石鏃	C	Ⅵ	頁岩	1.7	1.5	0.3	0.8	Ⅵ類
249	36	打製石鏃	C	Ⅵ	黒曜石(桑ノ木津留)	(1.35)	(2.0)	0.45	(1.6)	Ⅵ類　先端・脚部欠損
250	278	打製石鏃	D	Ⅵ	チャート	2.75	(1.5)	0.3	(1.0)	Ⅶ類　脚部欠損
251	245	打製石鏃	D	Ⅵ	チャート	2.2	2.0	0.45	1.4	Ⅶ類
252	231	打製石鏃	D	Ⅵ	チャート	1.75	1.3	0.45	0.8	Ⅶ類
253	232	打製石鏃	C	Ⅵ	チャート	1.85	(2.0)	0.35	(1.0)	Ⅶ類　脚部欠損
254	16	打製石鏃	C	Ⅴ	安山岩	(3.9)	2.8	0.5	(3.1)	Ⅶ類　先端部欠損
255	265	打製石鏃	A	Ⅵ	頁岩	(1.8)	1.15	0.25	(0.5)	Ⅶ類　先端部欠損

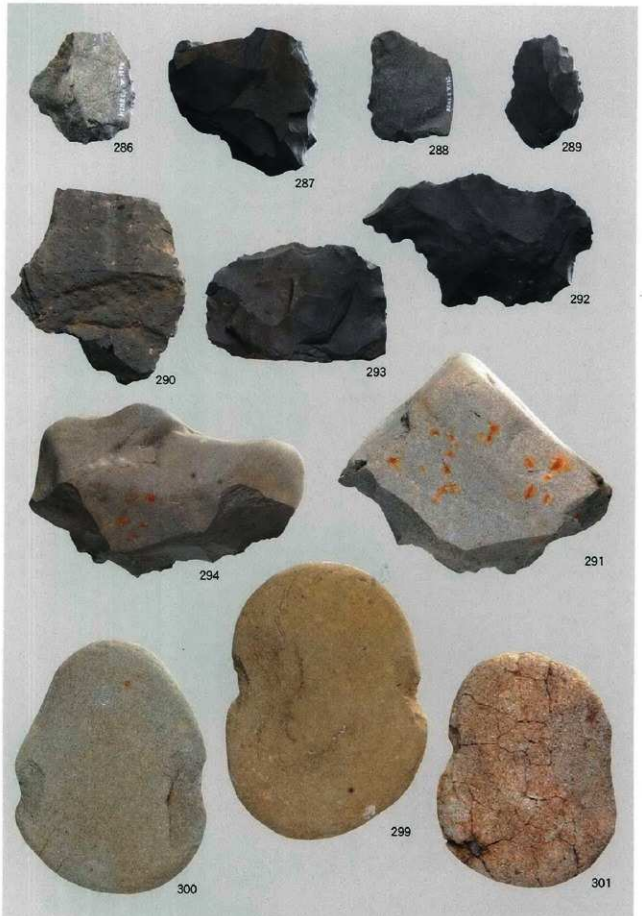
（　）の値は残存値を示す

報告書No	実測No	器種	出土グリッド	層位	石材	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	備考
256	243	打製石鏃	D	Ⅵ	黒曜石(桑ノ木津留)	1.75	1.1	0.3	0.4	Ⅶ類
257	35	打製石鏃	C	Ⅵ	黒曜石(姫島)	(1.4)	1.3	0.25	(0.3)	Ⅶ類　先端部欠損
258	274	打製石鏃	D	Ⅵ	黒曜石(姫島)	(1.3)	(1.3)	0.35	(0.4)	Ⅶ類　脚部欠損
259	270	打製石鏃	D	Ⅵ	黒曜石(姫島)	(1.05)	(1.4)	0.2	(0.3)	Ⅶ類　先端・脚部欠損
260	261	打製石鏃	C	Ⅵ	黒曜石(桑ノ木津留)	(1.9)	(1.2)	0.25	(0.4)	Ⅶ類　先端・脚部欠損
261	240	打製石鏃	C	Ⅵ	安山岩	(1.55)	1.6	0.6	(0.8)	Ⅶ類　先端部欠損
262	256	打製石鏃	C	Ⅵ	安山岩	1.5	(1.15)	0.3	(0.4)	Ⅶ類　脚部・側面欠損
263	25	打製石鏃	A	Ⅴ	サヌカイト	2.65	1.95	0.5	1.5	Ⅶ類
264	238	打製石鏃	C	Ⅵ	玉髄	1.85	(1.15)	0.25	(0.4)	Ⅶ類　脚部欠損
265	29	打製石鏃	D	Ⅵ	チャート	2.2	1.45	0.55	1.0	Ⅶ類
266	32	打製石鏃	D	Ⅵ	安山岩	1.9	1.4	0.45	0.9	Ⅶ類
267	285	打製石鏃	C	Ⅴ	黒曜石(姫島)	(1.3)	(1.25)	0.3	(0.4)	Ⅶ類　先端・脚部欠損
268	259	打製石鏃	C	Ⅴ	黒曜石(姫島)	1.95	(1.45)	0.3	(0.6)	Ⅶ類　脚部欠損
269	296	打製石鏃未製品	D	Ⅴ	チャート	2.8	2.3	1.0	5.1	
270	294	打製石鏃未製品	D	Ⅴ	チャート	2.75	1.95	0.7	3.3	
271	301	打製石鏃未製品	D	Ⅵ	チャート	2.8	2.4	0.65	3.6	
272	292	打製石鏃未製品	D	Ⅵ	チャート	1.95	2.4	0.8	3.2	
273	299	打製石鏃未製品	D	Ⅵ	チャート	3.35	2.65	1.25	9.3	
274	298	打製石鏃未製品	D	Ⅵ	頁岩	3.45	4.15	0.8	8.7	
275	295	打製石鏃未製品	C	Ⅵ	黒曜石(姫島)	2.35	1.7	0.55	2.1	
276	297	打製石鏃未製品	D	Ⅴ	安山岩	2.7	2.05	0.45	2.4	
277	302	打製石鏃未製品	D	Ⅵ	ホルンフェルス	3.5	2.8	0.6	6.6	
278	300	打製石鏃未製品	D	Ⅵ	ホルンフェルス	3.9	3.1	0.65	7.0	風化あり
279	341	尖頭状石器	D	Ⅵ	ホルンフェルス	5.3	3.2	1.3	17.4	
280	289	石錐	D	Ⅵ	チャート	2.4	1.85	0.65	2.6	
281	291	石錐			黒曜石	1.8	1.45	0.7	1.2	
282	290	石錐	C	Ⅴ	黒曜石(姫島)	1.25	(1.25)	0.35	(0.3)	側面欠損
283	288	石錐	D	Ⅵ	砂岩	3.45	(2.2)	0.65	(3.6)	側面欠損
284	323	石錐	D	Ⅴ	ホルンフェルス	3.1	5.3	0.95	10.6	擦痕あり
285	317	スクレイパー	C	Ⅵ	頁岩	4.25	3.25	1.5	15.3	
286	319	スクレイパー	D	Ⅴ	砂岩	3.9	3.15	0.9	11.1	
287	320	スクレイパー	C	Ⅵ	砂岩	3.9	3.7	1.1	15.0	
288	321	スクレイパー	D	Ⅵ	ホルンフェルス	5.15	5.3	1.9	48.1	
289	318	スクレイパー	D	Ⅵ	ホルンフェルス	4.0	2.75	1.2	9.6	
290	322	2次加工ある剥片	D	Ⅵ	安山岩	6.55	5.95	2.2	87.2	
291	314	石核	D	Ⅵ	砂岩	4.65	9.55	7.65	369.0	
292	315	石核	D	Ⅵ	頁岩	4.3	6.4	2.5	76.5	
293	316	石核	B	Ⅵ	ホルンフェルス	4.8	8.1	2.25	69.2	
294	313	石核	D	Ⅵ	砂岩	3.2	9.65	6.05	210.0	
295	43	石錘	D	Ⅵ	砂岩	9.7	7.15	2.35	223.0	
296	312	石錘	D	Ⅵ	砂岩	8.85	6.75	2.2	185.0	
297	311	石錘	C	Ⅵ	砂岩	8.25	6.3	2.25	146.8	被熱
298	11	石斧	D	Ⅵ	ホルンフェルス	15.6	9.5	4.3	790.3	
299	12	石斧	D	Ⅵ	砂岩	12.4	5.95	2.8	277.1	
300	24	石斧	D	Ⅵ	尾鈴山酸性岩	16.55	9.15	4.25	710.6	
301	23	石斧	D	Ⅵ	堆積岩	9.55	5.0	2.05	141.7	
302	303	敲石	D	Ⅵ	砂岩	5.9	3.95	2.85	91.7	
303	304	敲石	D	Ⅵ	砂岩	7.35	6.15	3.05	192.9	
304	41	敲石	D	Ⅵ	砂岩	8.6	8.4	4.1	343.0	
305	306	敲石	B	Ⅵ	砂岩	7.5	6.25	3.85	223.0	
306	310	磨石	D	Ⅵ	砂岩	7.6	7.7	3.6	326.0	
307	305	敲石	D	Ⅴ	砂岩	10.25	8.5	4.4	545.0	
308	309	磨石	C	Ⅵ	砂岩	8.25	8.15	3.45	324.0	
309	308	磨石	D	Ⅵ	砂岩	10.55	6.3	4.7	476.0	
310	42	磨石	D	Ⅵ	尾鈴山酸性岩	10.45	9.05	4.9	689.0	
311	307	磨石	D	Ⅵ	尾鈴山酸性岩	8.9	6.15	4.9	350.0	欠損

（　）の値は残存値を示す

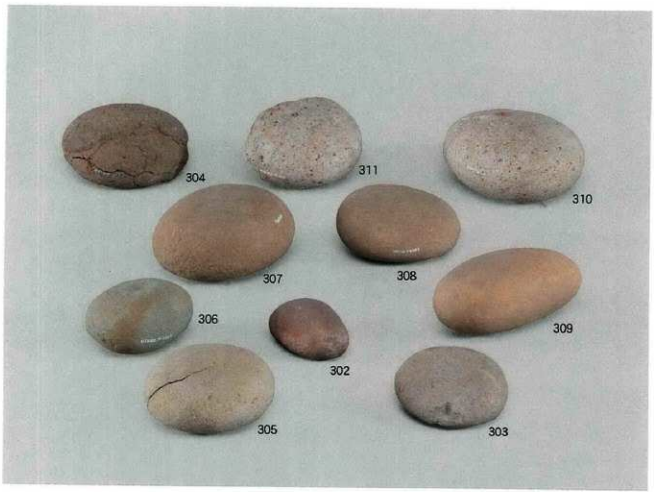
写真図版21　縄文時代早期遺物包含層出土石器①

写真図版22　縄文時代早期遺物包含層出土石器②



写真図版23　縄文時代早期遺物包含層出土石器③

写真図版24　縄文時代早期遺物包含層出土石器④



写真図版25　縄文時代早期遺物包含層出土石器⑤

第Ⅲ章　その他の調査について

今回の調査では、アカホヤ火山灰層上面における遺構検出と並行して、アカホヤ火山灰層がすでに削平されている範囲での縄文時代前期以降の遺構確認作業を実施した。結果、アカホヤ火山灰層残存範囲ではピット等が数個検出されたのみであったが、削平範囲においては土坑２基、溝状遺構１条、道路状遺構１条が検出された。

SE－1

霧島・小林軽石層が露出していた調査区の南端で検出された。幅約１m、長さは約30m（東端は調査区外へとまだ続いていた）、検出面からの深さは約0.2mであった。断面形状や埋土、また近隣遺跡で確認された同様の事例からみて、現代まで利用されていた畑の境界溝だと推測される。

SC－1

４層上面がすでに露出している範囲で検出された（検出面は４層上面）。平面プランは直径約1.8mの円形で、検出面からの深さは約0.9mであった。遺構内からは、砂岩製磨石や剥片、又、縄文土器（縄文時代早期のものや後晩期のもの）や弥生土器などが出土したが、遺構の用途や使用時期を決定づけるような遺物は確認出来なかった。埋土中から採取された炭化物で放射性炭素年代測定分析を実施し、使用時期を推定するためのデータ〈3290±40年BP〉が一応得られているものの、遺構の時期や性格を断定するには至っていない。

SC－2

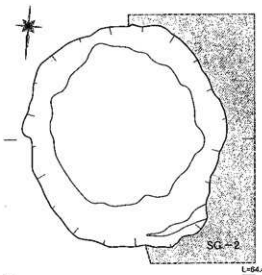
SC－1同様４層上面がすでに露出している範囲で検出された（検出面は４層上面）。平面プランは直径約1.5mの円形で、検出面からの深さは約1.1mであった。遺構内からは、砂岩製石核や剥片、縄文土器（縄文時代早期のものや後晩期のもの）や弥生土器などが出土したが、遺構の用途や使用時期を決定づけるようなものは確認出来なかった。

SC－3

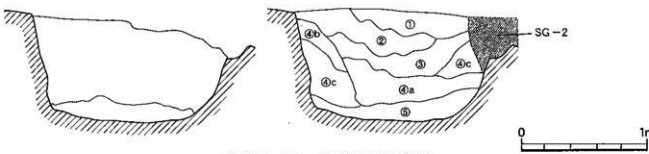
４層から霧島・小林軽石層までが露出していた調査区の南端で検出された。表土を剥ぎ取る際に、遺構の存在に即座に気付かなかったために、遺構の一部を破壊する状態で検出してしまった。この遺構は、台地下の集落へと下る崖面に向かい南北に構築されていて、先述のSE－1とはちょうど直交するように切り合っていた。遺構は北に向かうほど次第に浅くなり、南端から約11mのところで無くなっているが、これは現代耕作による削平の影響を受けているからであり、本来はもう少し台地上へと続いていたものと推測される。

道路状遺構の幅は最大で約4.6m、深さは最深部（崖側）で1.9m、底部幅は0.2～0.3mであった。断面形状はおおむねＶ字状で、底部では直径0.2～0.5m・深さ0.1mの円形の窪みが検出された。また、その円形の窪み付近では鉄分による赤化範囲が確認されており、これは水の流れの影響によるものだと考えられる。

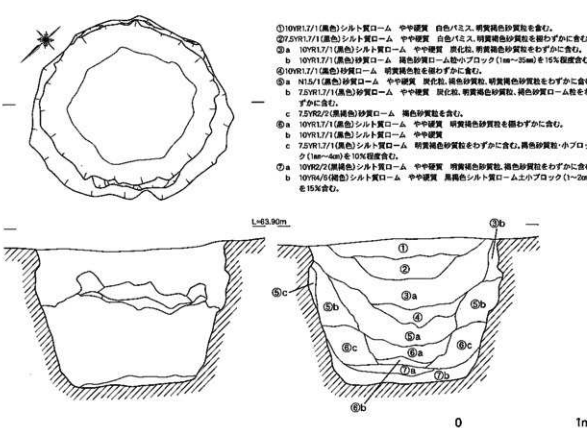
遺構の性格については、立地及びその形状からみて、台地への昇り降りの際に使用されていた道路であり、今回検出された範囲は、台地下の集落からみて台地への坂道をのぼりきったところにあたる。構築された時期については、埋土中より桜島文明軽石が確認されていることから、中世半ば頃にはすでに作られていたものと考えられるが、共伴遺物等が無いためこれ以上の検証は今のところ不可能である。尚、埋土中より採取された炭化物で放射性炭素年代測定を実施したところ、使用時期〈3300±40年BP〉を推定するためのデータが一応得られたが、予想される使用時期とかけ離れており、また、隣接するSC－1のデータと近い値であることから、今回は本遺構の使用時期決定の根拠としては使用しなかった。



①10YR1.7/1(黒色)砂質ローム　白色パミスをわずかに含む。明黄褐色砂質粒を僅わずかに含む。
②2.5YR2/1(黒色)シルト質ローム　やや硬質　明黄褐色砂質粒を5%程度含む。黒色砂質ロームブロック(1~5cm)を20%程度含む。
③①とほぼ同質、炭化粒をわずかに含む。
④a　7.5YR1.7/1(黒色)シルト質ローム　やや硬質　炭化粒、白色パミス、明黄褐色砂質粒をわずかに含む。
　b　7.5YR2/2(黒褐色)シルト質ローム　やや硬質　炭化粒、明黄褐色砂質粒、褐色砂質ローム粒をわずかに含む。
　c　7.5YR1.7/1(黒色)　シルト質ローム　明黄褐色砂質粒をわずかに含む。
⑤7.5YR2/2(黒褐色)シルト質ローム　やや硬質　炭化粒をわずかに含む。　黒色土小ブロック(1~3cm)を5%程度、褐色土粒・小ブロック(1cm以下から2cm)を15%程度含む。

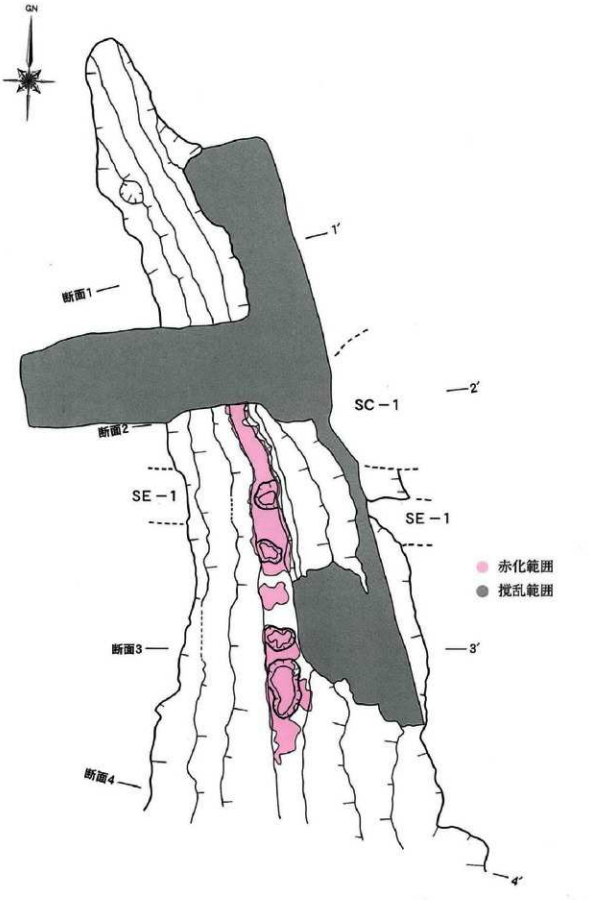


第40図　SC－1実測図 (S=1/30)

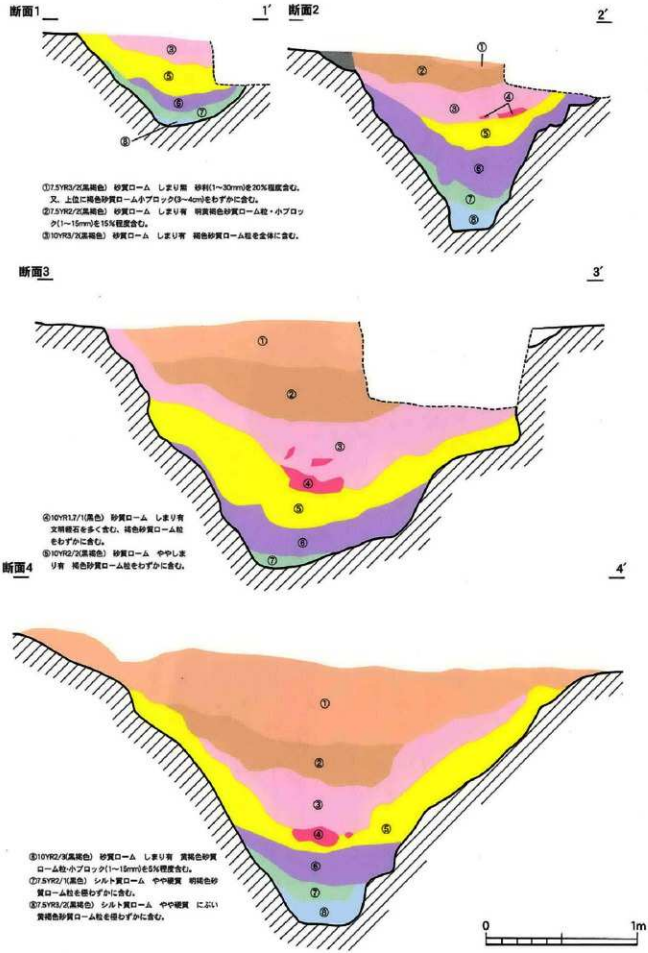


①10YR1.7/1(黒色)シルト質ローム　やや硬質　白色パミス、明黄褐色砂質粒を含む。
②7.5YR1.7/1(黒色)シルト質ローム　やや硬質　白色パミス、明黄褐色砂質粒を僅わずかに含む。
③a　10YR1.7/1(黒色)シルト質ローム　やや硬質　炭化粒、明黄褐色砂質粒をわずかに含む。
　b　10YR1.7/1(黒色)砂質ローム　褐色砂質ローム粒小ブロック(1cm~25cm)を15%程度含む。
④10YR1.7/1(黒色)砂質ローム　明黄褐色粒を僅わずかに含む。
⑤a　N1.5/1(黒色)砂質ローム　やや硬質　炭化粒、褐色砂質粒、明黄褐色砂質粒をわずかに含む。
　b　7.5YR1.7/1(黒色)砂質ローム　やや硬質　炭化粒、明黄褐色砂質粒、褐色砂質ローム粒をわずかに含む。
　c　7.5YR2/2(黒褐色)砂質ローム　褐色砂質粒を含む。
⑥a　10YR1.7/1(黒色)シルト質ローム　やや硬質　明黄褐色砂質粒を僅わずかに含む。
　b　10YR1.7/1(黒色)シルト質ローム　やや硬質
　c　7.5YR1.7/1(黒色)シルト質ローム　明黄褐色砂質粒をわずかに含む。黄色砂質粒・小ブロック(1mm~4cm)を10%程度含む。
⑦a　10YR2/2(黒褐色)シルト質ローム　やや硬質　明黄褐色砂質粒、褐色砂質粒をわずかに含む。
　b　10YR4/6(褐色)シルト質ローム　やや硬質　黒褐色シルト質ローム土小ブロック(1~2cm)を15%含む。

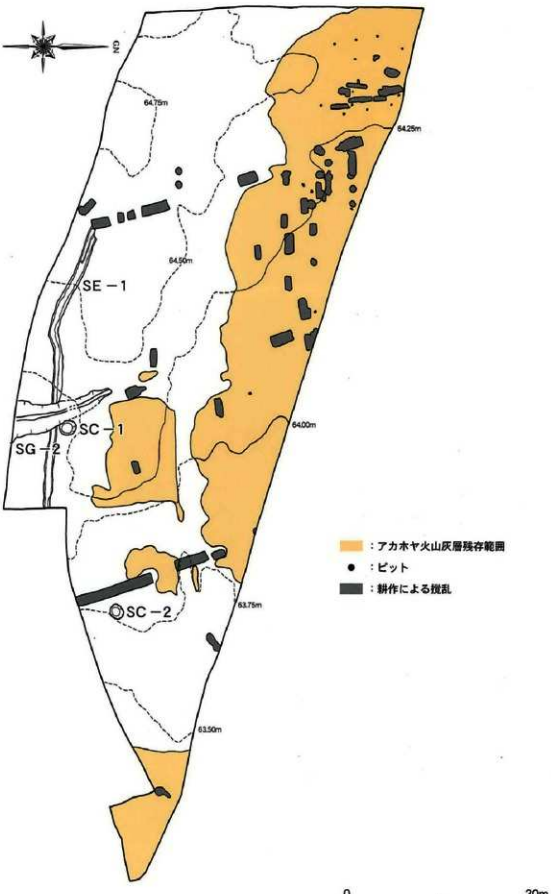
第41図　SC－2実測図 (S=1/30)



第42図　SG－2実測図【平面図】(S=1/50)



第43図　SG－2実測図【土層断面図】(S=1/25)



第44図　遺構配置図【縄文時代早期以外】（S=1/400）

SE－1（西から）

SG－2①《断面確認》（北から）

SG－2②《断面確認》（北から）

写真図版26　SE－1・SG－2

SG－2③《床面》（南から）

SG－2④《床面アップ》（北から）

SG－2⑤（南から）

写真図版27　SG－2

SG－2⑥（北西から）

SC－1①《埋土》（北から）

SC－1②（北から）

写真図版28　SG－2・SC－1